YAMAHA

DSP AV アンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX750



取扱説明書

ヤマハ DSP AV アンプ DSP-AX750 をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■ 保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

もくじ

はじめに

接続する

再生前の基本設定

基本的な再生のしかた

いろいろな再生のしかた

視聴空間をより細かく設定する（セットメニュー）



音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

△ 気をつけなければならない内容を表しています。たとえば⚠は「感電注意」を示しています。	⃠ してはいけない行為を表しています。たとえば⃠は「分解禁止」を示しています。	● 必ずしなければならない行為を表しています。たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

プラグを抜く	**下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。** • 異常なにおいや音がする。 • 煙が出る。 • 内部に水や異物が混入した。 そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。
禁止	**電源コードを傷つけない。** • 重いものを上に載せない。 • ステープルで止めない。 • 加工をしない。 • 熱器具には近づけない。 • 無理な力を加えない。 芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。
水ぬれ禁止	**本機を下記の場所には設置しない。** • 浴室･台所･海岸･水辺 • 加湿器を過度にきかせた部屋 • 雨や雪、水がかかるところ 水滴の混入により火災や感電の原因となります。
接触禁止	**雷がなりはじめたらアンテナや電源プラグには触れない。** 感電の原因となります。
分解禁止	**分解･改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。** 火災や感電の原因となります。 修理･調整は販売店にご依頼ください。
禁止	**放熱のため本機を設置する際には：** • 布やテーブルクロスをかけない。 • じゅうたん･カーペットの上には設置しない。 • あおむけや横倒しには設置しない。 • 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。 本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

禁止

本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因となります。

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

必ず行う

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。

必ず行う

必ずAC100V(50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。

禁止

本機にものを入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因となります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。

⚠ 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。

禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。

必ず行う

再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

移動をするときには、本機(または接続機器)の電源スイッチを切り、すべての接続をはずす。

- 接続機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴力障害の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

必ず行う

電池は極性表示（プラス⊕とマイナス⊖）に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。

感電の原因となることがあります。

注意

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

それらの製品とはできるだけ離して設置してください。

必ず行う

電源プラグは確実にコンセントに根もとまで差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱・火災の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

必ず行う

屋外アンテナ工事には、技術と経験が必要です。販売店にご依頼ください。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。

必ず行う

重いので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行う。

けがの原因となることがあります。

本機の電源を切っても（電源コードをコンセントから抜いた状態）、選んだ入力ソース、音量、セットメニューの設定、プリセットされた放送局などは本機に記憶されています。ただし、電源を切った状態が1週間以上続くと、記憶内容が消去されることがあります。

DOLBY DIGITAL・EX PRO LOGIC IIx

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

dts 96/24 ES NEO:6

DTS、DTS-ES Extended Surround、Neo:6およびDTS 96/24はデジタルシアターシステムズの登録商標です。

AAC

AACロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

本機の特長

高音質ハイパワー7チャンネルアンプを搭載

◆ 定格出力(6Ω、20Hz～20kHz、歪率0.09%)
フロントL/Rチャンネル:　100W + 100W
センターチャンネル:　100W
サラウンドL/Rチャンネル:　100W + 100W
サラウンドバックL/Rチャンネル:100W + 100W

最新の音響技術に対応

◆ ドルビープロロジックデコーダー
ドルビープロロジックIIデコーダー
ドルビープロロジックIIxデコーダー
◆ ドルビーデジタルデコーダー
ドルビーデジタルEXデコーダー
◆ DTSデコーダー
DTS-ESマトリクス6.1
ディスクリート6.1デコーダー
DTS Neo:6デコーダー
DTS 96/24デコーダー
◆ AACデコーダー

高機能FM/AMステレオチューナー

◆ 40局まで登録可能なプリセット選局
◆ オートプリセット選局
◆ プリセットされた放送局のエディット機能内蔵

「シネマDSPエンジン」内蔵のマルチモードDSP

◆ シネマDSP: ヤマハが誇るDSPと、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTS(デジタルシアターシステムズ)、AAC(アドバンストオーディオコーディング)の融合
◆ ヘッドホン使用時でも音場効果を体感できる「サイレントシアター」
◆ 少ないスピーカーでもマルチチャンネル再生を仮想的に再現できるバーチャルシネマDSP機能

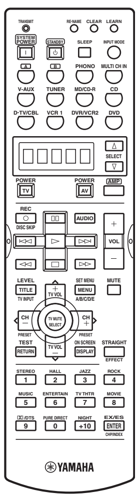
AVアンプにふさわしい多機能構成

◆ 192-kHz/24-bit D/Aコンバーター
◆ 視聴空間最適化システム「YPAO」(Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer)搭載
◆ 音場効果を最大限に引き出すための設定ができるセットメニュー
◆ DVDオーディオやスーパーオーディオCDにも対応できるMULTI CH IN(マルチチャンネル入力)端子
◆ OPTICAL(光デジタル)入出力端子とCOAXIAL(同軸デジタル)入力端子
◆ スリープタイマー
◆ メーカーコード設定/ラーニング機能付リモコン
◆ Sビデオ入出力端子
◆ コンポーネントビデオ入出力端子
◆ D4ビデオ入出力端子
◆ ビデオコンバージョン機能:
ビデオ(コンポジットビデオ)⇔Sビデオ
Sビデオ→コンポーネントビデオ

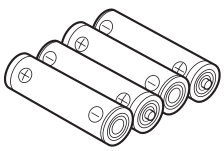
付属品を確認する

同梱されている付属品を確認してください。

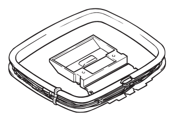
リモコン



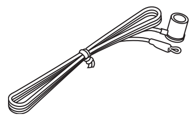
単4乾電池(4本)



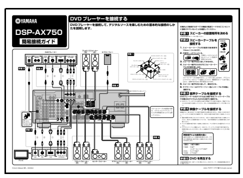
AMループアンテナ



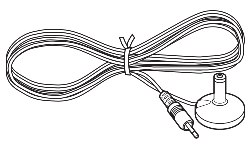
FM簡易アンテナ



簡易接続ガイド

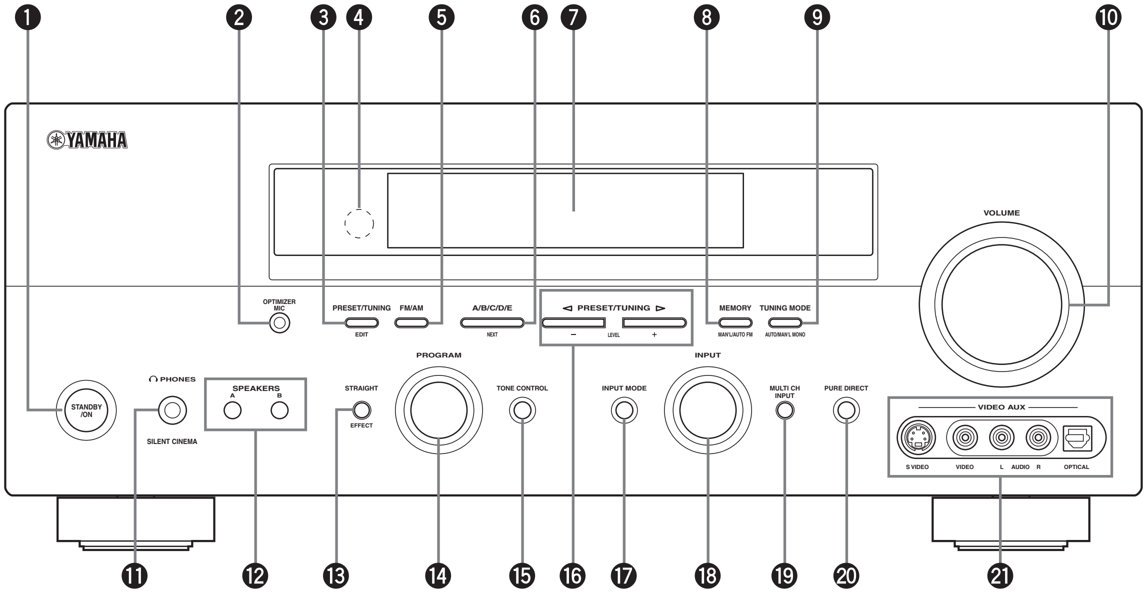


オプティマイザーマイク



各部の名称とはたらき

フロントパネル（前面）



❶ STANDBY/ON スイッチ
本機の電源の入/待機(スタンバイ)を切り替えます。なお、電源を入れてから数秒間は音が出ません。
スタンバイ状態になっている間も、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量ながら電力を消費します。

❷ OPTIMIZER MIC 端子
自動音場補正用のマイクを接続します（☞34ページ）。

❸ PRESET/TUNING（EDIT）キー
FM/AM 放送を聴くときに、あらかじめ登録（プリセット）した局から選ぶか、または周波数から選局するかを切り替えます。また、登録した局の入れ替えもこのキーで行います（☞54ページ）。

❹ リモコン受光窓
リモコンからの信号を受信します。

❺ FM/AM キー
FM 放送、AM 放送の受信を切り替えます。

❻ A/B/C/D/E キー
FM/AM放送を聴くときに、プリセットグループ(A、B、C、D、E）を選びます。

NEXT キー
入力が TUNER 以外のとき、音量を調節するスピーカーを選びます。

❼ ディスプレイ
プログラムの名称や、設定などを表示します (☞14ページ)。

❽ MEMORY（MAN’L/AUTO FM）キー
受信した放送局を登録（プリセット）します。3 秒以上押すと、オートプリセット機能を利用できます (☞51 ページ)。

❾ TUNING MODE（AUTO/MAN’L MONO）キー
自動（オート）選局または手動（マニュアル）選局を選びます。自動選局する場合は、このキーを押して AUTO インジケーターを点灯させます。手動選局する場合は、AUTO インジケーターを消します (☞43ページ)

❿ VOLUME コントロール
本機の音量を調節します。
録音用のOUT(REC)端子の音量には影響しません。

⓫ PHONES（SILENT CINEMA）端子
ヘッドホンを接続します。ヘッドホンを接続すると、すべてのスピーカーから音が出ませんので、深夜に音声を楽しむ際は、ヘッドホンをお使いくださるようおすすめします。ヘッドホン接続時は、「サイレントシアター」で音声を楽しめます（☞48ページ）。

⓬ SPEAKERS A/Bスイッチ
FRONT A/B SPEAKERS端子に接続されたフロントL/Rスピーカーのうち、音声を出力するフロントL/Rスピーカーを選びます（☞40ページ）。

⓭ STRAIGHT/EFFECTキー
音場効果を加えない音声と、音場効果を加えた音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力された信号を対応するデコーダーで忠実にデコードし、音声効果をかけずに再生します（☞50ページ）。

⓮ PROGRAM セレクター
音場プログラムを選ぶときに回します（☞41ページ）。
また、TONE CONTROLキー（⓯）を押したあとは、スピーカーから出力される音声の音色を調節します。

⓯ TONE CONTROLキー
フロントL/Rスピーカー、センタースピーカー、プレゼンススピーカー、およびサブウーファーから出力される音声の音色を調節するときに押します（☞45ページ）。

⓰ PRESET/TUNING ◁/▷ キー
聴く放送局を選びます。1～8の登録（プリセット）した局から選ぶか、周波数で選局します（☞43、53ページ）。

LEVEL －/＋キー
入力がTUNER以外のとき、NEXTキー（❻）で選んだスピーカーの音量を調節します。

⓱ INPUT MODEキー
ひとつの機器をデジタル/アナログ両方の入力端子に接続している場合に、入力信号の優先順位を設定します（☞81ページ）。

⓲ INPUTセレクター
再生する入力ソースを選びます（☞45ページ）。

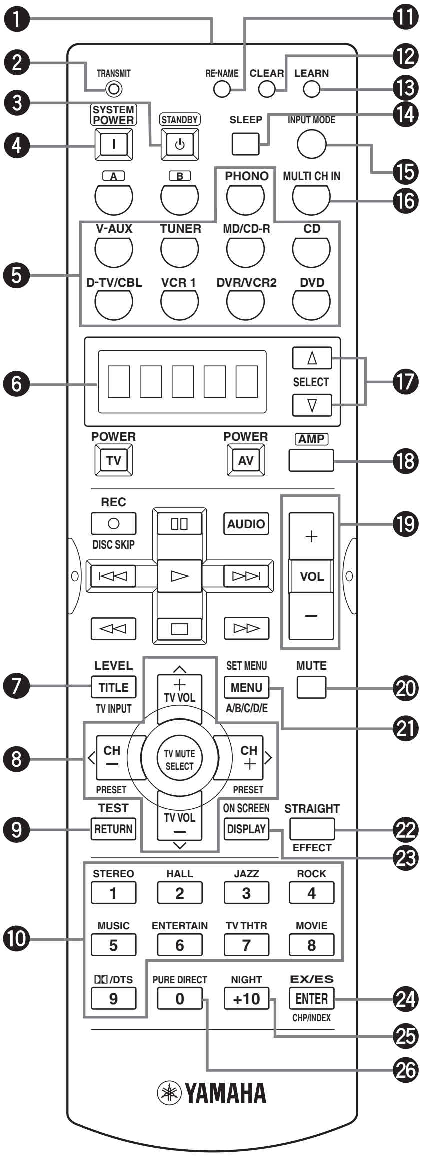
⓳ MULTI CH INPUTキー
本機背面のMULTI CH INPUT端子に入力されている信号を選びます。INPUTセレクターやリモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりも優先されます（☞45ページ）。

⓴ PURE DIRECTキー
原音に忠実に高音質で再生するピュアダイレクトモードのオン/オフを切り替えます（☞49ページ）。

㉑ VIDEO AUX端子
ゲーム機やビデオカメラなどを接続する予備入力端子です。
この端子に入力された信号を再生するには、INPUTセレクターやリモコンの入力選択キーで、「V-AUX」を選んでください。

リモコン

本機の操作について説明します。
このリモコンを使って、他の機器も操作することができますが、他の機器の操作については、75ページをご覧ください。



❶ 赤外線送受信部
リモコン操作用の赤外線信号を送受信します（☞32ページ）。

❷ TRANSMIT（トランスミット）インジケーター
リモコン操作用の赤外線信号を送信しているときに点灯します。

❸ STANDBY（スタンバイ）キー
本機の電源をスタンバイ（待機状態）にします。

❹ SYSTEM（システム） POWER（パワー）キー
本機の電源を入れます。

❺ 入力選択キー
再生する入力ソースを選びます（☞45ページ）。入力ソースにあわせて、リモコンの機能も切り替わります。

❻ リモコンディスプレイ
操作できる機器の名前を表示します。

❼ LEVEL（レベル）キー
各スピーカー（フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R、サブウーファー、プレゼンスL/R）の音量調節モードに切り替えます。

❽ カーソル（∧/∨/＜/＞）キー /SELECT（セレクト）キー
カーソルキーでセットメニューや音場プログラムパラメーターを選んだり、設定します。
SELECTキーで選んだセットメニューや音場プログラムパラメーターを決定します。

PRESET（プリセット） CH（チャンネル） ＋/－キー
入力選択キーでTUNERを選んでいる場合、1～8の登録（プリセット）局番号を選びます（☞53ページ）。

❾ TEST（テスト）/RETURN（リターン）キー
スピーカーの音量を調節するためのテストトーンを出力します（☞83ページ）。
セットメニュー設定時は、ひとつ前のメニュー画面/表示に戻ります（☞56ページ）。

⑩ 音場プログラムキー
音場プログラムを選びます（☞41ページ）。

プリセット番号キー（1～8）
入力選択キーでTUNERを選んでいる場合、1～8の登録（プリセット）局番号を選びます。

⑪ RE-NAME（リネーム）ボタン
リモコンディスプレイに表示される入力ソース名を変更するときに押します（☞78ページ）。

⑫ CLEAR（クリア）ボタン
設定したメーカーコードや記憶（ラーニング）させた機能などを消去するときや、変更した機器名を元に戻すときに押します（☞79ページ）。

⑬ LEARN（ラーン）ボタン
メーカーコードなどを設定するときや、他の機器のリモコン信号を記憶（ラーニング）させるときに押します（☞71、76ページ）。

⑭ SLEEP（スリープ）キー
スリープタイマーを設定します（☞85ページ）。

⑮ INPUT MODE（インプット モード）キー
ひとつの機器をデジタル/アナログ両方の入力端子に接続している場合に、入力信号の優先順位を設定します（☞81ページ）。

⑯ MULTI CH IN（マルチチャンネル イン）キー
本機背面のMULTI CH INPUT端子に入力されている信号を選びます。本体のINPUTセレクターやリモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりも優先されます（☞45ページ）。

⑰ SELECT（セレクト） ∆/∇ キー
入力ソースを切り替えずに、リモコンで操作したい機器を切り替えたいときに押して、操作したい機器の名前をリモコンディスプレイに表示させます。

⑱ AMP（アンプ）キー
リモコンの機能を本機の操作用に切り替えます。

⑲ VOL（ボリューム） ＋/－キー
本機の音量を調節します。
録音用のOUT(REC)端子の音量には影響しません。

⑳ MUTE（ミュート）キー
音量を下げます。音量を下げている間は、ディスプレイのMUTEインジケーターが点滅します。
もう1度押すと、元の音量に戻ります（☞45ページ）。

㉑ SET MENU（セット メニュー）キー
セットメニューの設定に入るときに押します。

A/B/C/D/Eキー
入力選択キーでTUNERを選んでいる場合、プリセットグループ（A、B、C、D、E）を選びます（☞53ページ）。

㉒ STRAIGHT/EFFECT（ストレート/エフェクト）キー
音場効果を加えない音声と、音場効果を加えた音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力された信号を対応するデコーダーで忠実にデコードし、音声効果をかけずに再生します（☞50ページ）。

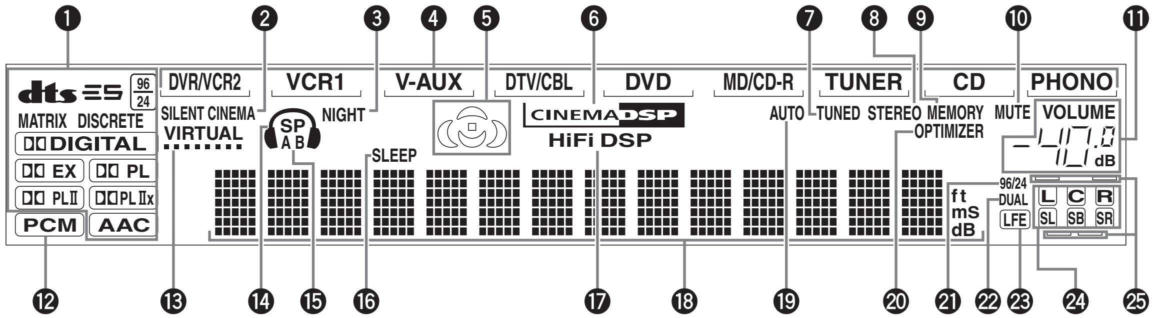
㉓ ON SCREEN（オン スクリーン）キー
テレビ画面に本機の操作状態や音場プログラムの設定内容などを表示します。押すたびに表示モードが切り替わります（☞33ページ）。

㉔ EX/ESキー
ドルビーデジタルやDTSなどの5.1チャンネルソフトを6.1または7.1チャンネルで再生するときに押します（☞46ページ）。

㉕ NIGHT（ナイト）キー
夜間など、小音量で音声を楽しむときに押します（☞50ページ）。

㉖ PURE DIRECT（ピュア ダイレクト）キー
原音に忠実に高音質で再生するピュアダイレクトモードのオン/オフを切り替えます（☞49ページ）。

ディスプレイ



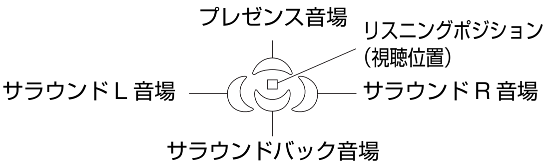
❶ **デコーダーインジケーター**
本機内蔵のデコーダーが作動しているときにそれぞれのインジケーターが点灯します。

❷ **SILENT CINEMAインジケーター**
ヘッドホンを接続して「サイレントシアター」で再生しているときに点灯します（☞48ページ）。

❸ **NIGHTインジケーター**
ナイトリスニングモードで再生しているときに点灯します（☞50ページ）。

❹ **入力ソースインジケーター**
現在選んでいる入力ソースの名前の下に、⎯⎯⎯ が点灯します。

❺ **音場インジケーター**
DSP音場プログラムを使っているときに、本機がどの音場を使って再生しているかを表示します。



❻ **CINEMA DSPインジケーター**
CINEMA DSP音場プログラムを使って再生しているときに点灯します。

❼ **TUNEDインジケーター**
FM/AM放送を受信したときに点灯します。

❽ **STEREOインジケーター**
自動（オート）で放送局を選んでいるときに、電波の強いFMステレオ放送を受信すると点灯します。

❾ **MEMORYインジケーター**
放送局を登録（プリセット）するときに点滅します。

❿ **MUTEインジケーター**
MUTEキーを押して音量を下げている間点滅します（☞45ページ）。

⓫ **VOLUMEインジケーター**
現在の音量を表示します。

⓬ **PCM インジケーター**
PCM信号を再生しているときに点灯します。

⓭ **VIRTUALインジケーター**
バーチャルシネマDSPモードで再生しているときに点灯します（☞48ページ）。

⓮ **ヘッドホンインジケーター**
PHONES（SILENT CINEMA）端子にヘッドホンを接続しているときに点灯します。

⓯ **SP A/Bインジケーター**
選んでいるフロントL/Rスピーカー（A、B）を表示します（☞40ページ）。

⓰ **SLEEPインジケーター**
スリープタイマーが作動しているときに点灯します（☞85ページ）。

⓱ **HiFi DSPインジケーター**
HiFi DSP音場プログラムを使って再生しているときに点灯します。

⓲ マルチインフォメーションディスプレイ
音場プログラムの名前や設定値、放送局の周波数やプリセット番号を表示します。

⓳ AUTO（オート）インジケーター
自動（オート）で放送局を選ぶときに点灯します。

⓴ OPTIMIZER（オプティマイザー）インジケーター
「AUTO SETUP」での設定が有効になっている状態で点灯します（☞34ページ）。

㉑ 96/24インジケーター
DTS 96/24信号が入力されているときに点灯します。

㉒ DUAL（デュアル）インジケーター
ドルビーデジタル、DTS および AAC の DUAL MONOまたはMULTI MONOなど、音声多重モノラルのデジタル信号が入力されているときに点灯します。

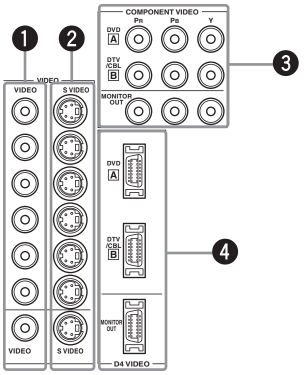
㉓ LFE（エルエフイー） インジケーター
入力されているデジタル信号に、LFE（低域効果音）チャンネルが含まれているときに点灯します。

㉔ 入力信号チャンネルインジケーター
入力されているデジタル信号に含まれているチャンネル数に合わせて点灯します。

㉕ プレゼンス / サラウンドバックインジケーター
セットメニュー「SPEAKER LEVEL」（☞59ページ）でスピーカーの音量を調節している間、それぞれ設定されているスピーカーの本数に合わせて点灯します。

ビデオ端子について

本機は４種類のビデオ端子を装備しています。



❶ ビデオ端子
コンポジットビデオ信号を伝送します。

❷ Sビデオ端子
Sビデオ信号を伝送します。
Sビデオ入出力端子がある機器をSビデオ端子に接続すれば、ビデオ端子（❶）よりも高画質な映像を再生できます。

❸ コンポーネントビデオ端子
コンポーネントビデオ信号を伝送します。
コンポーネントビデオ入出力端子がある機器をコンポーネントビデオ端子に接続すれば、ビデオ端子（❶）またはSビデオ端子（❷）よりもさらに高画質な映像を再生できます。

❹ D4ビデオ端子
コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比などの情報）を伝送します。

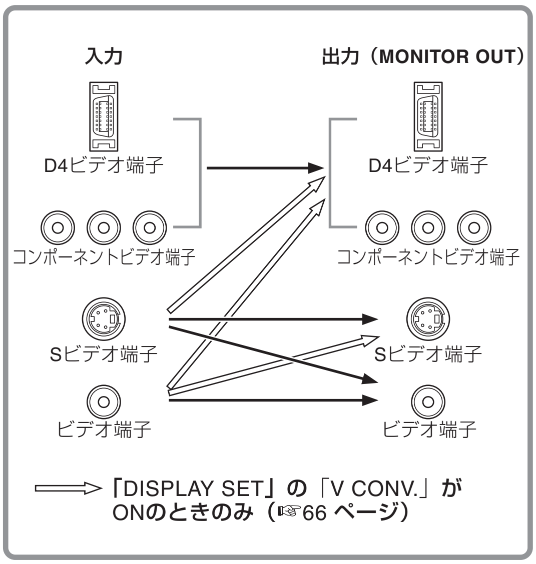
これらの端子に入力された信号は、それぞれ同じ種類のMONITOR OUT端子に出力されます。
再生機器とテレビのビデオ端子をご確認のうえ、両方に共通する端子を使って接続してください。
最良の画質でお楽しみいただくために、なるべく画質の良い端子を使って接続してください。

ヒント
- Sビデオ端子とビデオ端子の両方に信号が入力されている場合は、Sビデオ信号が優先されます。
- コンポーネントビデオ出力（MONITOR OUT）端子とD4ビデオ出力（MONITOR OUT）端子は同時に使うことができます。例えば、コンポーネントビデオ出力端子にプロジェクターを、D4ビデオ出力端子にテレビを接続して、同じ映像を両方でお楽しみいただけます。

ご注意
- 本機のSビデオ端子は、S1/S2規格には対応していません。
- D4ビデオ端子を使って接続する場合は、お使いの再生機器とテレビのD端子をご確認のうえ、D端子の規格（D1～D4）を合わせてください。
- コンポーネントビデオ入力端子とD4ビデオ入力端子の両方を同時に接続することはできません。お使いの再生機器をご確認のうえ、どちらか片方を接続してください。

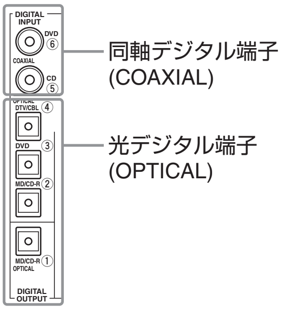
■ ビデオ信号の変換について

本機では下記のように入力されたビデオ信号を別の方式に変換して出力することができます（ビデオコンバージョン機能）。
- Sビデオ信号は、コンポジットビデオ信号に変換され、ビデオ出力（MONITOR OUT）端子にも出力されます。
  また、セットメニュー「DISPLAY SET」の「V CONV.」の設定により、コンポーネントビデオ信号に変換され、コンポーネントビデオ出力端子および　D4　ビデオ出力端子にも出力されます（☞56、66ページ）。
- コンポジットビデオ信号は、セットメニュー「DISPLAY SET」の「V CONV.」の設定により、Sビデオ信号に変換され、Sビデオ出力端子にも出力されます（☞56、66ページ）。
  また、変換されたSビデオ信号は、さらにコンポーネントビデオ信号に変換され、コンポーネントビデオ出力端子およびD4ビデオ出力端子にも出力されます。



デジタル端子について

本機はデジタル信号を直接伝送できる光デジタル（OPTICAL）端子と同軸デジタル端子（COAXIAL）を装備しています。



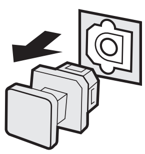
- デジタル端子はPCM、ドルビーデジタル、DTS、AAC兼用です。
- 同軸デジタル入力端子と光デジタル入力端子に、同時にデジタル信号が入力されると、同軸デジタル入力端子に入力された信号が優先されます。
- 本機のデジタル入力端子は、以下のサンプリング周波数に対応しています。
  - 32kHz: BSアナログ放送（Aモード）
  - 44.1kHz: CD、MD
  - 48kHz: DVD（48kHzモード）、BSアナログ放送（Bモード）、BS/地上波デジタル放送
  - 96kHz: DVD（96kHzモード）
- 本機のデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しています。デジタル入力端子に入力されたデジタル信号は、デジタル出力端子からのみ出力されます。

ご注意

本機の光デジタル端子は、EIAJ 規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使うと、正常に作動しないことがあります。

防塵キャップについて

光ファイバーケーブルを接続する場合は、光デジタル端子についているキャップを抜いてから接続してください。抜いたキャップは大切に保管し、端子を使わないときには、ほこりの侵入を防ぐため必ずキャップを差し込んでください。

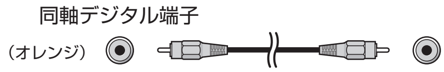


接続に使うケーブルの種類

お使いの機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

■ 音声

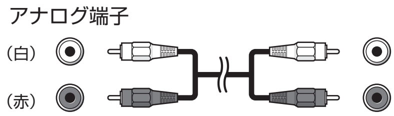
同軸ケーブル



光ファイバーケーブル

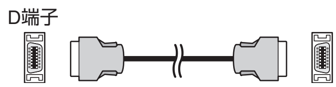


ステレオピンケーブル

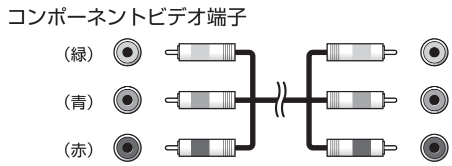


■ 映像

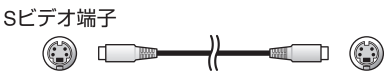
D端子ケーブル



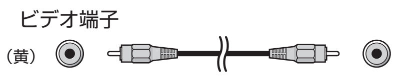
コンポーネントビデオケーブル



Sビデオケーブル



ビデオ用ピンケーブル



ご注意

接続する前に、本機および接続する機器の電源コードが、ACコンセントに接続されていないことをご確認ください。

スピーカーを接続する

スピーカーを設置する

本機はフロント L / R スピーカー（2 本）、センタースピーカー（1 本）、サラウンドL/Rスピーカー（2本）、サラウンドバック L / R スピーカー（2 本）の 7 スピーカーシステムを使って最良の音場効果が得られるよう設計されています。
また、プレゼンスL/Rスピーカーやサブウーファーを使うと、より豊かな音場効果を再現できます。

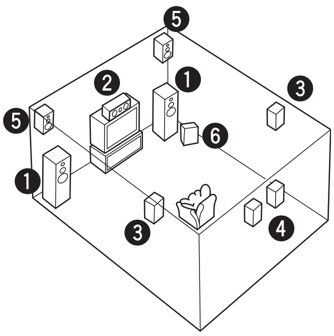
■ スピーカーを選ぶポイント

- 各スピーカーの再生音色が異なると、移動する人物の声など（音色）が不自然に変化することがあります。できるだけ、メーカーや音色の揃ったスピーカーを使うことをおすすめします。
- 各スピーカーは同一メーカーが同じ時期に販売しているシリーズのものを揃えることをおすすめします。

ご注意

スピーカーは防磁型スピーカーをお使いください。防磁型以外のスピーカーをお使いになりますと、テレビの画像が乱れることがあります。特に画面近くに設置するセンタースピーカーやサブウーファーには、防磁型スピーカーをお使いください。防磁型スピーカーをお使いの場合でも画像が乱れる場合は、テレビとスピーカーを離して設置してください。

■ 各スピーカーの役割と設置



❶フロント L / R スピーカー
フロントチャンネルの音声（ステレオ音声）と効果音を出力します。
左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーンの下辺から 1/4 位の高さが適当です。

❷センタースピーカー
会話やボーカルなど画面中央に定位する音を出力します。
フロントL/Rスピーカーの中間に設置します。テレビをお使いの場合は、画面とスピーカーの前面を揃え、テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところの中央に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーン真下の中央に設置します。

❸サラウンド L / R スピーカー
サラウンド音と効果音を出力します。
左右後方に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から 1.5 ～ 1.8m の高さが適当です。

❹サラウンドバックL/Rスピーカー
後方の効果音を出力します。
後方からスピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から 1.5 ～ 1.8m の高さが適当です。

❺プレゼンス L/R スピーカー
前方の効果音を出力します。
フロントL/Rスピーカーの外側 0.5 ～ 1.0m の範囲に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から 1.5 ～ 1.8m の高さが適当です。

❻サブウーファー
ドルビーデジタル、DTS、AAC 信号に含まれる LFE（低域効果音）信号や、低音を出力します。
前方左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内向きに設置します。

ご注意

サラウンドバックL/Rスピーカーと、プレゼンスL/Rスピーカーは同時に使えません。セットメニュー「PR/SB SELECT」の設定により、音場プログラムや再生するソースに合わせて効果的に鳴らし分けることができます（☞56、63ページ）。

スピーカーを接続する

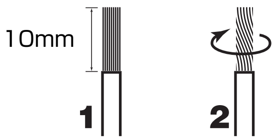
■ スピーカーケーブルを接続する

右チャンネル（R）、左チャンネル（L）、「＋」（赤）、「－」（黒）を確認して正しく接続してください。

一般的にスピーカーケーブルは、平行した２本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの１本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。

1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を、10mm ぐらいはがす。

2 芯線をしっかりとよじる。

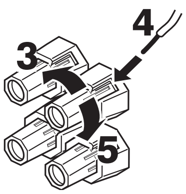


<プレゼンススピーカー以外のスピーカー>

3 スピーカー端子を左に回してゆるめる。

4 スピーカー端子のわきの穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む。

5 スピーカー端子を右に回して､締め付ける。

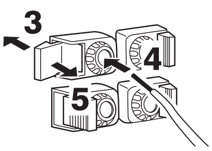


<プレゼンススピーカー>

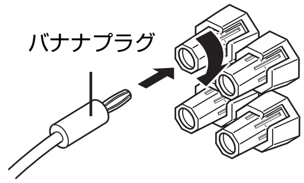
3 タブを開ける。

4 スピーカー端子の穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む。

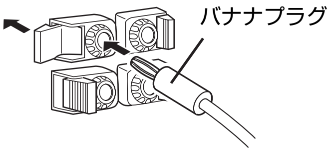
5 タブを戻して、コードを固定する。



市販のバナナプラグを使う場合
<プレゼンススピーカー以外のスピーカー>
端子を強く締めてから、差し込んでください。



<プレゼンススピーカー>
タブを開けてから、差し込んでください。



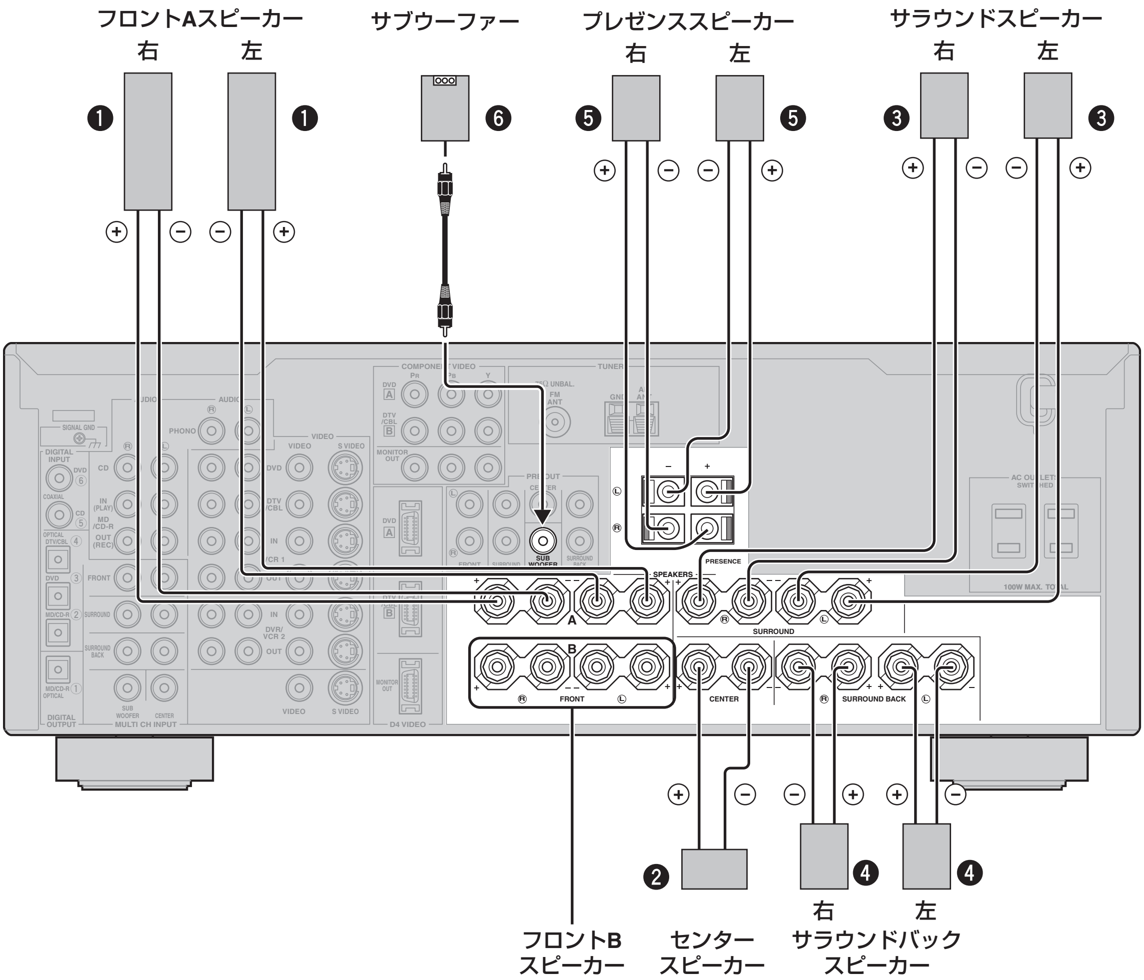
ご注意

- スピーカーは、インピーダンスが６Ω以上のものをお使いください。フロントL/RスピーカーをA、B両方の端子に接続してお使いになる場合は、１台につき12Ω以上のものをお使いください。
- スピーカーコードの芯線はしっかりよじり、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルに接触したり、＋側と－側が接触すると、保護回路が作動して電源がスタンバイ状態になることがあります。
- スピーカーの＋端子と本機の＋端子、スピーカーの－端子と本機の－端子をそれぞれ接続してください。間違えて接続すると音が不自然になります。

■ サブウーファーを接続する

ヤマハ ・アクティブサーボ・サブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーをお使いになる場合は、SUBWOOFER端子に接続します。
セットメニュー「SPEAKER SET」の設定によりフロント、センターおよびサラウンドチャンネルからの低音域の信号はSUBWOOFER端子に送られます（☞56、57ページ）。
また、ドルビーデジタル、DTS、AAC信号デコード時のLFE信号もSUBWOOFER端子に出力されます。

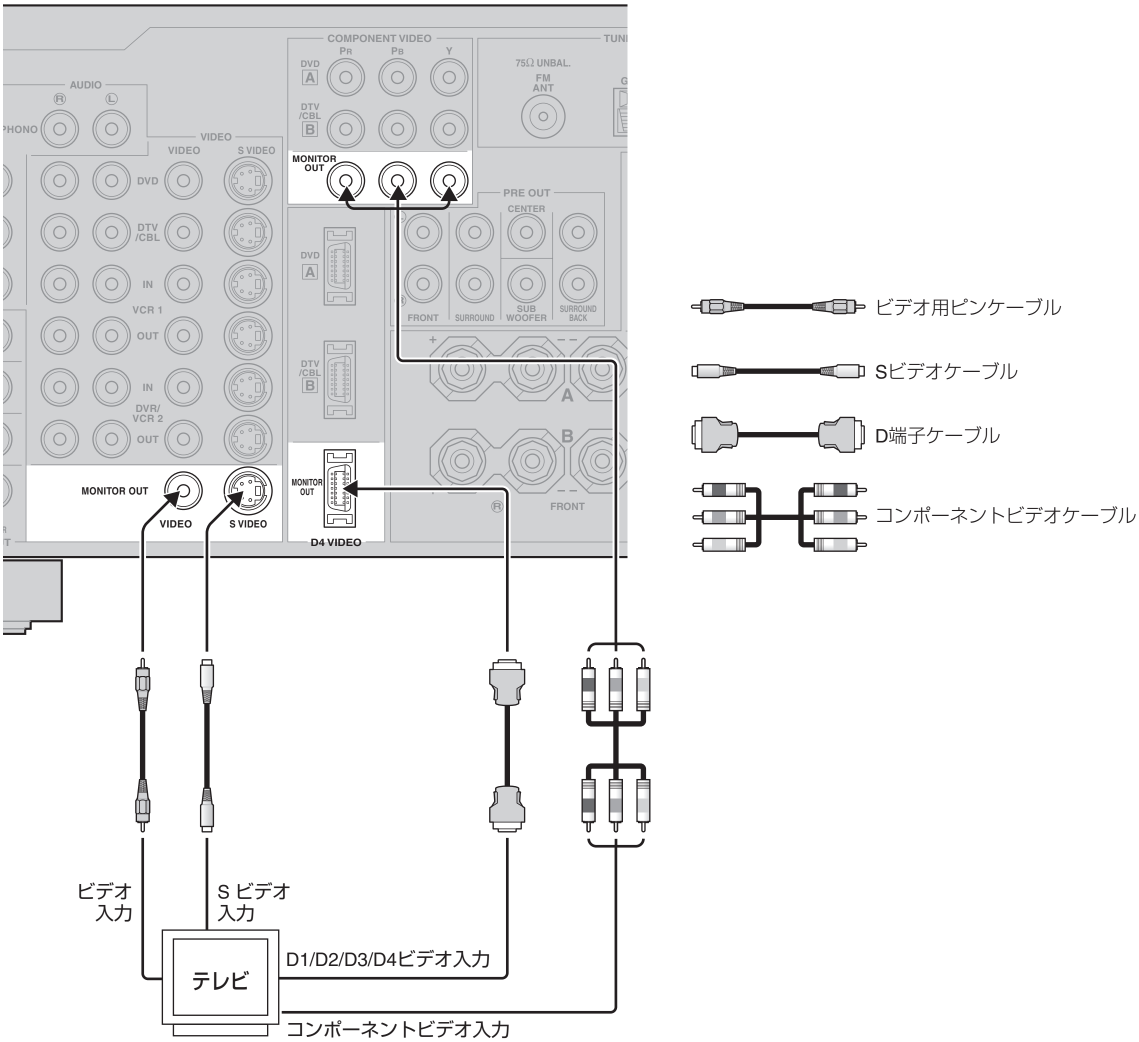
下図のようにスピーカーを接続します。
各スピーカー（❶～❻）の配置については、18ページをご覧ください。



ヒント
- フロント L/R スピーカーを 2 組設置したい場合や、もう 1 組のフロント L/R スピーカーを別の部屋に設置して音声を楽しむ場合は、FRONT B 端子に接続してください。
- サラウンドバックスピーカーを 1 台のみお使いになる場合は、SURROUND BACK（L）端子に接続してください。

テレビを接続する

テレビのビデオ入力端子を本機のMONITOR OUT端子に接続します。
お使いになるテレビに合わせて、下記のうちひとつを選んで接続してください。



再生機器を接続する

・ 左チャンネル (L)、右チャンネル (R)、入力 (IN)、出力（OUT）をご確認のうえ、正しく接続してください。
・ すべての端子を使って接続する必要はありません。お使いになる機器の端子をご確認のうえ、音声でひとつ、映像でひとつを接続してください。

ヒント

最良の画質でお楽しみいただくために、ビデオ端子はなるべく画質の良い端子を使って接続することをおすすめします。画質については、16ページをご覧ください。

ご注意

本機の入力 / 出力端子は電源を入れた状態で正常に機能します。必ず電源を入れた状態でお使いください。

■ DVD プレーヤーを接続する

音声ケーブルの接続

・ DVD プレーヤーに同軸デジタル出力端子がある場合は、本機の同軸デジタル入力（DVD）端子に接続します。
・ DVD プレーヤーに光デジタル出力端子がある場合は、本機の光デジタル入力（DVD）端子に接続します。

ヒント

DVD プレーヤーにデジタル出力端子がない場合は、アナログ音声出力端子を、本機のアナログ音声入力 (DVD) 端子に接続します。

映像ケーブルの接続

DVD プレーヤーのビデオ出力端子を、本機のビデオ入力 (DVD) 端子に接続します。

■ 衛星放送 / ケーブルテレビチューナーを接続する

音声ケーブルの接続

衛星放送 / ケーブルテレビチューナーに光デジタル出力端子がある場合は、本機の光デジタル入力（DTV/CBL）端子に接続します。

ヒント

衛星放送 / ケーブルテレビチューナーに光デジタル出力端子がない場合は、アナログ音声出力端子を、本機のアナログ音声入力 (DTV/CBL) 端子に接続します。

映像ケーブルの接続

衛星放送 / ケーブルテレビチューナーのビデオ出力端子を、本機のビデオ入力 (DTV/CBL) 端子に接続します。

■ LD プレーヤーを接続する

音声ケーブルの接続

・ LDプレーヤーにドルビーデジタルRF出力端子がある場合は、市販のRFデモジュレーターに接続してから、本機の空いている同軸デジタル入力端子に接続します。
・ LD プレーヤーに光デジタル出力端子がある場合は、本機の空いている光デジタル入力端子に接続します。

ヒント

LD プレーヤーにデジタル出力端子がない場合は、アナログ音声出力端子を、PHONO 端子以外の本機の空いているアナログ音声入力端子に接続します。

映像ケーブルの接続

LD プレーヤーのビデオ出力端子を、本機の空いているビデオ入力端子に接続します。

■ CD プレーヤーを接続する

CD プレーヤーに同軸デジタル出力端子がある場合は、本機の同軸デジタル入力（CD）端子に接続します。

ヒント

・ 同軸デジタル出力端子がない場合は、光デジタル出力端子を、本機の空いている光デジタル入力端子に接続します。この場合は、セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」で接続した端子の割り当てを変更することをおすすめします（☞56、64ページ）。
・ CD プレーヤーにデジタル出力端子がない場合は、アナログ音声出力端子を、本機のアナログ音声入力 (CD) 端子に接続します。

■ レコードプレーヤーを接続する

MM カートリッジまたは高出力型 MC カートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、そのままアナログ音声入力 (PHONO) 端子に接続します。
低出力型 MC カートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、昇圧トランスまたは MC ヘッドアンプを使用してアナログ音声入力 (PHONO) 端子に接続します。

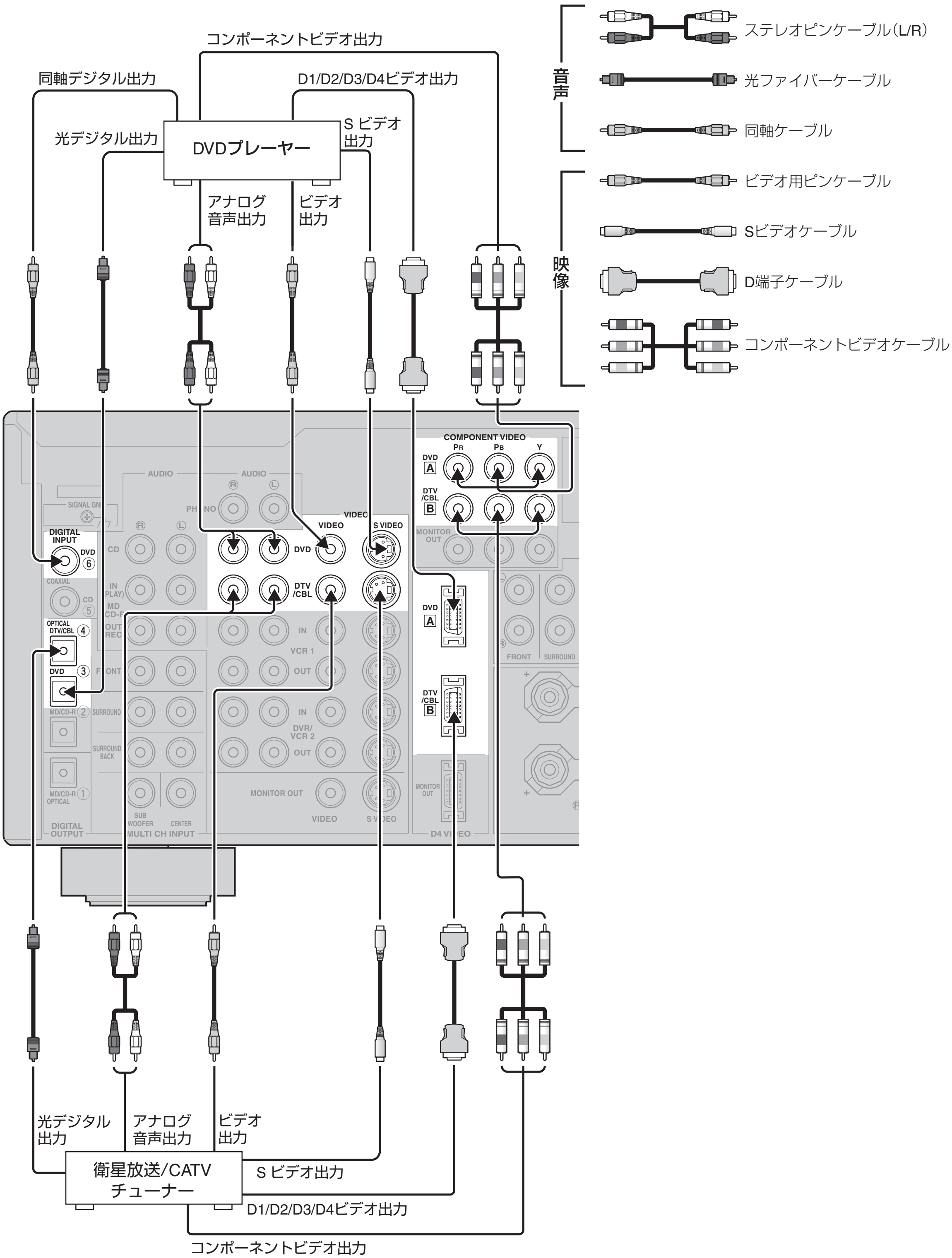
ご注意

SIGNAL GND 端子は安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減することができます。

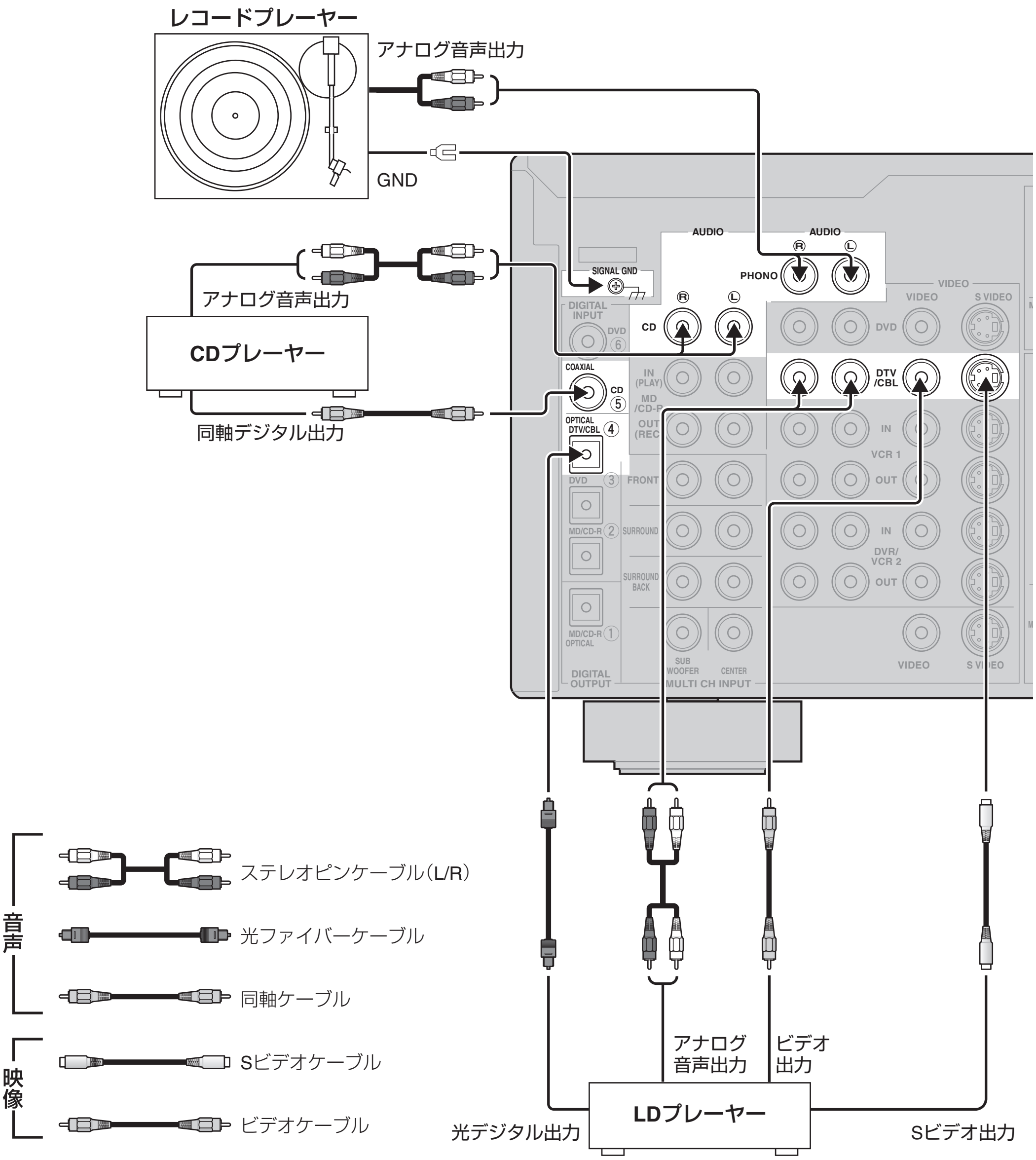
■ テレビ (音声) を接続する

テレビのアナログ音声出力端子を、PHONO 端子以外の本機の空いているアナログ音声入力端子に接続します。

DVD プレーヤー、衛星放送 /CATV チューナーを下図のように接続します。
お使いになる機器をご確認のうえ、音声でひとつ、映像でひとつを選んで接続してください。



CD プレーヤー、LD プレーヤー、レコードプレーヤーを下図のように接続します。
お使いになる機器をご確認のうえ、音声でひとつ、映像でひとつ（LD プレーヤーの場合）を選んで接続してください。



録音/録画機器を接続する

左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、入力（IN）、出力（OUT）をご確認のうえ、正しく接続してください。

ご注意

- 本機の入力/出力端子は電源を入れた状態で正常に機能します。必ず電源を入れた状態でお使いください。
- 本機に録音機器を接続している場合、本機の使用中は録音機器の電源を入れたままにしてください。録音機器の電源が切れていると、本機の音が歪むことがあります。

■ ビデオデッキを接続する

音声ケーブルの接続

- 再生する場合は、ビデオデッキのアナログ音声出力端子を、本機のアナログ音声入力 (VCR 1) 端子に接続します。
- 録画する場合は、ビデオデッキのアナログ音声入力端子を、本機のアナログ音声出力 (VCR 1) 端子に接続します。

映像ケーブルの接続

- 再生する場合は、ビデオデッキのビデオ出力端子を、本機のビデオ入力(VCR 1)端子に接続します。
- 録画する場合は、ビデオデッキのビデオ入力端子を、本機のビデオ出力(VCR 1)端子に接続します。

ヒント

2 台目のビデオデッキ等は、同様に DVR/VCR 2 端子に接続できます。

■ DVD レコーダーを接続する

音声ケーブルの接続

- 再生する場合は、DVD レコーダーのアナログ音声出力端子を、本機のアナログ音声入力 (DVR/VCR 2) 端子に接続します。
- 録画する場合は、DVD レコーダーのアナログ音声入力端子を、本機のアナログ音声出力 (DVR/VCR 2) 端子に接続します。

映像ケーブルの接続

- 再生する場合は、DVD レコーダーのビデオ出力端子を、本機のビデオ入力 (DVR/VCR 2) 端子に接続します。
- 録画する場合は、DVD レコーダーのビデオ入力端子を、本機のビデオ出力 (DVR/VCR 2) 端子に接続します。

ヒント

DVD レコーダーの音声をデジタルで楽しみたいときは、光デジタル出力端子を、本機の空いている光デジタル入力端子に接続します。この場合は、セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」で接続した端子の割り当てを変更することをおすすめします（☞56、64ページ）。

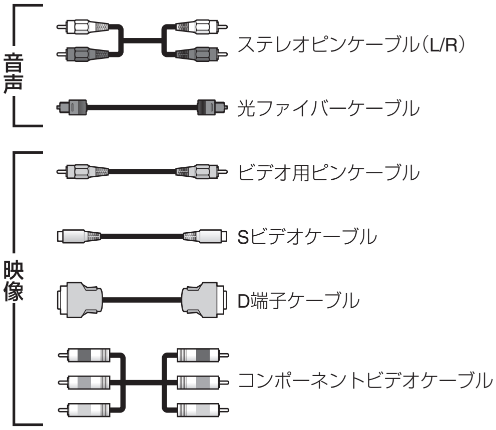
■ MD レコーダー /CD レコーダーを接続する

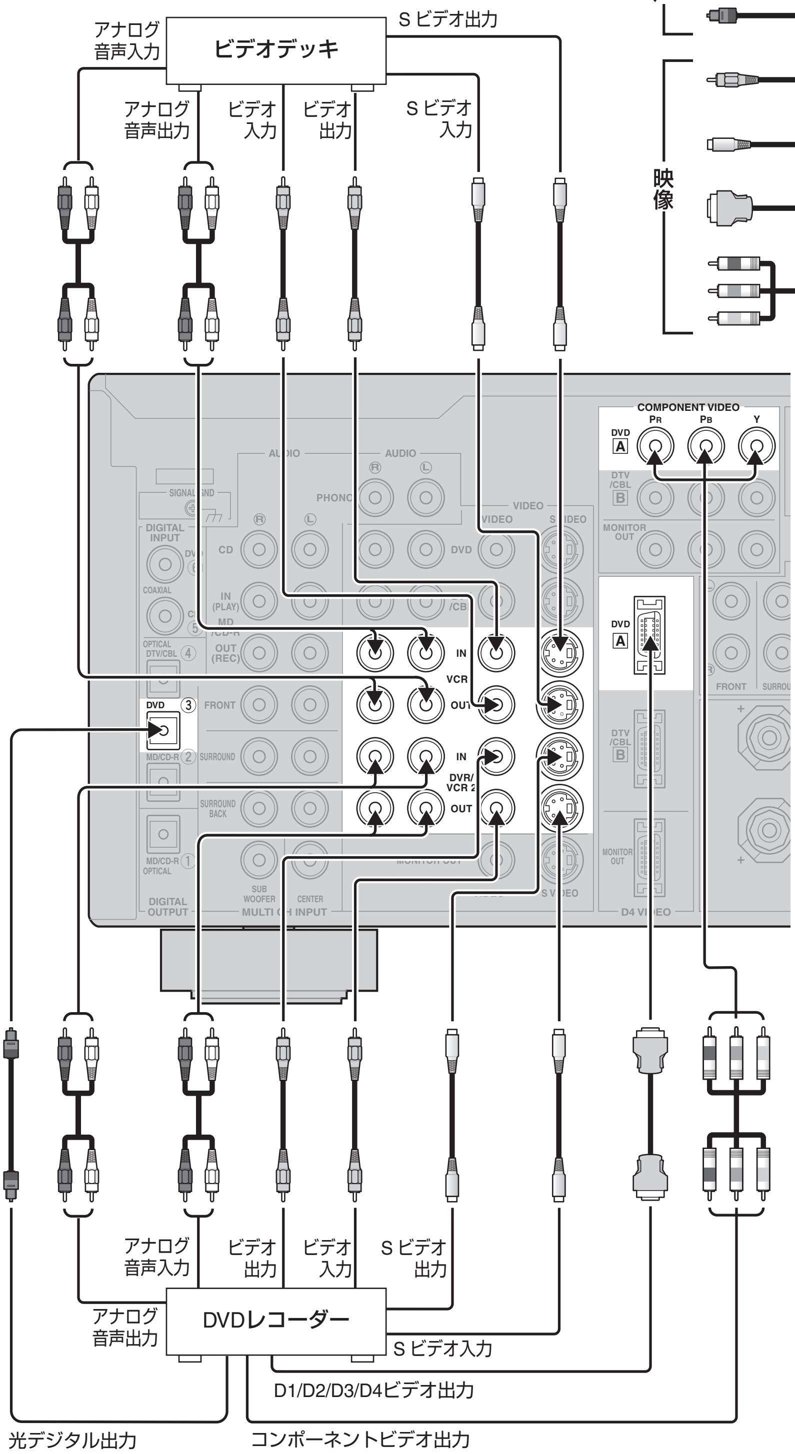
- 再生する場合は、MD レコーダー /CD レコーダーの光デジタル出力端子を、本機の光デジタル入力 (MD/CD-R) 端子に接続します。
- 録音する場合は、MD レコーダー /CD レコーダーの光デジタル入力端子を、本機の光デジタル出力 (MD/CD-R) 端子に接続します。

ヒント

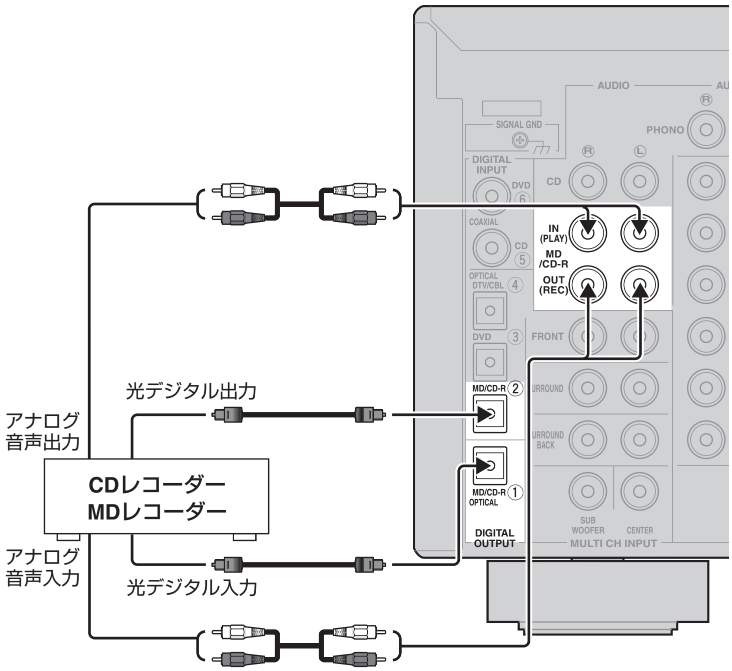
- MDレコーダー/CDレコーダーにデジタル入出力端子がない場合は、オーディオ入出力端子を、本機のアナログ音声入出力 (MD/CD-R) 端子に接続します。
- カセットデッキを接続する場合は、同様にアナログ音声入出力 (MD/CD-R) 端子に接続します。

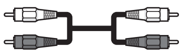
ビデオデッキ、DVD レコーダーを下図のように接続します。
お使いになる機器をご確認のうえ、音声でひとつ、映像でひとつを選んで接続してください。





CD レコーダー /MD レコーダーを下図のように接続します。
お使いになる機器をご確認のうえ、アナログまたはデジタルどちらかを選んで接続してください。

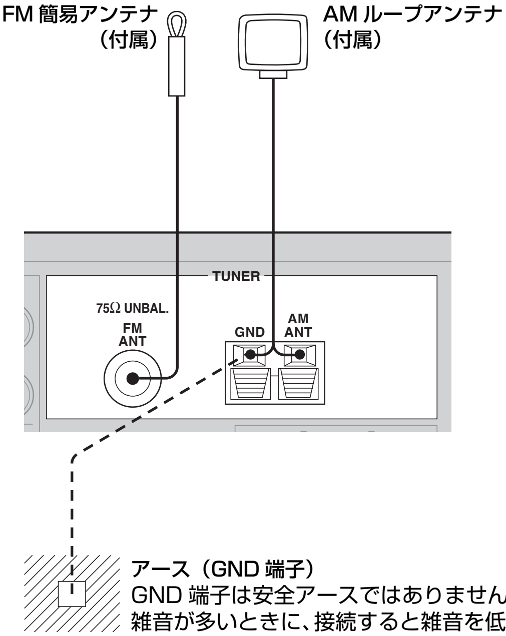



ステレオピンケーブル(L/R)


光ファイバーケーブル

アンテナを接続する

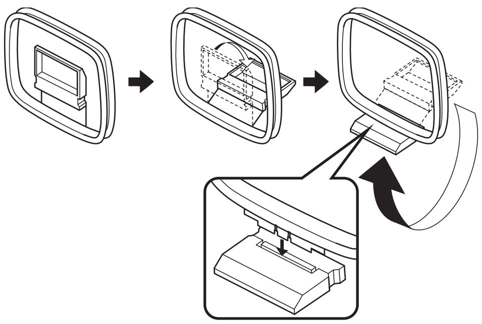
本機には、AMループアンテナおよびFM簡易アンテナが付属しています。付属のアンテナでうまく受信できない場合は、屋外アンテナを接続してください。



アース（GND端子）
GND端子は安全アースではありません。雑音が多いときに、接続すると雑音を低減することができます。アースは市販のアース棒か銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

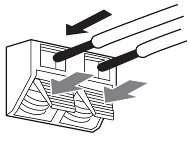
AMループアンテナを接続する

1 アンテナをアンテナスタンドに取り付ける。



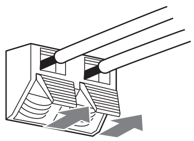
2 AM ANT端子とGND端子のレバーを押し込んだ状態で、AMループアンテナのコードをAM ANT端子とGND端子に差し込む。

コードに極性はありません。



3 レバーを放して、コードを固定する。

コードを軽く引いて、正しく固定されたかどうか確認してください。



ヒント
- 受信がうまくいかない場合は、アンテナを左右に回し受信状態が最も良くなる方向に向けてください。
- 放送を良好に受信するためには、屋外アンテナを設置することをおすすめします。詳しくは、本機をお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ご注意
- AMループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AMループアンテナは必ず接続しておいてください。

FM簡易アンテナを接続する

付属のFM簡易アンテナをFM ANT端子に接続してください。

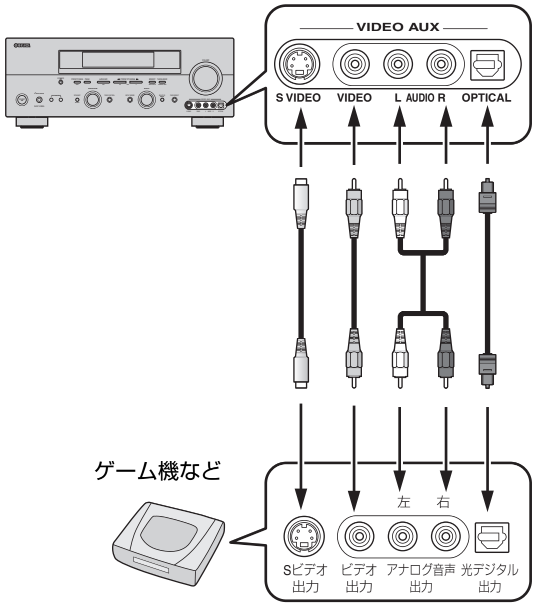
FM屋外アンテナを接続するときは

市販のF型コネクターを使って、アンテナの同軸ケーブルをFM ANT端子に接続します。詳しくは、屋外アンテナをお買い求めの販売店にご相談ください。

その他の機器を接続する

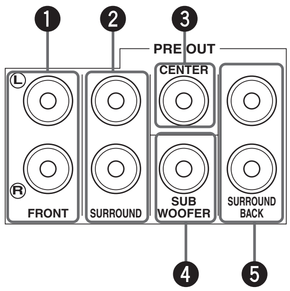
ゲーム機やビデオカメラなどを接続する

フロントパネル（前面）のVIDEO AUX端子に接続します。



外部パワーアンプを接続する

スピーカー出力をパワーアップするために外部パワーアンプ（プリメインアンプ）をお使いになる場合や、お手持ちのアンプをお使いになる場合などは、PREOUT端子と接続します。



❶ FRONT（フロント）端子

フロントL/Rチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、フロントL/Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

❷ SURROUND（サラウンド）端子

サラウンドL/Rチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、サラウンドL/Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

❸ CENTER（センター）端子

センターチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、センタースピーカーを駆動させる場合に使います。

❹ SUBWOOFER（サブウーファー）端子

ヤマハ・アクティブサーボ・サブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーをお使いになる場合は、この端子に接続します。
フロント、センター、サラウンドおよびサラウンドバックチャンネルからの低音信号が出力されます。また、ドルビーデジタル、DTSやAAC信号に含まれるLFE信号も、この端子に出力されます。

❺ SURROUND BACK（サラウンド バック）端子

サラウンドバックL/Rチャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを接続して、サラウンドバックL/Rスピーカーを駆動させる場合に使います。

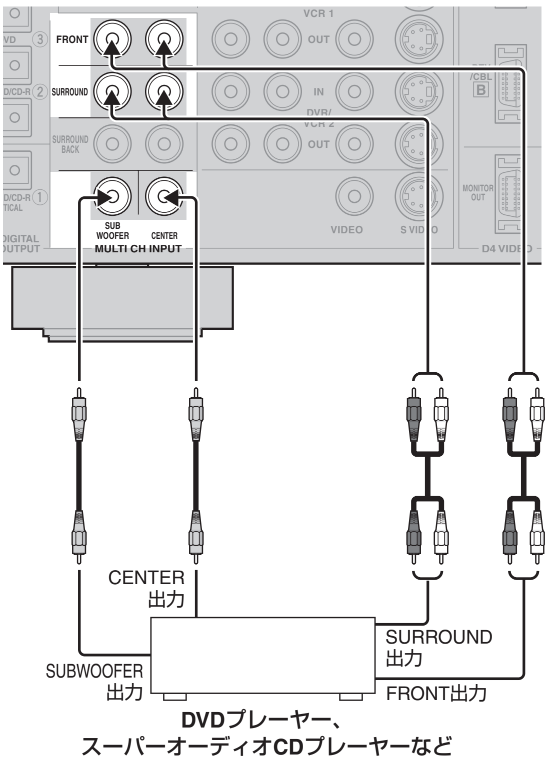
ご注意

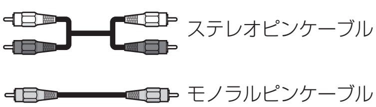
- 外部パワーアンプへ出力するためにRCAピンプラグをPREOUT端子に接続したときは、対応するスピーカー端子を使わないでください。また接続する外部パワーアンプの音量は最大にしてください。
- セットメニュー「ZONE SET」をZONE Bに設定して、SPEAKERS AスイッチをOFFにした場合、FRONT端子以外のPREOUT端子には信号が出力されません（☞68ページ）。
- セットメニュー「SPEAKER SET」の設定によっては、SUBWOOFER端子から出力されない信号もあります（☞57ページ）。

マルチチャンネル出力端子が ある機器を接続する

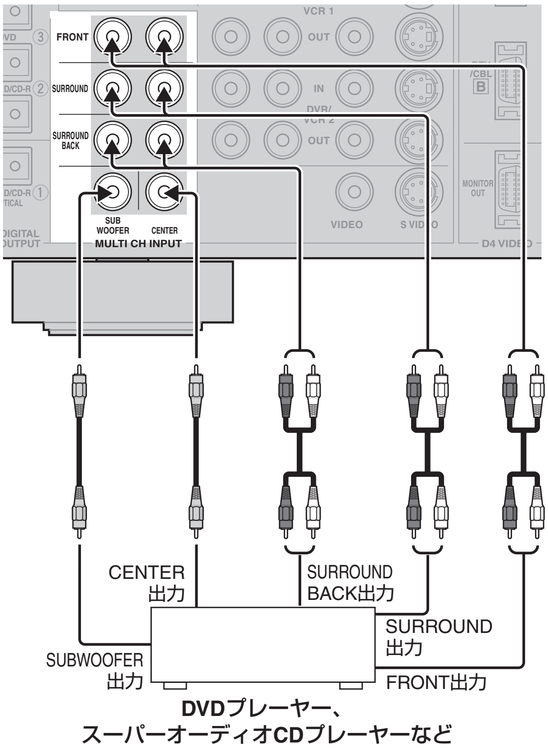
DVD プレーヤーやスーパーオーディオ CD プレーヤーなど、マルチチャンネル出力端子がある機器をMULTI CH INPUT 端子に接続します。

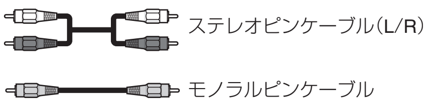
■ 6チャンネル音声を入力する場合





■ 8チャンネル音声を入力する場合

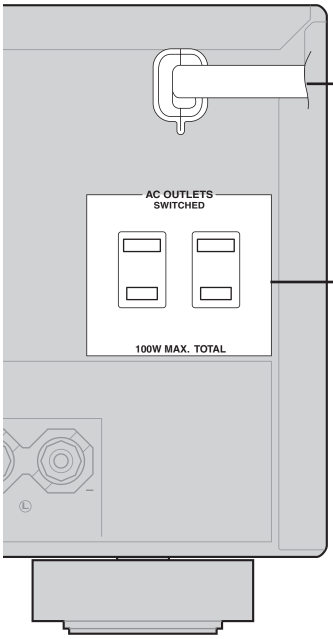




ご注意

- MULTI CH INPUT 端子から入力した信号には、本機の音場効果はかかりません。
- ヘッドホン使用時には、フロントL/R チャンネルの音声のみヘッドホンに出力されます。

電源コードを接続する



AC アウトレット

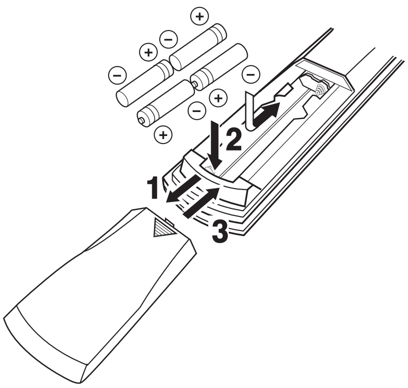
外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントで、本機のSTANDBY/ONスイッチと連動しています。合計で消費電力 100W までのオーディオ機器を接続し、電源を供給することができます。
接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

電源コード

すべての接続が終了したら、家庭用 AC100V、50/60Hz の AC コンセントに電源コードのプラグを接続します。
接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

リモコンを準備する

■ リモコンに乾電池を入れる



1 **リモコンの裏ぶたの▽マークを押しながら、電池カバーを取りはずす。**

2 **付属の単４乾電池（４本）を、リモコンの電池ケース内の表示にあわせて、プラス（＋）とマイナス（－）の向きを間違えないように、正しく入れる。**

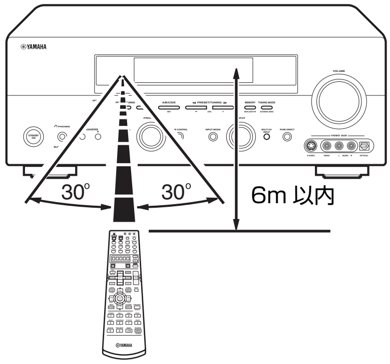
3 **裏ぶたを閉じる。**

ご注意

- リモコンで操作しづらくなったり、キーを押してもTRANSMITインジケーターが光らない場合は、乾電池が消耗しています。このような場合は、すべての乾電池を新しいものに交換してください。
- 新しい乾電池と、古い乾電池を混ぜて使用しないでください。新しい乾電池の寿命を縮めたり、古い乾電池から液が漏れることがあります。
- 乾電池には、形状が同じでも性能が異なるものがあります。種類の異なる乾電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。
- 使い切った乾電池は、すぐに電池ケースから取り出してください。乾電池が破裂したり、乾電池から液が漏れることがあります。
- 使い切った乾電池は、自治体の条例または取り決めにしたがって破棄してください。
- 乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して破棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 電池を外したまましばらく（2分以上）放置したり、消耗した乾電池をそのまま入れておくと、リモコンに設定したメーカーコードなどのメモリー内容が消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、メーカーコードを設定しなおしてください。

■ リモコンの取り扱い

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。



ヒント

リモコンでうまく操作できないときは、以下のことを確認してください。

- 本体のリモコン受光窓が、布などで覆われていませんか？
  ⇒布などを取り除いてください。
- 本体のリモコン受光窓に、直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯など）が当たっていませんか？
  ⇒照明の向きを変えるか、本体を置く場所を変えてください。
- 乾電池が消耗していませんか？
  ⇒すべての電池を新しいものに変えてください。

ご注意

- リモコンを落としたり、強い衝撃を与えないでください。
- 水やお茶をこぼさないでください。
- 冷暖房器具のそばなど、極端に温度が低くなったり高くなるところや、風呂場など、湿度が高くなるところには置かないでください。

操作内容をテレビに表示する（オンスクリーン表示）

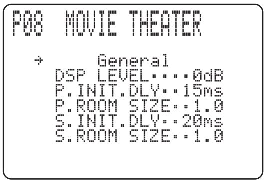
本機にテレビを接続すると、本機の操作内容などをテレビ画面に表示させることができます。
本体のディスプレイ表示に比べて、項目や設定値などが見やすく表示されるので、セットメニューや音場プログラムパラメーターを設定する際に便利です。

表示の種類

オンスクリーン表示には次の３種類があります。

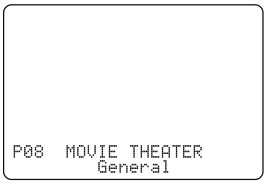
フル表示

音場プログラムのパラメーターが、常にテレビ画面に表示されます。
入力を切り替えるときや音量を調節するときは、これらの操作内容がテレビ画面の下側に数秒間表示されます。



ショート表示

本体のディスプレイと同じ内容（操作状態）が、テレビ画面の下に数秒間表示されたあと、消えます。



表示OFF

テレビ画面の下に「DISPLAY OFF」が表示されたあと、消えます。ON SCREENキー以外のキーを操作しても何も表示されません。

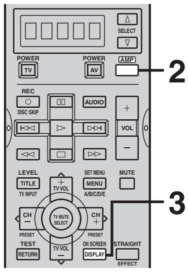
ヒント

- 映像信号が入力されているときは、映像に重ねて表示されます。
- セットメニューやテストトーンを使っているときは、表示の種類にかかわらず、常に内容が表示されます。
- オンスクリーン表示はVCR 1 OUT端子、DVR/VCR 2 OUT端子に出力されないので、映像と一緒に録画されることはありません。
- セットメニュー「DISPLAY SET」の「CMPNT OSD」をONに設定すると、コンポーネントビデオ（MONITOR OUT）端子またはD4ビデオ（MONITOR OUT）端子からオンスクリーン表示の信号を出力することができます（☞56、66ページ）。

ご注意

- セットメニュー「DISPLAY SET」の「GRAY BACK」をOFFに設定すると、ビデオ信号が入力されていない場合は、オンスクリーン表示も表示されません（☞66ページ）。
- コンポーネントビデオ信号が入力されている場合は、ショート表示はコンポーネントビデオ（MONITOR OUT）端子からは出力されません。
- コピーガード信号が入ったビデオソフトを再生したり、ノイズの多い映像信号を再生した場合、オンスクリーン表示がぶれることがありますが、本機の故障ではありません。

表示の切り替え



1 本機とテレビの電源を入れる。

2 AMPキーを押して、AMPを選ぶ。
リモコンディスプレイに「AMP」と表示されていることを確認してください。

3 ON SCREENキーを押す。
押すごとに、表示内容がフル表示→ショート表示→表示OFF→フル表示→…の順に切り替わります。

最適な視聴空間を自動的に設定する（AUTO SETUP）

本機に搭載の「YPAO」（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）により、お使いになるスピーカーの配置や性能、お部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定することができます。スピーカーから出力されるテストトーンを、付属のマイク（オプティマイザーマイク）で拾い、自動的に測定、設定します。

設定の流れ

付属のマイクを準備する（☞34 ページ）

↓

測定を開始する（☞35 ページ）

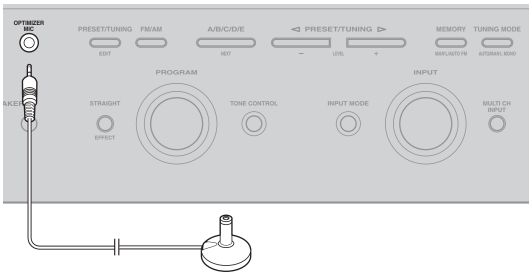
- WIRING/LEVEL:
  スピーカーの接続状態や極性をチェックします。また各スピーカーからの音量が同じになるように、それぞれのスピーカーの音量を調節します。
- DISTANCE/PHASE:
  リスニングポジションから各スピーカーまでの距離をチェックし、リスニングポジションに音が同時に届くように遅延時間を設定します。また各スピーカーの位相をチェックします。
- SIZE:
  各スピーカーとサブウーファーの音のつながりが良くなるように、各スピーカーの周波数特性をチェックし、サブウーファーのクロスオーバー / ハイカット周波数を設定します。

↓

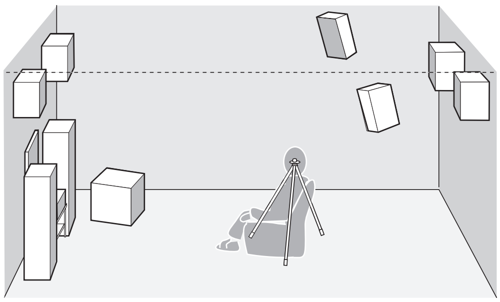
結果を確認する（☞36 ページ）

付属のマイクを準備する

本機前面のOPTIMIZER MIC 端子に、付属のオプティマイザーマイクを接続します。



オプティマイザーマイクは実際に視聴する位置（リスニングポイント）に、耳と同じ高さで設置します。耳と同じ高さに設置する場合は、水平な台にのせるか、三脚を使います。



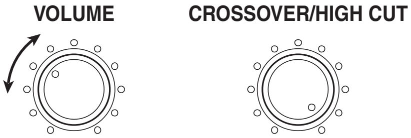
ご注意

- オプティマイザーマイクは高温に弱いため、直射日光が当たる場所や、本体の上に置かないでください。
- 設定が終わったら、オプティマイザーマイクは外してください。

測定を開始する

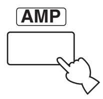
ご注意
- 各スピーカーとオプティマイザーマイクの間に、障害物がないかご確認ください。障害物があると、正しく測定できない場合があります。
- 測定中は大きなテストトーンが出ます。小さなお子様などがリスニングルームに入らないようご配慮ください。
- 測定中に声を出したり、周囲の雑音が大きいと、正しく測定できなかったり、エラー表示が出る場合があります。測定中はなるべく静かにしてください。

ヒント
サブウーファーを接続している場合は電源を入れて、下図の位置（半分よりやや小さめ）にボリュームを設定してください。また、クロスオーバー周波数/ハイカット周波数の設定機能がある場合は、クロスオーバー周波数/ハイカット周波数を最大に設定してください。

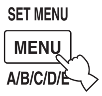


1 **本機とテレビの電源を入れる。**

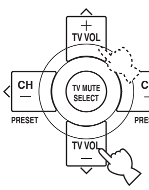
2 **AMPキーを押して、AMPを選ぶ。**
リモコンディスプレイに「AMP」と表示されていることを確認してください。



3 **SET MENUキーを押す。**

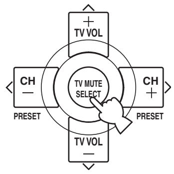


4 **∧または∨キーを押して、「AUTO SETUP」を選ぶ。**





5 **SELECTキーを押す。**



6 **∨キーを押して、「SETUP」を選ぶ。**

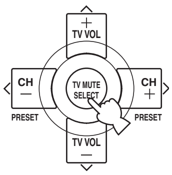
7 **＜または＞キーを押して、設定の方法を選ぶ。**

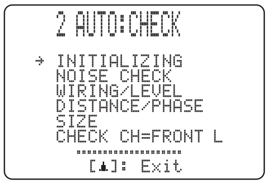
AUTO: すべての項目を自動的に設定します。
RELOAD: 前回AUTO SETUPで設定した設定値に戻します。
UNDO: 前回のAUTO SETUPでの設定を無効にします。
DEFAULT: 工場出荷時の設定に戻します。

ご注意
「RELOAD」および「UNDO」は、すでにAUTO SETUPでの設定を行っている場合にのみ選ぶことができます。

8 **∨キーを押して、「START」を選ぶ。**

9 **SELECTキーを押す。**
測定が始まります。





測定が終わると、結果が表示されます（☞36ページ）。

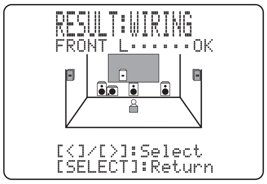
ヒント
スピーカーや、スピーカーの設置場所を変えた場合は、再測定することをおすすめします。

結果を確認する

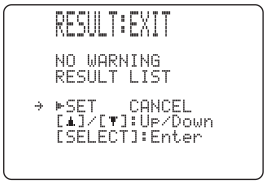
各項目の測定、設定の結果を確認することができます。また、測定中に不具合が起こった場合、その内容を確認することができます。

■ 警告メッセージがない場合

すべての測定、設定が終わると、各項目の結果画面が表示されます。



- 各項目の結果を確認する場合は、〈または〉キーを押します。各項目ごとの結果が順番に表示されます。
- 結果を確認し終わったら、SELECT キーを押します。RESULT:EXIT 画面が表示されます。



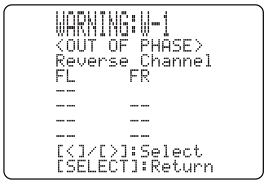
- 結果を設定に反映させるには、〈または〉キーで「SET」を選び、SELECT キーを押します。
- 結果を設定に反映させずにキャンセルするには、〈または〉キーで「CANCEL」を選び、SELECT キーを押します。

ヒント

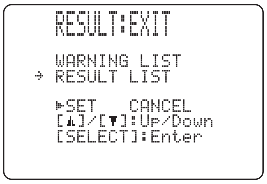
- WIRING の結果表示で、「SWFR PHASE:REV」が表示された場合は、セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUBWOOFER PHASE」が自動的に REVERSE に設定されます（☞58 ページ）。
- DISTANCE の結果表示で、ご使用のサブウーファーの特性により、サブウーファーの測定値が実際の配置距離よりも長くなることがあります。また、外部アンプ使用時にも、各スピーカーの測定値が実際の配置距離よりも長くなることがあります。

■ 警告メッセージがある場合

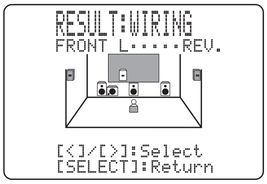
正しく設定されていない可能性がある場合は、すべての測定、設定が終わると、警告メッセージ画面が表示されます。



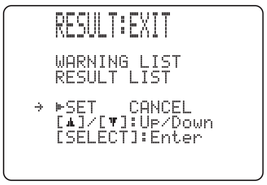
- 他の警告メッセージの内容を確認するには、〈または〉キーを押します。警告メッセージ画面が表示されます。詳細については、37 ページをご覧ください。
- 内容を確認し終わったら、SELECT キーを押します。RESULT:EXIT 画面が表示されます。



- 設定結果を確認するには、SELECT キーを押します。各項目の結果画面が表示されます。



- 各項目の結果を確認するには、〈または〉キーを押します。各項目ごとの結果が順番に表示されます。
- 結果を確認し終わったら、SELECT キーを押します。RESULT:EXIT 画面が表示されます。



- 結果を設定に反映させずにキャンセルするには、〈または〉キーで「CANCEL」を選び、SELECT キーを押します。症状をご確認のうえ、測定、設定をやり直すことをおすすめします。

表示メッセージについて

■ 測定開始時の表示

エラーメッセージ	原因	対策
Connect MIC!	付属のオプティマイザーマイクが接続されていません。	本機前面の OPTIMIZER MIC 端子に、オプティマイザーマイクを接続してください。
Unplug HP!	ヘッドホンが接続されています。	本機前面の PHONES（SILENT CINEMA）端子から、ヘッドホンを抜いてください。

■ 測定中のエラーメッセージ

SELECT キーを押すと、各メッセージの詳細を表示することができます。各メッセージの内容をご確認のうえ、表示画面で「RETRY」を選んで、測定をやり直してください。

エラーメッセージ	原因	対策
E-1:NO FRONT SP	フロント L/R スピーカーが検出されませんでした。	SPEAKERS A/B スイッチでスピーカーを正しく選んでください。
		フロント L/R スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
E-2:NO SURR.SP	サラウンド L/R スピーカーの片側しか検出されませんでした。	サラウンド L/R スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
E-3:NO PRES. SP	プレゼンス L/R スピーカーの片側しか検出されませんでした。	プレゼンス L/R スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
E-4:SBR->SBL	サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ接続している場合に、R 側から検出されました。	サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ接続する場合は、L 側端子に接続してください。
E-5:NOISY	騒音が大きすぎて、正確な測定ができません。	エアコンなど騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、遠ざけてみてください。
		周囲が静かな時間帯にやり直してみてください。
E-6:CHECK SURR.	サラウンド L/R スピーカーが接続されておらず、サラウンドバックスピーカーだけが接続されています。	サラウンドバックスピーカーを使うときは、サラウンド L/R スピーカーを接続する必要があります。正しく接続されているか確認してください。
E-7:NO MIC	測定の途中でオプティマイザーマイクが外れました。	本機前面の OPTIMIZER MIC 端子に、オプティマイザーマイクを接続してください。
E-8:NO SIGNAL	オプティマイザーマイクがテストトーンを検知していません。	オプティマイザーマイクが正しく設置されているか確認してください。
		各スピーカーが正しく接続または設置されているか確認してください。
E-9:USER CANCEL	音量の調節、消音、SPEAKERS A/B スイッチでのスピーカー切り替えなどの操作をしたため、測定がキャンセルされました。	測定の精度が落ちるため、測定中は音量を変えないでください。
		測定中はスピーカーを切り替えないでください。
E-10:OTHER ERROR	E-1 ～ E-9 以外のエラーが発生しました。	測定をはじめからやりなおしてください。

■ 測定終了後の警告メッセージ

測定は終了しましたが、測定値に問題がある可能性があり、正しく設定されていない項目がある場合に表示されます。下記をご確認のうえ、該当する項目の設定をやり直してください。
SELECT キーを押すと、各メッセージの詳細を表示することができます。

エラーメッセージ	原因	対策
W-1:OUT OF PHASE	表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。	スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
W-2:OVER 24m/80ft	表示されたスピーカーとリスニングポジションとの距離が、24m 以上あり、補正ができません。	スピーカーの設置場所を確認してください。
W-3:LEVEL ERROR	各チャンネル間の音量差が大きすぎて、補正ができません。	スピーカーの設置場所を確認してください。
		スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
		なるべく性能が似ている、または同じスピーカーを使用することをおすすめします。
		サブウーファーの音量を調節してください。

ご注意

スピーカーの種類によっては、正しく接続していても、エラーメッセージ「W-1:OUT OF PHASE」が表示されることがあります。正しく接続されていることが確認された場合は、このメッセージを無視してください。設定は正しくされています。

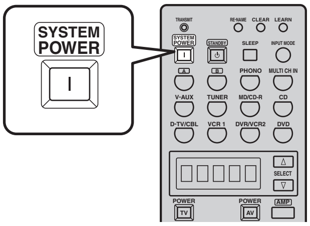
DVD を再生する

設定が終わったら、再生をはじめましょう。ここでは DVD 再生のしかたを簡単に説明します。

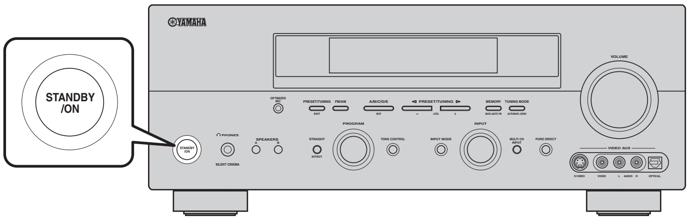
1 本機の電源を入れる。

リモコンの**SYSTEM POWERキー**、または本体の**STANDBY/ONスイッチ**を押して電源を入れます。

リモコンの操作



本体の操作



2 テレビの電源を入れる。

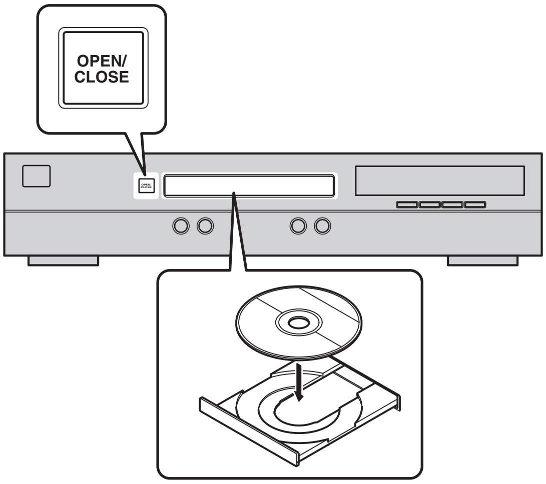
詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

3 DVD プレーヤーの電源を入れる。

詳しくは DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

4 DVD ディスクをセットする。

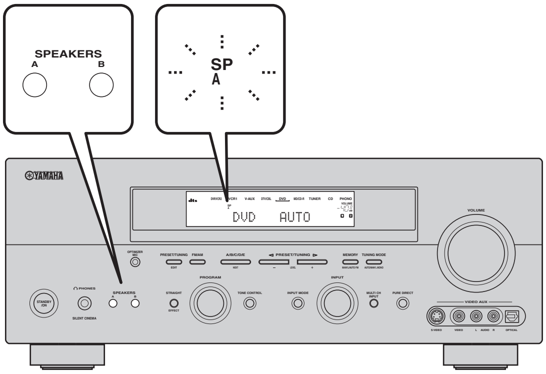
DVD プレーヤーのディスクトレイを開き、ディスクレーベル（印刷）がある面を上にして、ディスクをディスクトレイにのせます。ディスクをのせたら、ディスクトレイを閉めます。
DVD プレーヤーのディスクトレイの開閉について、詳しくは DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。



5 スピーカーを選ぶ。

本体の**SPEAKERS A/Bスイッチ**を押し、音を出すフロントL/Rスピーカーを選びます。A、B両方をお使いになる場合は、AとBをそれぞれ押します。選んでいるスピーカーは、本体ディスプレイのSP A/Bインジケーターで表示されます。

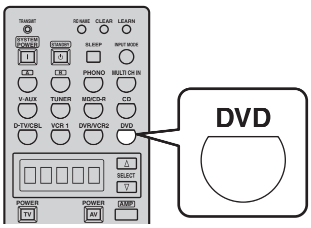
本体の操作



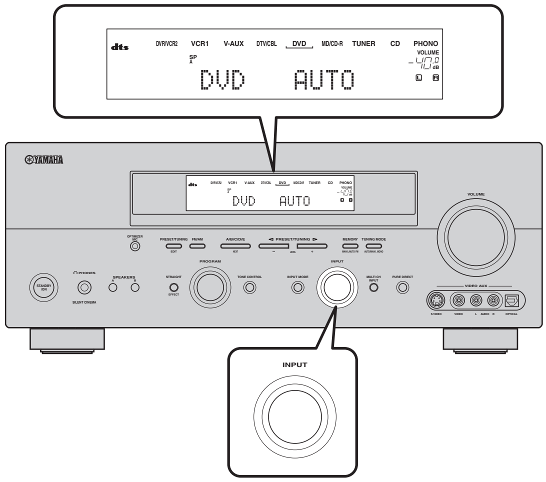
6 本機の入力を切り替える。

リモコンの**DVDキー（入力選択キー）**を押すか、本体の**INPUTセレクター**を回して、DVDを選びます。入力を切り替えると、本体ディスプレイに選んだ入力の名前と、入力モードが数秒間表示されます。

リモコンの操作



本体の操作



7 テレビの入力を切り替える。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

ヒント

例えば、本機がテレビのビデオ入力端子２に接続されている場合は、ビデオ入力２を選びます。

8 再生を始める。

詳しくはDVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

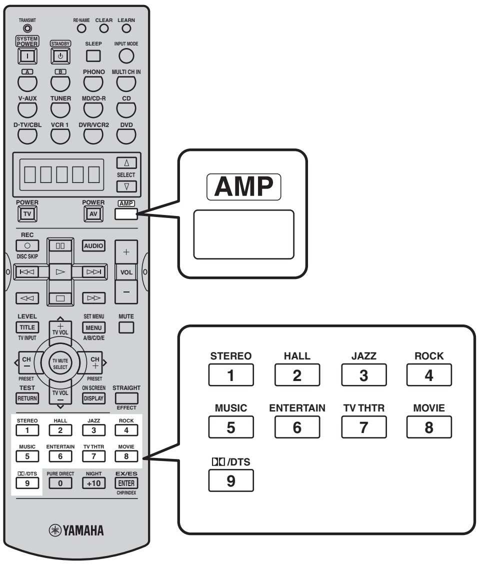
ヒント

- 音の大きさを調節するには（☞45ページ）
- 本機の使用を終了するには（☞45ページ）
- メーカーコードを設定すると､本機のリモコンで､お使いのDVDプレーヤーを操作することができます(☞71ページ)。
- 高音質のステレオ音声で楽しみたい場合は、PURE DIRECTキーを押すと、原音に忠実に高音質で再生するピュアダイレクトモードで楽しむことができます（☞49ページ）。

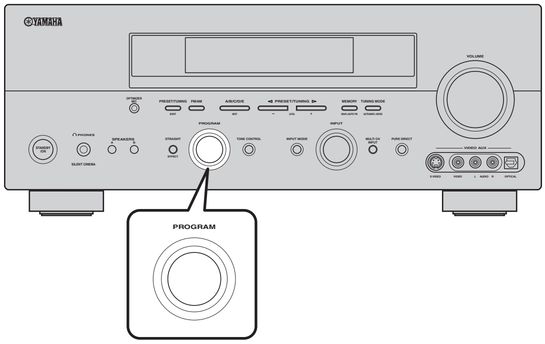
9 音場プログラムを選ぶ。

お好みの音場プログラムを選んで、臨場感をお楽しみください。リモコンの**AMP キー**を押して、AMP を選んでから、**音場プログラムキー**を押して、お好みの音場プログラムを選びます。
本体の**PROGRAM セレクター**を回しても、音場プログラムを選ぶことができます。

リモコンの操作



本体の操作



おすすめの音場プログラムは・・・

以下は映画を見るとき、音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特徴については94～97ページをご覧ください。

映画を見るとき

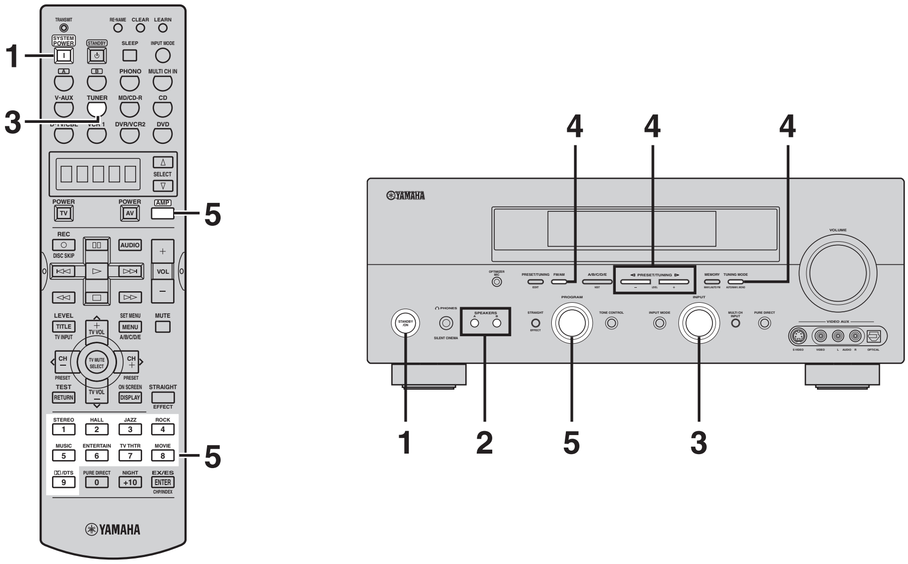
MOVIE 8	MOVIE THEATER
/DTS 9	DOLBY DIGITAL/DTS/AAC

音楽を聴くとき

HALL 2	CONCERT HALL
JAZZ 3	JAZZ CLUB
ROCK 4	ROCK CONCERT
MUSIC 5	MUSIC VIDEO
ENTERTAIN 6	ENTERTAINMENT / Disco

FM/AM放送を聴く

本機はチューナーを内蔵していますので、FM/AM放送をお楽しみいただけます。



1 本機の電源を入れる。

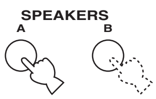
リモコンの**SYSTEM POWERキー**、または本体の**STANDBY/ONスイッチ**を押して電源を入れます。



リモコン　　本体

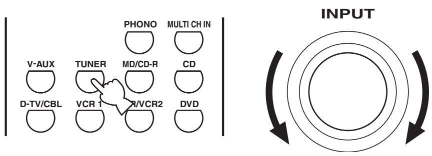
2 スピーカーを選ぶ。

本体の**SPEAKERS A/Bスイッチ**を押し、音を出すフロ ントL/Rスピーカーを選びます。A、B両方をお使いになる場合は、AとBをそれぞれ押します。
選んでいるスピーカーは、本体ディスプレイのSP A/Bインジケーターで表示されます。

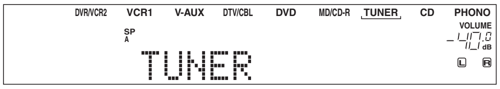


3 本機の入力を TUNER に切り替える。

リモコンの**TUNERキー（入力選択キー）**を押すか、本体の **INPUT セレクター**を回して、TUNERを選びます。入力を切り替えると、本体ディスプレイに選んだ入力の名前が数秒間表示されます。



リモコン　　本体



4 放送局を選ぶ。

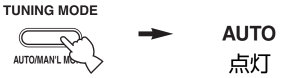
放送局は以下の２つの方法で選ぶことができます。

自動的に選局する場合（オート選局）

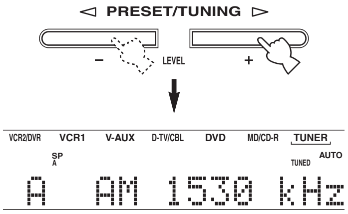
① FM/AM キーを押して、FM または AM を選ぶ。



② TUNING MODE（AUTO/MAN' L MONO）キーを押して、ディスプレイに AUTO インジケーターを点灯させる。



③ PRESET/TUNING ◁/▷ キーを押す。
放送局を受信すると、その局の周波数が表示されます。

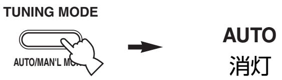


手動で選局する場合（マニュアル選局）

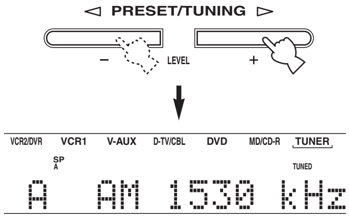
① FM/AM キーを押して、FM または AM を選ぶ。



② TUNING MODE（AUTO/MAN' L MONO）キーを押して、ディスプレイの AUTO インジケーターを消す。



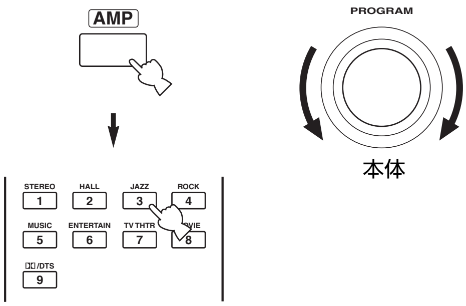
③ PRESET/TUNING ◁/▷ キーを押して、放送局の周波数に合わせる。



ヒント
- 電波が弱くてお聴きになりたい放送局が選べないときは、手動で選局してください。
- お好みの放送局を登録（プリセット）しておくと、聴きたい放送局を簡単に呼び出せます（☞51～54ページ）

5 音場プログラムを選ぶ。

お好みの音場プログラムを選んで、臨場感をお楽しみください。リモコンの **AMP キー**を押して、AMP を選んでから、**音場プログラムキー**を押して、お好みの音場プログラムを選びます。本体の **PROGRAM セレクター**を回しても、音場プログラムを選ぶことができます。



本体

リモコン

おすすめの音場プログラムは・・・
以下は音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特徴については94～97ページをご覧ください。

音楽を聴くとき

HALL 2　CONCERT HALL

JAZZ 3　JAZZ CLUB

ROCK 4　ROCK CONCERT

MUSIC 5　MUSIC VIDEO

ENTERTAIN 6　ENTERTAINMENT / Disco

基本的なしかた

なにを再生しますか？ -音場プログラムガイド-

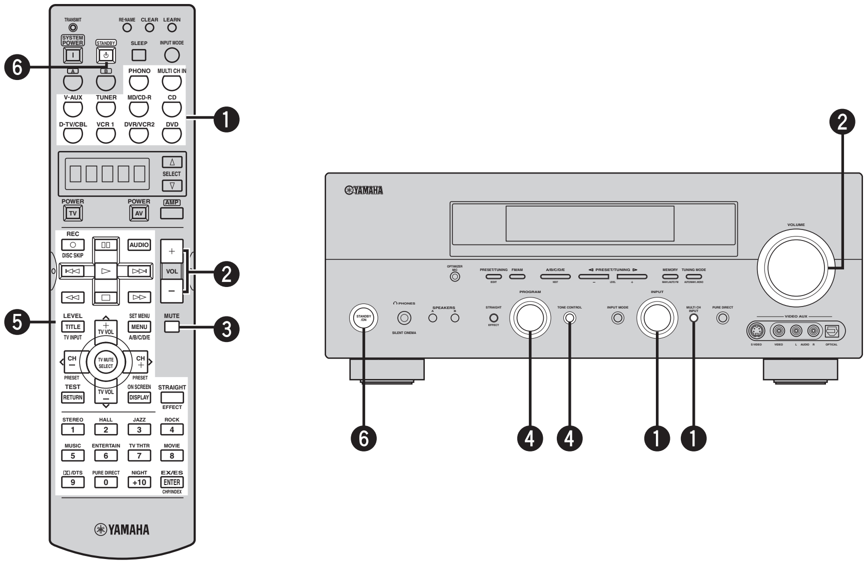
本機でお楽しみいただける音場プログラムをご紹介します。見たい/ 聴きたいものに合わせて、音場プログラムを選び、再生してみましょう。

見たい/聴きたいものは？		この音場プログラムがおすすめです		
映画を見る	壮大なファンタジー映画には	MOVIE 8	MOVIE THEATER Spectacle	70mm 映画の大画面のスペクタクルな音場
	最新の SFX 映画には	MOVIE 8	MOVIE THEATER Sci-Fi	最新のSFX映画をクールに楽しめる音場
	大迫力のアドベンチャー映画には	MOVIE 8	MOVIE THEATER Adventure	アドベンチャー映画を大迫力で楽しめる音場
	ラブロマンスやコメディには	MOVIE 8	MOVIE THEATER General	情緒的な映画を柔かく再現する音場
	映画館の迫力をお部屋で再現するには	DD/DTS 9	SUR.STANDARD	ドルビーデジタル、DTS、AAC信号を忠実に再現
			SUR.ENHANCED	ドルビーデジタル、DTS、AAC信号に音場効果を与える
			PRO LOGIC IIx PLIIx Movie	2チャンネル音声を仮想的にマルチチャンネル化して再生
			PRO LOGIC II PLII Movie	
			DTS Neo:6 Cinema	
	懐かしのモノラル映画には	TV THTR 7	TV THEATER Mono Movie	往年のモノラル映画を自然に再生する音場
スポーツ / ドラマを見る	白熱のスポーツ中継やドラマには	TV THTR 7	TV THEATER Variety/Sports	バラエティやスポーツ中継番組に適用範囲の広い音場
ライブ映像を見る	ビッグエンターテイナーのステージには	MUSIC 5	MUSIC VIDEO	ロック、ジャズなどのライブコンサートを再現する音場
音楽を聴く	華麗なクラシックコンサートには	HALL 2	CONCERT HALL	響きが豊かな古典的な中ホールの音場
	雰囲気のあるジャズライブには	JAZZ 3	JAZZ CLUB	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」の音場
	熱気あふれるロックコンサートには	ROCK 4	ROCK CONCERT	ロサンゼルスのホットなロックライブハウスの音場
	ステレオ音声を楽しむには	STEREO 1	STEREO 2ch Stereo	ステレオ音声で再生
	楽しいホームパーティを演出するには	ENTERTAIN 6	ENTERTAINMENT Disco	ホットなディスコの雰囲気を再現する音場
		STEREO 1	STEREO 7ch Stereo	広いエリアで音楽を楽しめる音場
ゲームをする	ゲームの世界に浸るには	ENTERTAIN 6	ENTERTAINMENT Game	TVゲームの軽快なノリをさらに加速させる、痛快なテンポの音場
		DD/DTS 9	PRO LOGIC IIx PLIIx Game	サラウンド感に包まれる大迫力の音場
			PRO LOGIC II PLII Game	

ヒント

- 音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。
- 音場プログラムの詳しい解説については94～97ページをご覧ください。

こんなときは・・・



DVDプレーヤー以外の機器を再生するときは（❶）
リモコンの入力選択キーを押すか、本体のINPUTセレクターを回して、再生する機器を選びます。

例えば、本機背面のCD端子に接続したCDプレーヤーを再生したい場合は、CDキーを押すか、本体のINPUTセレクターを回して、CDを選びます。
本機の入力がCDに切り替わり、CDプレーヤーの再生を楽しめます。

本機背面のMULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生したい場合は、MULTI CH INキーを押します。

音の大きさを調節したいときは（❷）
VOL＋/－キーを押すか、本体のVOLUMEコントロールを回して、音の大きさを調節します。

一時的に音を下げたいときは（❸）
MUTEキーを押します。本体ディスプレイに「MUTE　ON」と表示され、MUTEインジケーターが点滅します。もう一度MUTEキーを押すと、もとの音量に戻ります。

ヒント

セットメニュー「AUDIO SET」の「AUDIO MUTE」で下げる音量を選ぶことができます（☞56、62ページ）。

音色を調節したいときは（❹）
TONE CONTROLキーを押して、調節する音域を選びます。キーを押すごとに、「BASS」（低音域）と「TREBLE」（高音域）が切り替わります。
音域を選んだら、PROGRAMセレクターを回して音色を調節します。

ご注意

- 音色を極端に調節した場合、他のスピーカーとの音のつながりが悪くなることがあります。
- ピュアダイレクトモード（☞49ページ）で再生しているときや、MULTI CH INPUT端子に入力されている信号を再生しているときは、音色を調節できません。
- ヘッドホン接続時は、ヘッドホン用に独立して、音色を調節することができます。

本機のリモコンで他の機器を操作したいときは（❺）
メーカーコードを設定すると、本機のリモコンで他の機器を操作することができます。詳しくは71ページをご覧ください。

本機の使用を終了するときは（❻）
リモコンのSTANDBYキー、または本体のSTANDBY/ONスイッチを押して、本機をスタンバイ状態にします。

サラウンド再生を楽しむ

ドルビーデジタルやDTSなどマルチチャンネルソフトや、CDやビデオテープなどの２チャンネルのソフトを、臨場感たっぷりに再生します。

ドルビーデジタル/DTSソフトを再生する

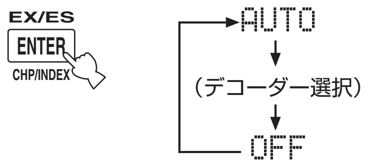
■ 5.1チャンネルを再生する

ドルビーデジタル、DTS、AAC信号が入力されると、本機は自動的にそれらの信号フォーマットに適した、デコーダーおよび音場プログラムを選んで、再生します（☞95～97ページ）。

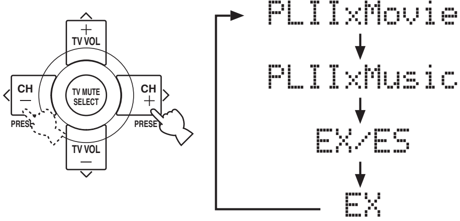
■ 6.1または7.1チャンネルで再生する

ドルビーデジタルEXやDTS-ESなど、サラウンドL/Rチャンネルを含むソースは、サラウンドバックスピーカーの音声を加えて、6.1または7.1チャンネルで再生することができます。6.1または7.1チャンネルで再生することで、よりダイナミックでリアルな音声を楽しむことができます。

リモコンのEX/ESキーで再生モードを切り替えます。EX/ESキーを押すごとに、下記のように切り替わります。



上記の（デコーダー選択）の状態で、リモコンの〈または〉キーを押すと、6.1または7.1チャンネル再生で使うデコーダーを選ぶことができます。



AUTO
本機が確認できる信号（フラグ）が記録されているソースが入力されると、信号に応じて最適なデコーダーを自動的に選び、6.1または7.1チャンネルで再生します。
本機がフラグを認識できない、またはソース自体にフラグが記録されていない場合は、6.1/7.1チャンネルで再生されません。

PLIIxMovie
プロロジックIIxデコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを7.1チャンネルで再生します。

PLIIxMusic
プロロジックIIxデコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを7.1チャンネルで再生します。

EX/ES
ドルビーデジタルEXデコーダーにより、ドルビーデジタルおよびAACを6.1チャンネルで再生します。
またDTS-ESデコーダーにより、DTSを6.1チャンネルで再生します。

EX
ドルビーデジタルEXデコーダーにより、ドルビーデジタル、DTS、AACを6.1チャンネルで再生します。

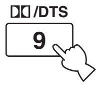
OFF
6.1/7.1チャンネルでの再生はしません。5.1チャンネルで再生されます。

ご注意

- 以下の場合は、EX/ESキーを押しても、6.1または7.1チャンネルで再生されません。
  - セットメニュー「SPEAKER SET」の「SURR L/R SP」をNONEに設定しているとき（☞57ページ）。
  - セットメニュー「SPEAKER SET」の「SURR B L/R SP」をNONEに設定しているとき（☞57ページ）。
  - 2ch Stereo、7ch Stereoを音場プログラムとして選んでいるとき。
  - ピュアダイレクトモードで再生しているとき（☞49ページ）。
  - サラウンド L/R 成分のないソース（2 チャンネルのPCM、アナログ信号など）を再生しているとき。
  - MULTI CH INPUT端子に接続したソースを再生しているとき。
  - ヘッドホンを接続しているとき。
- セットメニュー「SPEAKER SET」の「SURR B L/R SP」をLRG × 1またはSML × 1に設定しているときは、「PLIIx Movie」を選べません（☞57ページ）。
- 本機をスタンバイ状態にすると、再生モードは自動的にAUTOになります。
- DTS 96/24ソフトを5.1チャンネルで再生しているときは、DTS 96/24デコーダーが作動しますが、6.1または7.1チャンネルで再生すると、DTS 96/24デコーダーは作動しません。

2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ

ドルビープロロジック、ドルビープロロジックII、ドルビープロロジックIIx、またはDTS Neo:6デコーダーを選ぶと、2チャンネルソースをマルチチャンネル化してお楽しみいただけます。
リモコンのDD/DTSキーを押して、デコーダーを選びます。



PRO LOGIC SUR.STANDARD
↓
PRO LOGIC SUR.ENHANCED
↓
PRO LOGIC IIx Movie*
↓
PRO LOGIC IIx Music*
↓
PRO LOGIC IIx Game*
↓
DTS Neo:6 Cinema
↓
DTS Neo:6 Music

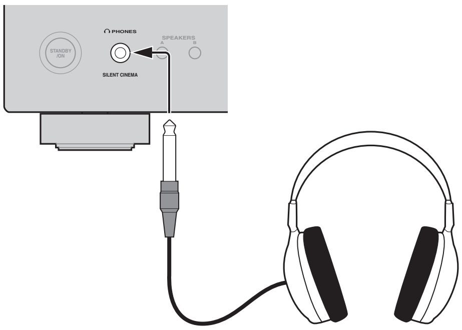
*「PLII/PLIIx」パラメーターで、プロロジックIIxデコーダーとプロロジックIIデコーダーを切り替えることができます（☞89、93ページ）。

ご注意

セットメニュー「SPEAKER SET」の「SURR B L/R SP」をNONEに設定しているときは、プロロジックIIxデコーダーは使えません（☞57ページ）。

ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ（サイレントシアター）

音場効果が入っている状態で、ヘッドホンを本体のPHONES 端子に接続すると、「サイレントシアター」モードで再生を楽しめます。



「サイレントシアター」モードでは、マルチスピーカーによる音場プログラムの効果を、ヘッドホンで擬似的に再現します。「サイレントシアター」モードで再生している間は、本体ディスプレイのSILENT CINEMA インジケーターが点灯します。



ご注意

以下の場合は、ヘッドホンを接続しても、「サイレントシアター」モードには切り替わりません。

- 2ch Stereo を音場プログラムとして選んでいるとき。
- ピュアダイレクトモードで再生しているとき（☞49 ページ）。
- STRAIGHT/EFFECT キーを押して、音場効果を切って再生しているとき。

サラウンドL/R スピーカーなしで音場プログラムを楽しむ（バーチャルシネマDSP）

サラウンドL/R スピーカーがない場合でも、バーチャルシネマDSP モードにより、臨場感あふれる再生を楽しめます。
セットメニュー「SPEAKER SET」の「SURR L/R SP」をNONE に設定すると、バーチャルシネマDSP モードで再生を楽しめます（☞56、57 ページ）。

バーチャルシネマDSP モードでは、入力ソースの音声に、選んだ音場プログラムの音場効果を付加して、フロントL/R スピーカー、センタースピーカーとサブウーファーから出力します。バーチャルシネマDSP モードで再生している間は、本体ディスプレイのVIRTUAL インジケーターが点灯します。



ご注意

以下の場合は、セットメニュー「SPEAKER SET」の「SURR L/R SP」をNONE に設定しても、バーチャルシネマDSP モードには切り替わりません。

- 2ch Stereo、7ch Stereo を音場プログラムとして選んでいるとき。
- SUR.STANDARD を音場プログラムとして選んでいるとき。
- ピュアダイレクトモードで再生しているとき（☞49 ページ）。
- STRAIGHT/EFFECT キーを押して、音場効果を切って再生しているとき。
- ヘッドホンを接続しているとき。

ステレオ再生を楽しむ

ステレオ再生する（2chステレオ）

フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。
リモコンのSTEREO キーを繰り返し押して、2ch Stereoを選びます。



↓

2ch Stereo

2チャンネルソースの場合
フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルソースの場合
フロントL/Rチャンネル以外の音声をフロントL/Rチャンネルにミックスして、フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。
L F E チャンネルは、セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」をFRNTに設定した場合のみ、フロントL/Rスピーカーにミックスされます（☞56、58ページ）。

高音質でステレオ再生する（ピュアダイレクトモード）

デコーダーやDSP回路などをバイパスし、ビデオ回路をオフすることで音声信号に与える影響を減らし、アナログ信号、PCM信号を原音に忠実な高音質ステレオ音声で再生します。
リモコンまたは本体のPURE DIRECTキーを押します。



本体　リモコン

↓

Pure Direct

ピュアダイレクトモードで再生している間は、本体のPURE DIRECTキーが青色で点灯します。

ご注意

- ドルビーデジタルや DTS などのマルチチャンネルソースを再生しているときにピュアダイレクトモードに切り替えると、対応するアナログ音声入力端子に入力されている信号を再生します。
- ピュアダイレクトモードで再生中は、以下の操作ができません（「Not Available」と表示されます）。
  - 音場プログラムの切り替え
  - オンスクリーン表示の切り替え
  - セットメニューの設定
- ピュアダイレクトモードで再生中は、以下の設定が無効になります。
  - セットメニュー「SPEAKER SET」の設定
  - セットメニュー「AUDIO SET」の「AUDIO DELAY」の設定
  - 各スピーカーの音量設定
  - フロント L/R スピーカーの音質（トーンコントロール）設定
- ピュアダイレクトモードで再生中は、本体ディスプレイの表示が消えます。入力切り替えや、音量調節などの操作をすると、数秒間だけ点灯します。
- ピュアダイレクトモードで再生中は、サブウーファーから音は出ません。
- ピュアダイレクトモードで DTS-CD を再生しないでください。ノイズが出力されることがあります。
- 本機をスタンバイ状態にすると、ピュアダイレクトモードは解除されます。

夜間に小音量で音声を楽しむ（ナイトリスニングモード）

夜間に小音量で再生する場合でも、セリフなどは明瞭に再生します。
映画用のCINEMAモードと、音楽用のMUSICモードが用意されています。
リモコンのNIGHTキーを押して、モードを選びます。

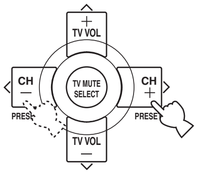


NIGHT:CINEMA
↓
NIGHT:MUSIC
↓
NIGHT OFF

ナイトリスニングモードで再生している間は、本体ディスプレイのNIGHTインジケーターが点灯します。



また、各モードが表示されている間に＜または＞キーを押すと、エフェクトレベル（音を抑えるレベル）を選ぶことができます。



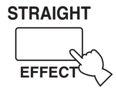
Effect.Lvl:MIN（弱めに抑える）
↑↓
Effect.Lvl:MID（ほどよく抑える：初期設定）
↑↓
Effect.Lvl:MAX（強めに抑える）

ご注意

- ピュアダイレクトモード（☞49ページ）で再生しているときや、MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生しているときは、ナイトリスニングモードで再生できません。
- 入力ソースにより、効果に違いが生じる場合があります。

音場効果をかけずに再生する（ストレートデコードモード）

入力された信号を、音場効果をかけずにそのまま再生します。
リモコンのSTRAIGHT/EFFECTキーを押すと、ストレートデコードモードで再生します。



↓

STRAIGHT

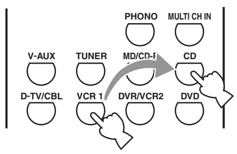
2チャンネルソースの場合
フロントL/Rスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルソースの場合
入力信号により、適切なデコーダーでデコードしたあと、マルチチャンネル音声で再生します。

元の状態（音場効果をかけた状態）に戻るには、もう一度STRAIGHT/EFFECTキーを押します。

音楽と映像で異なるソースを楽しむ（バックグラウンドビデオ機能）

バックグラウンドビデオ機能とは、ビデオ系ソースの映像と、オーディオ系ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です（例えばビデオを見ながら、クラシック音楽を楽しむことができます）。
ビデオ系ソースを選んでから、リモコンの入力選択キーでオーディオ系ソースを選びます。

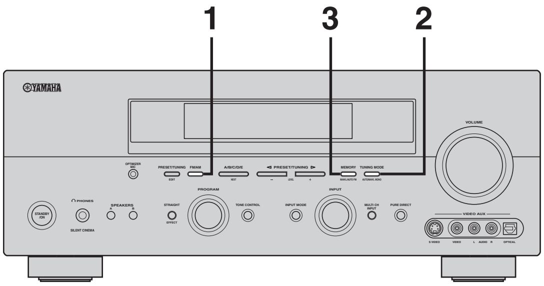


FM/AM放送局を登録する

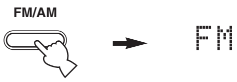
FM/AM放送局を登録しておくと、あとで選局するときに便利です。

FM放送局を自動登録する（オートプリセット）

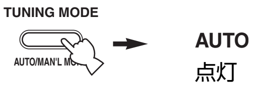
FM放送局を自動的に40局（8局×5グループ、A1からE8）まで登録（プリセット）できます。
放送局を登録しておくと、あとは簡単な操作で選局することができ、便利です。



1 FM/AMキーを押して、FMを選ぶ。

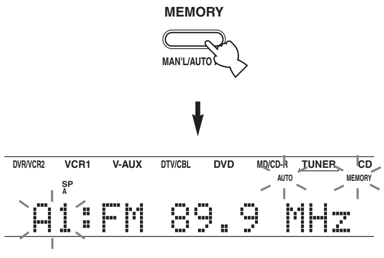


2 TUNING MODE（AUTO/MAN'L MONO）キーを押して、本体ディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させる。



3 MEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを約３秒押し続ける。

プリセット番号とMEMORYインジケーター、AUTOインジケーターが点滅します。数秒後に、周波数の低い方から放送局を探し始め、自動的に登録していきます。



オートプリセットが終了すると、最後に登録された放送局の周波数が表示されます。

ヒント

- 放送局が登録されると、放送局の周波数と受信モードも同時に登録されます。
- FM局の登録を始めるプリセット番号を指定したり、周波数の高い方から低い方へ向けて、自動登録を始めることもできます（下記参照）。
- 登録されたFM放送局の順序を、あとから手動で入れ替えることもできます（☞54ページ）。
- オートプリセットでは、プリセットする放送局の数が40（A1～E8）に満たない場合には、全周波数帯域を一巡して停止します。

ご注意

- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- オートプリセットでは、電波の強いFM放送局だけが登録されます。電波の弱いFM放送局を登録したいときは、受信モードをモノラルにして、手動で登録してください（☞52ページ）。

■ 登録を始めるプリセット番号を指定する場合

左に記載の「FM放送局を自動登録する（オートプリセット）」の手順3でMEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを約3秒間押したあと、A/B/C/D/Eキーと PRESET/TUNING ◁/▷キーを使って、最初に登録するプリセット番号を選びます。

数秒後に、選んだプリセット番号から登録を始めます。

放送局が40局（A1～E8）すべて登録されると、オートプリセットが停止します。

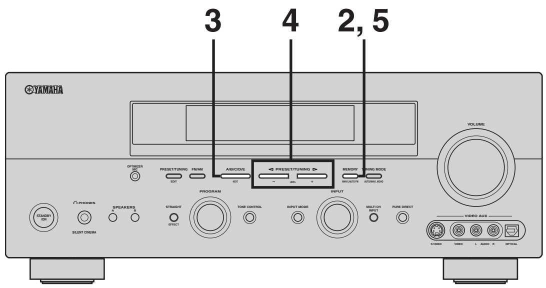
■ 周波数の高い方から低い方に向けて登録する場合

左に記載の「FM放送局を自動登録する（オートプリセット）」の手順3でMEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを約3秒間押したあと、PRESET/TUNING（EDIT）キーでコロン（：）を消してから、PRESET/TUNING ◁キーを押します。

周波数の高い方から放送局を探し始め、自動的に登録していきます。

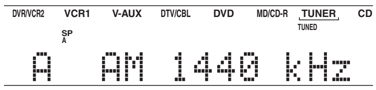
手動で登録する（マニュアルプリセット）

放送局40局までを手動で登録することもできます。



ヒント
AM 放送局はマニュアルで登録してください。

1 プリセットしたい放送局を選局する。
詳しくは、「FM/AM 放送を聴く」（☞42 ページ）をご覧ください。



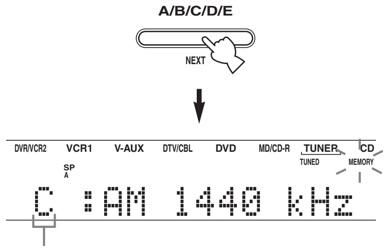
本体ディスプレイに、受信している局の周波数と放送バンド（「FM」または「AM」）が表示されます。

2 MEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを押す。
放送局が登録できる状態になります。本体ディスプレイのMEMORYインジケーターが約5秒間点滅します。



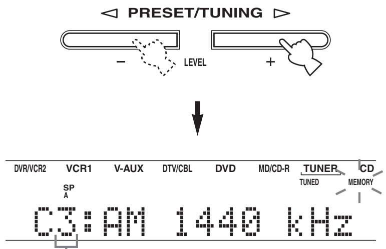
点滅

3 MEMORY インジケーターの点滅中に A/B/C/D/E キーを押して、プリセットグループ（A～E）を選ぶ。
グループが表示されます。放送バンド表示の隣にコロン（:）が点灯していることを確認してください。



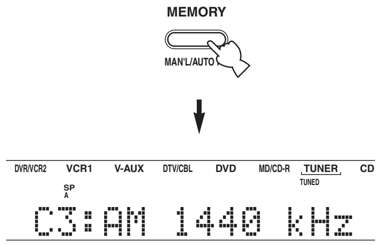
プリセットグループ

4 MEMORY インジケーターの点滅中に PRESET/TUNING ◁/▷ キーを押して、プリセット番号（1～8）を選ぶ。
▷ キーを押すと数が大きくなり、◁ キーを押すと小さくなります。



プリセット番号

5 MEMORY インジケーターの点滅中に、MEMORY（MAN'L/AUTO FM）キーを押す。
選んだプリセットグループ、プリセット番号と放送バンド（「FM」または「AM」）、周波数がディスプレイに表示されます。



C3 に登録された局を示しています。

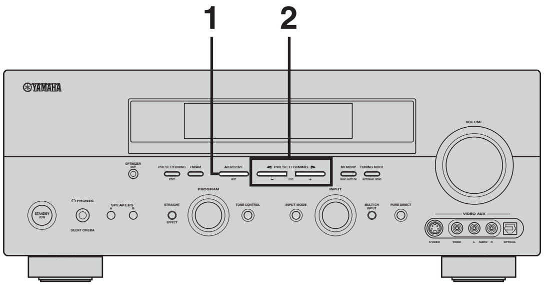
6 **他の放送局を続けて登録するときは、手順1～5を繰り返す。**

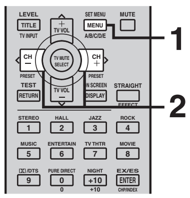
ご注意

- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- 新しい放送局を登録すると、放送局の周波数と受信モード（ステレオ/モノラル）も同時に登録されます。

登録した放送局を選んで聴く（プリセット選局）

プリセット番号を選ぶだけで、登録した放送局を選局できます。



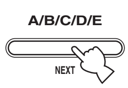


ご注意

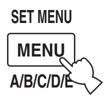
リモコンで操作する場合は、TUNERキーを押して、リモコンの機能をチューナー操作用に切り替えてから操作してください。

1 **A/B/C/D/Eキーを何回か押して、放送局をプリセットしたグループを選ぶ。**

本体ディスプレイに表示されるプリセットグループは、A/B/C/D/Eキーを押すたびに切り替わります。



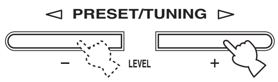
本体



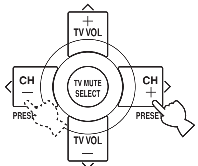
リモコン

2 **本体のPRESET/TUNING ◁/▷ キー（またはリモコンのPRESET </> キー）を押して、プリセット番号を選ぶ。**

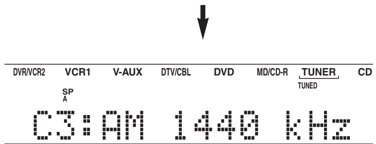
プリセットグループとプリセット番号が、放送バンド（「FM」または「AM」）と周波数とともに本体ディスプレイに表示され、TUNEDインジケーターが点灯します。



本体

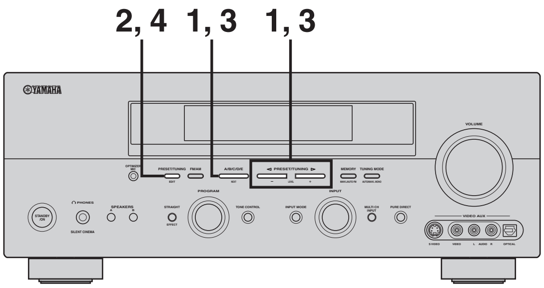


リモコン



登録した放送局を入れ替える

登録した放送局を入れ替えることができます。
ここでは「E1」に登録した放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合の手順を説明します。

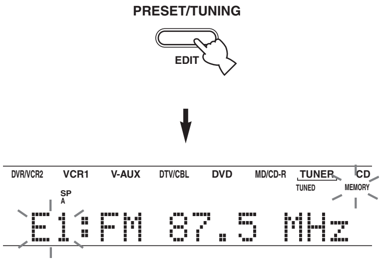


1 「E1」に登録した放送局を、A/B/C/D/E キーとPRESET/TUNING ◁/▷ キーを使って選局する。

詳しくは、「登録した放送局を選んで聴く（プリセット選局）」をご覧ください（☞53ページ）。

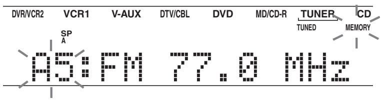
2 PRESET/TUNING（EDIT）キーを約3秒間押す。

本体ディスプレイのMEMORYインジケーターと「E1」が点滅します。



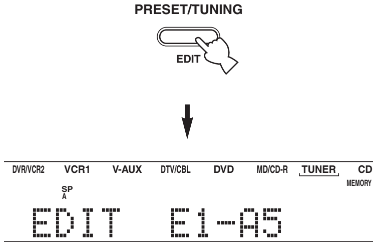
3 「A5」に登録した放送局を、A/B/C/D/E キーとPRESET/TUNING ◁/▷ キーを使って選局する。

本体ディスプレイのMEMORYインジケーターと「A5」が点滅します。



4 PRESET/TUNING(EDIT)キーを押す。

プリセット局が入れ替わります。



プリセットした局の入れ替えが完了したことを示しています。

セットメニュー一覧

本機では、お使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、セットメニューで設定を変更することができます。お使いの環境にあわせて設定を変更してください。
セットメニューには、自動的に音場補正を行う「AUTO SETUP」と、用途や機能別に分類されたカテゴリーを必要に応じて呼び出して設定する「MANUAL SETUP」の２つがあります。

AUTO SETUP

本機に搭載の「YPAO」(Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer) により、お使いになるスピーカーの配置や性能、お部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定します。
「AUTO SETUP」の設定方法については34ページをご覧ください。

MANUAL SETUP

「MANUAL SETUP」は、以下のように用途、機能別に３つのカテゴリーに分類されています。

■ SOUND MENU

音質や音色の調節など、音声の出力に関して以下のメニューを設定、変更できます。
以下の８つのメニューがあります。

A) SPEAKER SET（☞57ページ）
ご使用になるスピーカーに合わせて、サイズや有無などを設定します。

B) SPEAKER LEVEL （☞59ページ）
各スピーカーからの出力レベルを設定します。

C) SP DISTANCE （☞60ページ）
各スピーカーからリスニングポジションまでの距離に合わせて、音の到達するタイミングを設定します。

D) CENTER GEQ （☞61ページ）
グラフィックイコライザーを使って、センタースピーカーの音色を調節します。

E) LFE LEVEL （☞61ページ）
ドルビーデジタル、DTSおよびAACでのLFE信号の再生レベルを調節します。

F) DYNAMIC RANGE （☞62ページ）
ドルビーデジタル、DTSおよびAAC再生時のダイナミックレンジを調節します。

G) AUDIO SET （☞62ページ）
声と映像のずれの補正、AACモノラル音声の出力を設定します。

H) PR/SB SELECT （☞63ページ）
ドルビーデジタルEXやDTS-ESなどサラウンドバック成分があるソースを、シネマDSP音場プログラムで再生するときに優先的に音を出すスピーカーを設定します。

■ INPUT MENU

入出力端子の割り当て変更や、表示される入力機器名の変更など、信号の入出力に関して以下のメニューを設定、変更できます。
以下の３つのメニューがあります。

A) I/O ASSIGNMENT （☞64ページ）
ご使用になる機器が、本機の入出力端子の機器名と異なる場合に、ご使用になる機器に合わせて端子を割り当てます。

B) INPUT MODE （☞65ページ）
電源を入れたときの接続機器の入力モードを設定します。

C) INPUT RENAME （☞65ページ）
各入力名を変更します。

■ OPTION MENU

「SOUND MENU」、「INPUT MENU」以外にも以下のいろいろなメニューを設定、変更できます。
以下の４つのメニューがあります。

A) DISPLAY SET （☞66ページ）
本体ディスプレイの明るさ、オンスクリーン画面の背景や表示位置などを調節します。

B) MEMORY GUARD （☞67ページ）
変更した設定値を保護します。

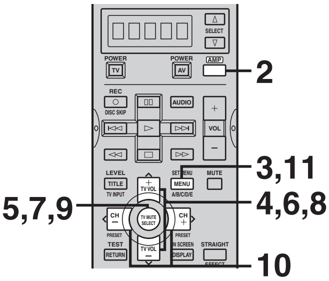
C) PARAM. INI （☞67ページ）
音場プログラムパラメーターを初期設定に戻します。

D) ZONE SET （☞68ページ）
FRONT SPEAKERS B端子に接続したスピーカーの設置場所を設定します。

セットメニューの操作手順

セットメニューの設定操作について説明します。セットメニューの各項目の詳細については57～68ページをご覧ください。

リモコンで操作します。



ヒント

再生中でも、セットメニューで設定を変更できます。

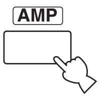
ご注意

ナイトリスニングモードで再生中は、一部のセットメニューはお使いになれません。ナイトリスニングモードを解除してからお使いください（☞50ページ）。

1 本機とテレビの電源を入れる。

2 AMPキーを押して、AMPを選ぶ。

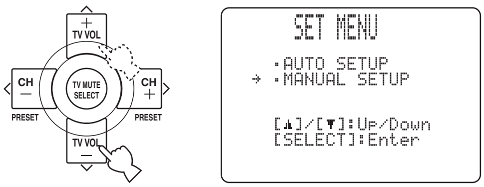
リモコンディスプレイに「AMP」と表示されていることを確認してください。



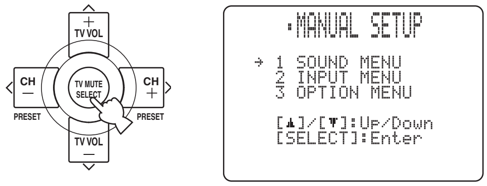
3 SET MENUキーを押す。



4 ∧または∨キーを押して、「MANUAL SETUP」を選ぶ。



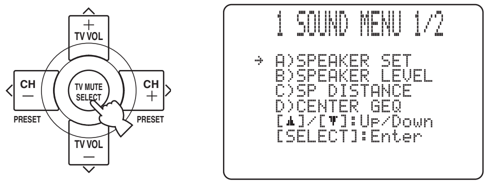
5 SELECTキーを押す。



6 ∧または∨キーを繰り返し押して、設定したいメニューがあるカテゴリーを選ぶ。

7 SELECTキーを押す。

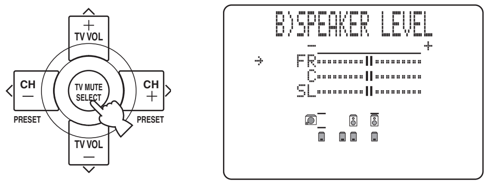
選んだカテゴリー内のメニューが表示されます。



8 ∧または∨キーを繰り返し押して、設定したいメニューを選ぶ。

9 SELECTキーを押す。

選んだメニューの設定画面が表示されます。



項目によっては∧または∨キーを押して、サブメニューを選びます。

10 ＜または＞キーを繰り返し押して、設定を変更する。

設定を確定するには、SELECTキーを押します。

前の画面に戻るには、RETURNキーを押します。

11 セットメニューを終了するときは、SET MENUキーを押す。



音声出力の設定を変更する（SOUND MENU）

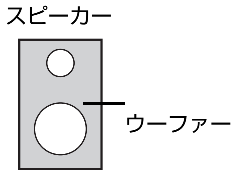
音質や音色の調節など、音声の出力に関する設定を行います。

スピーカーのサイズを設定する（SPEAKER SET）

お使いになるスピーカーにあわせて、スピーカーのサイズ、有無などを設定します。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→SPEAKER SET）

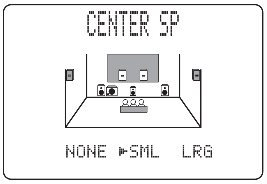
ヒント

目安として、ウーファーの口径が 16cm 未満のスピーカーをお使いの場合はSML（SMALL）、それ以上の口径の場合はLRG（LARGE）に設定します。



CENTER SP

センタースピーカーのサイズ、有無を設定します。



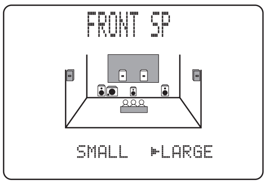
選択項目： LRG（大）、SML（小）、NONE（なし）
初期設定： SML

ヒント

- SMLに設定した場合、低域成分は「LFE/BASS OUT」の設定にしたがって出力されます（☞58ページ）。
- NONEに設定した場合、センターチャンネルはフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

FRONT SP

フロントL/Rスピーカーのサイズを設定します。



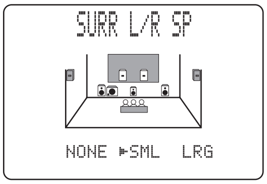
選択項目： LARGE（大）、SMALL（小）
初期設定： LARGE

ヒント

SMALLに設定した場合、低域成分は「LFE/BASS OUT」の設定にしたがって出力されます（☞58ページ）。

SURR L/R SP

サラウンドL/Rスピーカーのサイズ、有無を設定します。



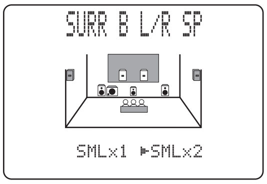
選択項目： LRG（大）、SML（小）、NONE（なし）
初期設定： SML

ヒント

- SMLに設定した場合、低域成分は「LFE/BASS OUT」の設定にしたがって出力されます（☞58ページ）。
- NONEに設定した場合、「SURR B L/R SP」も自動的にNONEに設定されます。
- NONEに設定して音場プログラムを使うと、バーチャルシネマDSPモードで再生します（☞48ページ）。

SURR B L/R SP

サラウンドバックスピーカーのサイズと本数、有無を設定します。



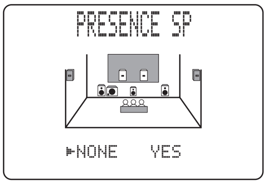
選択項目： LRGx2（大２台）、SMLx2（小２台）、LRGx1（大１台）、SMLx1（小１台）、NONE（なし）
初期設定： SMLx2

ヒント

- SMLに設定した場合、低域成分は「LFE/BASS OUT」の設定にしたがって出力されます（☞58ページ）。
- NONEに設定した場合は、サラウンドバックチャンネルはサラウンドL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

PRESENCE SP

プレゼンスL/Rスピーカーを使うか、使わないかを設定します。



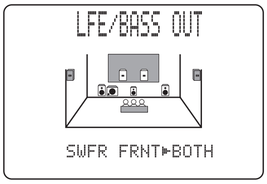
選択項目： YES（使う）、NONE（使わない）
初期設定： NONE

ヒント

NONEに設定した場合は、プレゼンスチャンネルはフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

LFE/BASS OUT

低音成分を出力するスピーカーを設定します。



選択項目： SWFR（サブウーファー）、FRNT（フロント）、BOTH（両方）
初期設定： BOTH

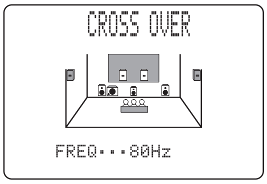
SWFR：
サブウーファーを接続している場合に設定します。
LFEチャンネルと、各スピーカーのサイズ設定により、他チャンネルの低音域がサブウーファーに出力されます。

FRNT：
サブウーファーを接続してない場合に設定します。
LFEチャンネルと、各スピーカーのサイズ設定により、他チャンネルの低音域がフロントL/Rスピーカーに出力されます。

BOTH：
サブウーファーを接続していて、フロントL/Rチャンネルの低音域をフロントL/Rスピーカーとサブウーファーの両方に出力したい場合に設定します。
LFEチャンネルと、フロント以外のチャンネルの低音域は、スピーカーのサイズ設定により、サブウーファーから出力されます。
例えば、CD を再生するときに、サブウーファーを使って低音域を補強したい場合などはこの設定にします。

CROSS OVER

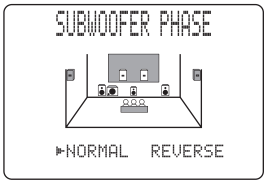
サブウーファーに出力する低音成分の、周波数の上限を設定します。設定した周波数以下の低音成分が、サブウーファーに出力されます。



選択項目： 40Hz、60Hz、80Hz、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz
初期設定： 80Hz

SUBWOOFER PHASE

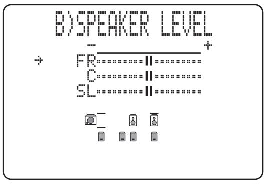
お使いになるサブウーファーの位相を設定します。低音が物足りない場合などにお試しください。



選択項目： NORMAL（正相）、REVERSE（逆相）
初期設定： NORMAL

スピーカーの音量を調節する（SPEAKER LEVEL）

リスニングポジションで聞こえる各スピーカーの音量が同じになるように、それぞれのスピーカーの音量を個別に調節します。
各スピーカーから出力されるテストトーンを聴きながら調節します。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→SPEAKER LEVEL）



FR
フロントLスピーカーの音量と比較して、フロントRスピーカーの音量を調節します。
可変範囲：－10.0～＋10.0dB

C
フロントLスピーカーの音量と比較して、センタースピーカーの音量を調節します。
可変範囲：－10.0～＋10.0dB

SL
フロントLスピーカーの音量と比較して、サラウンドLスピーカーの音量を調節します。
可変範囲：－10.0～＋10.0dB

SBL
サラウンドLスピーカーの音量と比較して、サラウンドバックLスピーカーの音量を調節します。
可変範囲：－10.0～＋10.0dB

SBR
サラウンドLスピーカーの音量と比較して、サラウンドバックRスピーカーの音量を調節します。
可変範囲：－10.0～＋10.0dB

ヒント
セットメニュー「SPEAKER SET」の「SURR B L/R SP」をLRG x 1またはSMLx1に設定した場合、「SBL」および「SBR」は表示されません。かわりに「SB」と表示され、1台のみの調節になります（☞57ページ）。

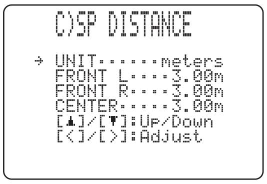
SR
サラウンドLスピーカーの音量と比較して、サラウンドRスピーカーの音量を調節します。
可変範囲：－10.0～＋10.0dB

SWFR
フロントLスピーカーの音量と比較して、サブウーファーの音量を調節します。
可変範囲：－10.0～＋10.0dB

PRES
フロントL/Rスピーカーの音量と比較して、プレゼンスL/Rスピーカーの音量を調節します。
可変範囲：－10.0～＋10.0dB

各スピーカーからリスニングポジション（視聴位置）までの距離を設定する（SP DISTANCE）

各スピーカーからの音が同時にリスニングポジション（視聴位置）に届くように、スピーカーから音が出るタイミングを調節します。音が出るタイミングは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定することで調節されます。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→SP DISTANCE）



UNIT
設定する距離の単位を選びます。
選択項目： meters、feet
初期設定： meters

FRONT L
フロントLスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft
初期設定： 3.0m、10.0ft

FRONT R
フロントRスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft
初期設定： 3.0m、10.0ft

CENTER
センタースピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft
初期設定： 3.0m、10.0ft

SURR L
サラウンドLスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft
初期設定： 3.0m、10.0ft

SURR R
サラウンドRスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft
初期設定： 3.0m、10.0ft

SB L
サラウンドバックLスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft
初期設定： 2.1m、7.0ft

SB R
サラウンドバックRスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft
初期設定： 2.1m、7.0ft

ヒント

セットメニュー「SPEAKER SET」の「SURR B L/R SP」をLRG x 1またはSMLx1に設定した場合、「SB L」および「SB R」は表示されません。かわりに「SURR B」と表示され、1台のみの調節になります（☞57ページ）。

SWFR
サブウーファーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft
初期設定： 3.0m、10.0ft

PRES L
プレゼンスLスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft
初期設定： 3.0m、10.0ft

PRES R
プレゼンスRスピーカーから、リスニングポジションまでの距離を設定します。
可変範囲： 0.3 ～ 24.0m、1.0 ～ 80.0ft
初期設定： 3.0m、10.0ft

センタースピーカーの音色を調節する（CENTER GEQ）

センタースピーカーの音色を、フロントL/Rスピーカーの音色と合わせるために、センターチャンネルのグラフィックイコライザーを調節します。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→CENTER GEQ）

```
D)CENTER GEQ
→ TEST ▶OFF    ON
         −______+
  100Hz ·····‖·····   0dB
  300Hz ·····‖·····   0dB
    1kHz ·····‖·····   0dB
    3kHz ·····‖·····   0dB
   10kHz ·····‖·····   0dB
  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Adjust
```

TEST
テストトーンを使って、センタースピーカーの音色を調節します。調節は、フロントLスピーカーとセンタースピーカーから出力されるテストトーンを比較して行います。
選択項目： ON、OFF

100Hz、300Hz、1kHz、3kH、10kHz
それぞれの周波数帯のレベルを調節します。
可変範囲： −6〜+6dB
初期設定： 0dB

低域効果音の音量を調節する（LFE LEVEL）

ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号に含まれる、LFE(低域効果音)の音量を調節します。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に調節できます。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→LFE LEVEL）

```
E)LFE LEVEL

→ SPEAKER・・・・・・0dB
  HEADPHONE・・・・0dB

  [▲]/[▼]:Up/Down
  [<]/[>]:Adjust
```

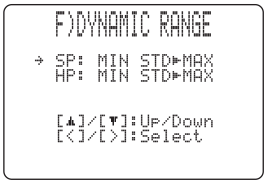
SPEAKER
スピーカーで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。
可変範囲： −20〜0dB
初期設定： 0dB

HEADPHONE
ヘッドホンで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。
可変範囲： −20〜0dB
初期設定： 0dB

ご注意
お使いになるサブウーファーやヘッドホンの性能に応じて音量を調節してください。

ダイナミックレンジを設定する（DYNAMIC RANGE）

ドルビーデジタル/DTS再生時のダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの幅）を、3段階から選びます。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に選べます。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→DYNAMIC RANGE）

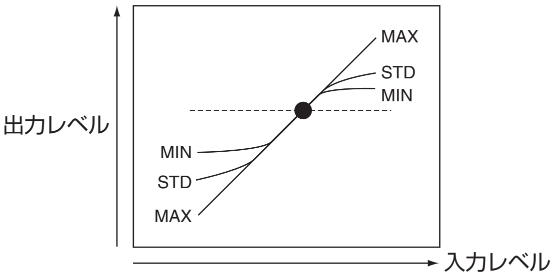


SP

スピーカーで音を聴く場合の、ダイナミックレンジを選びます。
選択項目： MAX（最大）、STD（標準）、MIN（最小）
初期設定： MAX

HP

ヘッドホンで音を聴く場合の、ダイナミックレンジを選びます。
選択項目： MAX（最大）、STD（標準）、MIN（最小）
初期設定： MAX



MAX：
入力された信号をリニアに再生するダイナミックレンジです。
STD：
一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。
MIN：
小音量でも聴きやすく、夜間に音声を楽しむのに適したダイナミックレンジです。

その他の音声出力を設定する（AUDIO SET）

音声と映像のずれを補正したり、AACモノラル音声の出力を設定します。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→AUDIO SET）



AUDIO MUTE

ミュート（消音）時に下げる音量を調節します。
選択項目： MUTE、－20dB
初期設定： MUTE

MUTE：
完全に消音し、無音にします。
－20dB：
いま聴いている音量よりも、20dB下げて再生します。

AUDIO DELAY

デジタル処理された映像が、音声よりも遅れて出力されることがあります。この出力タイミングのずれ音を遅らせる時間を設定します。
可変範囲： 0～160ms
初期設定： 0ms

DIALG.LIFT

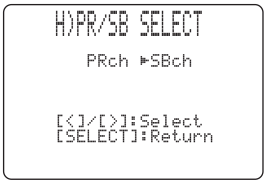
会話など、中央から聴こえる音をプレゼンスL/Rスピーカーに振り分けて、より高い位置から聴こえるように調節することができます。セットメニュー「SPEAKER SET」の「PRESENCE SP」をYESに設定したときのみ表示されます（☞58ページ）。
選択項目： ON、OFF
初期設定： OFF

DUAL MONO

BS/地上波デジタル放送などで使われている、モノラル二重音声入力時に、どの音声を出力するか設定します。
選択項目： MAIN（主音声）、SUB（副音声）、ALL（主音声＋副音声）
初期設定： MAIN

サラウンドバックスピーカーとプレゼンススピーカーの優先順位を設定する（PR/SB SELECT）

ドルビーデジタルEXやDTS-ESなどサラウンドバック成分があるソースを、シネマDSP音場プログラムで再生するときに、優先的に音を出すスピーカーを選びます。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→PR/SB SELECT）



選択項目： PRch、SBch
初期設定： SBch

PRch：
サラウンドバック成分があるソースを再生中でも、プレゼンス成分がプレゼンスL/Rスピーカーから出力されます。
このとき、サラウンドバック成分はサラウンドL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

SBch：
サラウンドバック成分があるソースを再生中は、サラウンドバックスピーカーから音を出します。
このとき、プレゼンス成分はフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されます。

入出力の設定を変更する（INPUT MENU）

入出力端子の割り当てなど、信号の入出力に関する設定を行います。

入出力端子の割り当てを変更する（I/O ASSIGNMENT）

お使いになる機器と、本機のコンポーネントビデオ/D4ビデオ入力端子やデジタル入出力端子の機器名が異なる場合に、お使いになる機器に合わせて端子を割り当てることができます。割り当てを変更すると、変更後の機器を入力選択キーで選べます。
（MANUAL SETUP→INPUT MENU→I/O ASSIGNMENT）

ここでは、DVDレコーダーを接続し、各端子の割り当てを「DVR/VCR2」に設定する場合を例に説明します。設定後は入力選択キーの「DVR/VCR2」を押すと、DVDレコーダーを選べます。

CMPNT-V INPUT ［A］［B］

コンポーネントビデオ/D4ビデオ入力端子の割り当てを変更します。

```
CMPNT-V INPUT

→ [A]·····DVR/VCR2
          (  DVD    )
  [B]·····DTV/CBL
          (DTV/CBL )
```

選択項目： DVD、DVR/VCR2、VCR 1、V-AUX、DTV/CBL
初期設定： ［A］DVD
［B］DTV/CBL

例：コンポーネントビデオ入力（DVD）端子にDVDレコーダーを接続した場合、［A］の設定を「DVR/VCR2」に変更します。

OPTICAL OUT（1）

光デジタル出力端子の割り当てを変更します。

```
OPTICAL OUT

→ (1)·····DVR/VCR2
          (MD/CD-R )
```

選択項目： MD/CD-R、CD、PHONO、DVR/VCR2、VCR 1、V-AUX、DTV/CBL、DVD
初期設定：（1）MD/CD-R

例：光デジタル出力（MD/CD-R）端子にDVDレコーダーを接続した場合、(1)の設定を「DVR/VCR2」に変更します。

OPTICAL IN（2）（3）（4）

光デジタル入力端子の割り当てを変更します。

```
OPTICAL IN

→ (2)·····DVR/VCR2
          (MD/CD-R )
  (3)·····  DVD
          (  DVD   )
  (4)·····DTV/CBL
          (DTV/CBL)
```

選択項目： MD/CD-R、CD、PHONO、DVR/VCR2、VCR 1、DTV/CBL、DVD
初期設定：（2）MD/CD-R
（3）DVD
（4）DTV/CBL

例：光デジタル入力（MD/CD-R）端子にDVDレコーダーを接続した場合、(2)の設定を「DVR/VCR2」に変更します。

COAXIAL IN（5）（6）
同軸デジタル入力端子の割り当てを変更します。

```
COAXIAL IN

→ (5)·····DVR/VCR2
          (   CD    )
  (6)·····  DVD
          (   DVD   )
```

選択項目： CD、PHONO、DVR/VCR2、VCR 1、V-AUX、DTV/CBL、DVD、MD/CD-R
初期設定： （5）CD
（6）DVD

例：同軸デジタル入力（CD）端子に DVD レコーダーを接続した場合、（5）の設定を「DVR/VCR2」に変更します。

電源を入れたときに適用する入力モードを設定する（INPUT MODE）

電源を入れたときに適用する入力モードを設定します。
（MANUAL SETUP → INPUT MENU → INPUT MODE）

```
B)INPUT MODE
 ▶AUTO  LAST

[<]/[>]:Select
[SELECT]:Return
```

選択項目： AUTO、LAST
初期設定： AUTO

AUTO:
自動的に入力モードをAUTOに設定します。
LAST:
前回使っていた入力モードを適用します。

ご注意
LAST を選んでも、EX/ES キーで設定した内容は記憶されません。

入力名を変更する（INPUT RENAME）

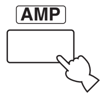
各入力名を変更することができます。変更後は、その名前で入力が表示されます。
（MANUAL SETUP → INPUT MENU → INPUT RENAME）

```
C)INPUT RENAME
 DVD -> _DVD____

[<]/[>]:Position
[▲]/[▼]:Chara.
```

1 入力選択キーを押して、名前を変更する入力を選ぶ。

2 AMP キーを押して AMP を選ぶ。
リモコンディスプレイに「AMP」が表示されていることを確認してください。



3 〈または〉キーを押して、変更する文字またはスペースに＿（アンダーバー）を合わせる。

4 ∧または∨ キーを押して、入力する文字を選ぶ。
入力できる文字は以下のとおりです。

・アルファベット大文字（A～Z）
・アルファベット小文字（a～z）
・数字（0～9）
・スペース（空白）
・記号（＃＊＋，－．／：＜＞？）

文字は最大８文字まで入力できます。手順３と４を繰り返して、文字を入力していきます。

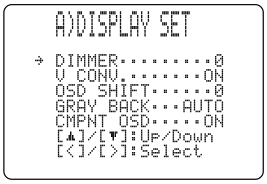
5 入力が終わったら、SELECT キーを押す。

その他の設定を変更する（OPTION MENU）

お好みに応じて表示の設定を変更したり、変更した設定値を保護します。

表示の設定を変更する（DISPLAY SET）

本体ディスプレイの明るさや、オンスクリーン画面の背景や表示位置などを調節します。
（MANUAL SETUP→OPTION MENU→DISPLAY SET）



DIMMER

本体ディスプレイ表示の明るさを調節します。
数値が小さいほど、表示が暗くなり、数値が大きいほど、表示が明るくなります。
可変範囲： －４～０
初期設定： ０

V CONV.

コンポジットビデオ信号をＳビデオ信号に変換するかしないか、およびＳビデオ信号をコンポーネントビデオ信号に変換するかしないかを設定します。
選択項目： ON、OFF
初期設定： ON

ON：
コンポジットビデオ信号をＳビデオ信号に、Ｓビデオ信号をコンポーネントビデオ信号に変換します。
OFF：
変換しません。

ご注意

- ビデオデッキから入力したビデオ信号またはSビデオ信号をコンポーネントビデオ信号に変換する場合、ビデオデッキの性能によっては画像が乱れる場合があります。
- OFFに設定した場合でも、セットメニューを表示させるときは、各信号が上位変換されて出力されます。

OSD SHIFT

オンスクリーン表示を表示する上下位置を調節します。
可変範囲： －５（上方）～＋５（下方）
初期設定： ０

GRAY BACK

ビデオ信号が入力されていない場合のオンスクリーン表示の設定をします。
選択項目： AUTO、OFF
初期設定： AUTO

AUTO：
ビデオ信号が入力されていない場合は、グレーの背景を表示して、オンスクリーン表示を表示します。
OFF：
ビデオ信号が入力されていない場合は、オンスクリーン表示を表示しません。

ご注意

OFFに設定すると、コンポーネントビデオ信号のみが入力されている場合はオンスクリーン表示は表示されません。

CMPNT OSD

コンポーネントビデオまたはD4ビデオ（MONITOR OUT）端子からセットメニューやテストトーン、音場プログラムパラメーター表示のオンスクリーン信号を出すか、出さないかを設定します。
選択項目： ON、OFF
初期設定： ON

ON：
コンポーネントビデオまたはD4ビデオ（MONITOR OUT）端子からオンスクリーン信号を出します。
OFF：
コンポーネントビデオまたはD4ビデオ（MONITOR OUT）端子からオンスクリーン信号を出しません。

変更した設定値を保護する（MEMORY GUARD）

変更した設定値を保護します。ONに設定すると、誤操作による設定値の変更を防ぐことができます。
（MANUAL SETUP→OPTION MENU→MEMORY GUARD）

```
B)MEMORY GUARD
     ▶OFF   ON


[<]/[>]:Select
[SELECT]:Return
```

選択項目： ON、OFF
初期設定： OFF

ONに設定すると、以下の設定が保護されます。

- 音場プログラムパラメーターの設定
- 「MEMORY GUARD」以外のセットメニューの設定
- 各スピーカーの音量
- オンスクリーン表示の設定

ご注意

- ONに設定すると、他のセットメニューは呼び出せません。
- ONに設定すると、テストトーンを使えません。

音場プログラムパラメーターを初期化する（PARAM. INI）

変更した音場プログラムパラメーター（☞89ページ）を、初期設定に戻します。
（MANUAL SETUP→OPTION MENU→PARAM. INI）

```
C)PARAM. INI
   1   2   3   4
   5   6   7  *8
   9
```

設定が変更されている音場プログラムは、そのプログラム番号のまえにアスタリスク（*）が表示されます。
リモコンの数字/音場プログラムキーで、初期設定に戻したい音場プログラムを選んでください。

ご注意

- 一度初期化すると、初期化前の状態には戻せません。誤って初期化してしまったときのために、パラメーターを変更したときは記録しておいてください。
- サブプログラムごとに、初期設定に戻すことはできません。
- セットメニュー「MEMORY GUARD」をONに設定している場合は、初期設定に戻すことはできません。

スピーカーBの設置場所を設定する（ZONE SET）

リアパネルのFRONT SPEAKERS B端子に接続したスピーカーの設置場所を設定します。
（MANUAL SETUP→OPTION MENU→ZONE SET）

```
D)ZONE SET
SP B·····FRONT

[<]/[>]:Select
[SELECT]:Return
```

SP B
リアパネルのFRONT SPEAKERS B端子に接続したスピーカー（スピーカーB）を、メインリスニングルームで使うか、別の部屋で使うかを設定します。
選択項目： FRONT、ZONE B
初期設定： FRONT

FRONT：
メインリスニングルームでお使いになるときの設定です。スピーカーAとスピーカーBの出力のオン/オフは、SPEAKERS A/Bスイッチで切り替えます。

ZONE B：
別の部屋でお使いになるときの設定です。スピーカーAの出力をオフ、スピーカーBの出力をオンにすると、メインルームに設置しているすべてのスピーカーから、音が出なくなります。

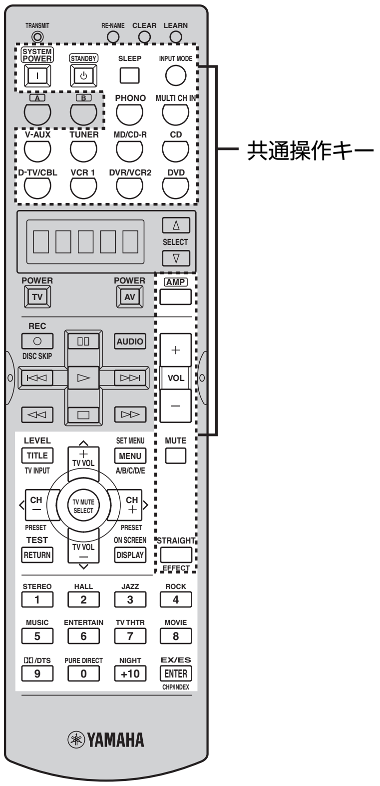
ヒント
- ZONE Bに設定してお使いの場合、本機のPHONES端子にヘッドホンを差し込むと、ヘッドホンとスピーカーBの両方から音声が出力されます。
- ZONE Bに設定してお使いの場合、音場プログラムを選んで音場効果をかけると、自動的にバーチャルシネマDSPモードの再生になります。

リモコンのはたらき

他の機器のリモコン信号を記憶させたり、メーカーコードを設定することにより、本機のリモコンでDVDプレーヤーやCDプレーヤー、テレビなど本機以外のAV機器を操作することができます。

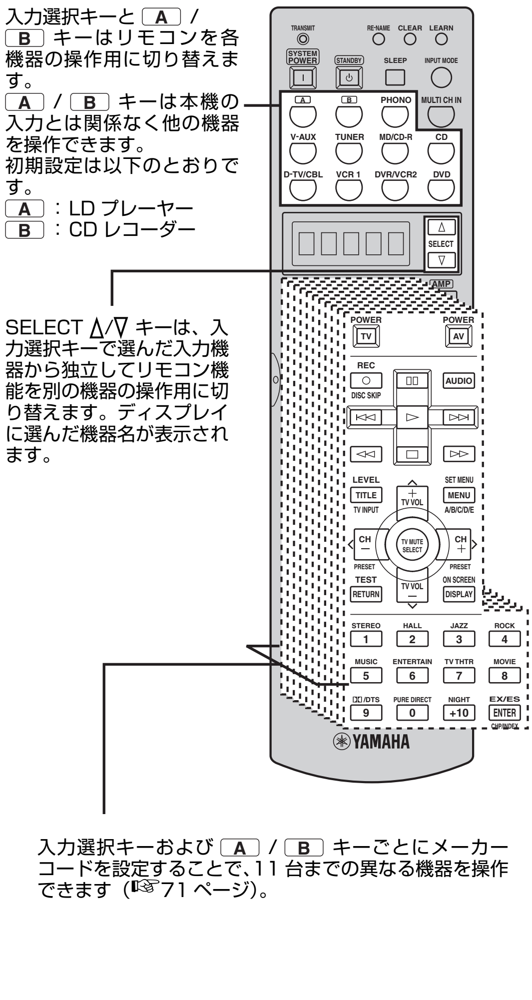
本機を操作する

本機の操作に使うキーは、下図の白色で示した部分です。点線部分内のキーはどのモードでも機能します。その他の白色部分のキーを使うにはAMPキーを押して、AMPを選びます。リモコンディスプレイに「AMP」と表示されていることを確認してください。



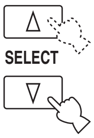
他の機器を操作する

他の機器の操作に使うキーは、下図の点線で囲んだ部分です。入力選択キーまたはSELECT ∆/∇ キーで選んだ機器によって、各キーの機能が変わります。リモコンディスプレイには、選んだ機器の名前が表示されます。



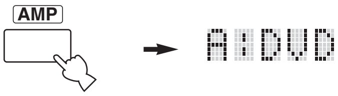
操作する機器を切り替える

SELECT∆/∇キーを押すと、入力ソースは切り替えずに、リモコンで操作する機器だけを切り替えることができます。操作できる機器は、リモコンディスプレイに表示されます。



リモコン機能をアンプ操作用に固定する（アンプ固定モード）

AMPキーを３秒以上押し続けると、リモコンはアンプ固定モードになります。
アンプ固定モードでは、入力選択キーを押すと、アンプ操作キーの機能はアンプ操作用のまま、残りのキーの機能が選んだ機器用に切り替わります。
リモコンディスプレイには、以下のように表示されます。



（アンプ固定モードでDVDを選んだとき）

この状態では、AMPキーを押すごとにアンプ固定モード⇔機器操作モードを切り替えます。
アンプ固定モードを解除するには、AMPキーを３秒以上押し続けてください。

ヒント

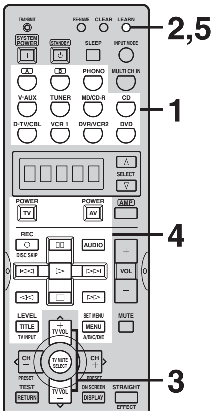
例えば、選んだ入力機器の数字キー機能よりも、本機の音場プログラムキー機能を多くお使いになる場合などは、アンプ固定モードに設定しておくと便利です。

本機のリモコンで他の機器を操作する

本機のリモコンで他の機器を操作するための設定について説明します。

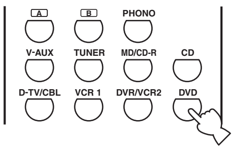
リモコンで操作する機器を設定する

メーカーコードを設定することにより、本機のリモコンで他のメーカーの機器を操作することができます。メーカーコードは各入力選択キーまたは A / B キーに設定することができます。



1 操作したい入力選択キーまたは A / B キーを押す。

例：DVD プレーヤーを本機のリモコンで操作したい場合は、DVD キーを押します。



2 LEARN ボタンを３秒以上押し続ける。

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「SETUP」と、選んだ入力ソースの名前が交互に表示されます。



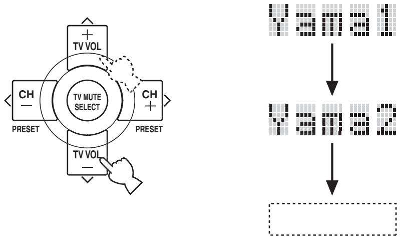
ご注意

LEARN ボタンは３秒以上押しつづけてください。短く押して離すと、ラーニングモード（☞76 ページ）に切り替わります。

3 ∧または∨キーを押して、メーカーコードを選ぶ。

５文字以上のメーカーコードはスクロールして表示されます。

メーカー名とメーカーコードの対応については、73、74 ページをご覧ください。



4 動作確認をする

POWER や PLAY などの各キーで、お使いの機器が正しく動作するか確認してください。正しく動作しないときは、手順３で同じメーカーの別のメーカーコードを選んでみてください。

ヒント

メーカーコードを続けて別の入力選択キーにも設定したい場合は、SELECT キーを押してから、手順１、３、４を繰り返してください。

5 LEARN ボタンを押して、メーカーコードの設定を終了する。

リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

- 手順２以降の操作は、それぞれ操作後 30 秒以内に行ってください。30 秒以上経過するとメーカーコード設定が自動的に中止されます。この場合は、手順２から操作しなおしてください。
- 付属のリモコンは、市販されているすべての AV 機器（ヤマハ AV 機器を含む）のメーカーコードを内蔵しているわけではありませんので、お手持ちの AV 機器を操作できない場合があります。いずれのメーカーコードでも操作ができない場合は、ラーニング機能（☞76 ページ）を利用するか、お使いの機器に付属するリモコンをお使いください。
- １つの入力選択キーに対して、メーカーコードは１つだけ設定できます。
- すでにラーニングを設定している場合、ラーニングによる機能が、メーカーコードの機能より優先されます。
- 手順で指定されたキー以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

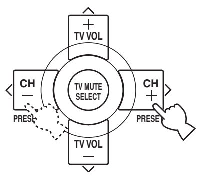
■ 機器の種類（ライブラリー）を変更する

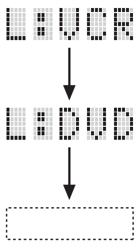
あらかじめ各入力選択キーに設定されている機器の種類（ライブラリー）を変更することができます。例えば、V-AUXキーにはあらかじめ「VCR」が設定されていますが、「V-AUXキーでTVを操作したい」という場合には、機器の種類（ライブラリー）を「TV」に変更することで、V-AUXキーを押して、テレビを操作できるようになります。

1 71ページ「リモコンで操作する機器を設定する」の手順1と2の操作をする。

2 〈または〉キーを押して、使いたい機器の種類（ライブラリー）を選ぶ。

本機のリモコンには、DVD、DVR、LD、CD、CDR、MD、TAP、TUN、AMP、TV、CAB、DBS、SAT、VCRの14通りのライブラリーが用意されています。





3 「リモコンで操作する機器を設定する」の手順3から操作する。

ご注意

- 国内BSデジタルチューナー用のメーカーコードはL:DBSのPanasonic、Sony、Toshiba-2の3種類です。
- アンプライブラリー（L:AMP）は変更しないでください。

■ 工場出荷時のメーカーコード設定

下表のように、A、B、TUNER、MD/CD-R、CD、DVR/VCR2、DVDの入力選択キーには工場出荷時にあらかじめヤマハのメーカーコードが設定されています。詳しくは、73、74ページをご覧ください。

入力選択キー	ライブラリー	メーカーコード
A	LD	Yamaha-1
B	CD-R	Yamaha
PHONO	TV	–
V-AUX	VCR	–
TUNER	TUNER	Yamaha-1
MD/CD-R	MD	Yamaha-1
CD	CD	Yamaha-1
DTV/CBL	TV	–
VCR 1	VCR	–
DVR/VCR 2	DVR	Yamaha
DVD	DVD	Yamaha-1

ご注意

お使いのヤマハ機器によっては、初期設定されているヤマハのメーカーコードでは、操作できない場合があります。この場合は、ヤマハの別のメーカーコードをお試しください。

メーカーコード一覧

本機のリモコンに内蔵されているライブラリーは全世界対応です。下表は主に日本で流通しているメーカーのコードを抜粋したものです。下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。他社のメーカーコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。

TV

メーカー名	短縮表示	フル表示
AIWA	Aiwa	–
BEST	Bsta1～4	Best/14M01-1～4
	Bstb	Best/14M02
	Bstc	Best/14M10
	Bstd1～4	Best/20M01-1～4
	Bste1～4	Best/20M02-1～4
	Bstf	Best/20M03
	Bstg	Best/25M010
	Bsth	Best/D25AV10
DACUS	Dacu1～2	Dacus-1～2
DAEWOO	Daew1～9	Daewoo-1～9
FUNAI	Funa1～8	Funai-1～8
GENERAL (FUJITSU GENERAL)	Gener	General
GOLDSTAR（LG）	Gold1～9	Goldstar-1～9
HITACHI	Hita1～9	Hitachi-1～9
INTERCONP	Intcp	Interconp
MITSUBISHI	Mits1～9	Mitsubishi-1～9
NEC	NEC-1～9	–
PANASONIC	Pana1～8	Panasonic-1～8
PHILIPS	Phip1～3	Philips-1～3
PIONEER	Pion1～4	Pioneer-1～4
SAMSUNG	Sams1～9	Samsung-1～9
	Samsu	Samsung
SANYO	Sany1～9	Sanyo-1～9
SHARP	Shar1～9	Sharp-1～9
SONY	Sony1～7	Sony-1～7
TOSHIBA	Tosh1～7	Toshiba-1～7
VICTOR	Vict1～4	Victor-1～4
YAMAHA	Yama1～3	Yamaha-1～3

ケーブル TV チューナー

メーカー名	短縮表示	フル表示
PIONEER	Pion1～2	Pioneer-1～2

BS デジタルチューナー

メーカー名	短縮表示	フル表示
PANASONIC	Panas	Panasonic
SONY	Sony	–
TOSHIBA	Tosh1～2	Toshiba-1～2

テープデッキ

メーカー名	短縮表示	フル表示
AIWA	Aiwa1～3	Aiwa-1～3
AKAI	Akai	–
DENON	DENON	–
KENWOOD	Kenw1～6	Kenwood-1～6
MARANTZ	Mara1～2	Marantz-1～2
MITSUBISHI	Mitsu	Mitsubishi
ONKYO	Onky1～2	Onkyo-1～2
PIONEER	Pion1～3	Pioneer-1～3
SANSUI	Sans1～2	Sansui-1～2
SHARP	Sharp	–
SONY	Sony1～3	Sony-1～3
TEAC	Teac1～2	–
TECHNICS	Tech1～2	Technics-1～2
VICTOR	Victr	Victor
	JVC-1～3	–
YAMAHA	Yama1～7	Yamaha-1～7

ビデオデッキ

メーカー名	短縮表示	フル表示
AIWA	Aiwa1～2	Aiwa-1～2
DAEWOO	Daew1～3	Daewoo-1～3
FUNAI	Funai	–
GOLDSTAR（LG）	Gold1～3	Goldstar-1～3
HITACHI	Hita1～7	Hitachi-1～7
MITSUBISHI	Mits1～6	Mitsubishi-1～6
NEC	NEC-1～7	–
PANASONIC	Pana1～9	Panasonic-1～9
SAMSUNG	Sams1～4	Samsung-1～4
SANYO	Sany1～5	Sanyo-1～5
SHARP	Shar1～2	Sharp-1～2
SHINTOM	Shint	Shintom
SONY	Sony1～7	Sony-1～7
TOSHIBA	Tosh1～7	Toshiba-1～7
VICTOR	Vict1～2	Victor-1～2
	JVC-1～5	–
YAMAHA	Yama1～2	Yamaha-1～2

DVD プレーヤー

メーカー名	短縮表示	フル表示
DENON	DENON	—
HITACHI	Hitac	Hitachi
KENWOOD	Kenwo	Kenwood
MITSUBISHI	Mitsu	Mitsubishi
ONKYO	Onky1～2	Onkyo-1～2
PANASONIC	Panas	Panasonic
PHILIPS	Phip1～2	Philips-1～2
PIONEER	Pion1～2	Pioneer-1～2
RCA	RCA	—
SAMSUNG	Samsu	Samsung
SHARP	Sharp	—
SONY	Sony	—
TOSHIBA	Tosh1～2	Toshiba-1～2
VICTOR	JVC-1～2	—
YAMAHA	Yama1～3	Yamaha-1～3

DVD レコーダー

メーカー名	短縮表示	フル表示
PANASONIC	Pana1～3	Panasonic-1～3
PHILIPS	Phips	Philips
PIONEER	Pion1～3	Pioneer-1～3
TOSHIBA	Toshi	Toshiba
YAMAHA	Yamah	Yamaha

LD プレーヤー

メーカー名	短縮表示	フル表示
AIWA	Aiwa	—
DENON	DENON	—
FUNAI	Funai	—
HITACHI	Hitae	Hitachi (E)
KENWOOD	Kenw1～2	Kenwood-1～2
MARANTZ	Maran	Marantz
MITSUBISHI	Mitsu	Mitsubishi
PANASONIC	Pana1～2	Panasonic-1～2
PHILIPS	Phips	Philips
PIONEER	Pion1～3	Pioneer-1～3
SHARP	Sharp	—
SONY	Sony1～3	Sony-1～3
VICTOR	Victr	Victor
YAMAHA	Yama1～2	Yamaha-1～2

CD プレーヤー

メーカー名	短縮表示	フル表示
AIWA	Aiwa1～4	Aiwa-1～4
DENON	DENO1～3	DENON-1～3
GOLDSTAR（LG）	Gold1～4	Goldstar-1～4
HITACHI	Hita1～4	Hitachi-1～4
KENWOOD	Kenw1～9	Kenwood-1～9
KYOCERA	Kyoce	Kyocera
LUXMAN	Luxm1～6	Luxman-1～6
MARANTZ	Mara1～5	Marantz-1～5
MITSUBISHI	Mits1～2	Mitsubishi-1～2
NAKAMICHI	Naka1～3	Nakamichi-1～3
NEC	NEC-1～3	—
ONKYO	Onky1～5	Onkyo-1～5
PANASONIC	Pana1～4	Panasonic-1～4
PHILIPS	Phip1～2	Philips-1～2
PIONEER	Pion1～3	Pioneer-1～3
SAMSUNG	Samsu	Samsung
SANSUI	Sans1～5	Sansui-1～5
SANYO	Sany1～4	Sanyo-1～4
SHARP	Shar1～5	Sharp-1～5
SONY	Sony1～4	Sony-1～4
TEAC	Teac1～7	—
TECHNICS	Tech1～3	Technics-1～3
TOSHIBA	Tosh1～2	Toshiba-1～2
VICTOR	Victr	Victor
YAMAHA	Yama1～7	Yamaha-1～7

CD レコーダー

メーカー名	短縮表示	フル表示
HITACHI	Hitac	Hitachi
MARANTZ	Mara1～2	Marantz-1～2
PHILIPS	Phips	Philips
PIONEER	Pion1～2	Pioneer-1～2
VICTOR	JVC	—
YAMAHA	Yamah	Yamaha

MD レコーダー

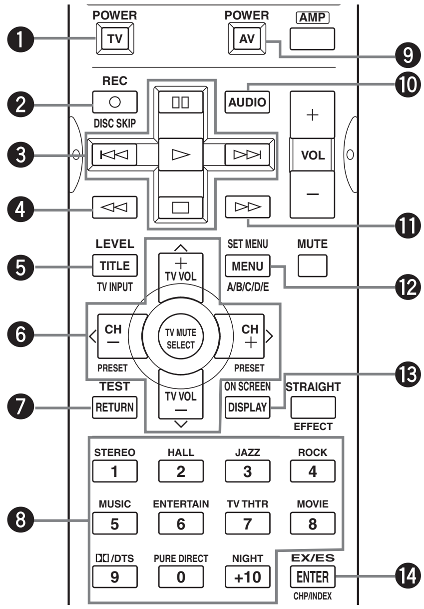
メーカー名	短縮表示	フル表示
KENWOOD	Kenwo	Kenwood
PIONEER	Pione	Pioneer
SHARP	Sharp	—
SONY	Sony	—
YAMAHA	Yama1～4	Yamaha1～4

設定した機器を操作する

お使いの機器のメーカーコードを設定すると、その機器を本機のリモコンで操作することができます。

ご注意

- お使いの機器によっては、いくつかのキーが機能しないことがあります。このような場合には、お使いの機器に付属するリモコンをお使いください。
- お使いの機器によっては、キー操作と説明が一致しないことがあります
- 工場出荷時、A 、B 、TUNER、MD/CD-R、CD、DVR/VCR2、DVD キーにはヤマハメーカーコードが設定されています。他社製の機器を操作する場合は、メーカーコードを変更する必要があります。また上記以外の機器を操作するには、ライブラリー / メーカーコードをあらかじめ設定してください（☞71 ページ）。



	DVD プレーヤー / DVD レコーダー	ビデオデッキ	テレビ	LD プレーヤー	CD プレーヤー	CD/MD レコーダー	チューナー
❶ TV POWER	*2(テレビ)POWER	*2(テレビ)POWER	*1POWER	*2(テレビ)POWER	*2(テレビ)POWER	*2(テレビ)POWER	*2(テレビ)POWER
❷ REC/DISC SKIP	*4(プレーヤー)ディスクスキップ (レコーダー)録画	録画	*3(ビデオデッキ)録画		*4 ディスクスキップ	(MD) 録音	
❸ ▷	再生	再生	*3(ビデオデッキ)再生	再生	再生	再生	
▷▷|	チャプタースキップ(+)			スキップ (+)	スキップ (+)	スキップ (+)	
|◁◁	チャプタースキップ(−)			スキップ (−)	スキップ (−)	スキップ (−)	
▯▯	一時停止	一時停止	*3(ビデオデッキ)一時停止	一時停止	一時停止	一時停止	
□	停止	停止	*3(ビデオデッキ)停止	停止	停止	停止	
❹ ◁◁	早戻し	巻き戻し	*3(ビデオデッキ)巻戻し	早戻し	早戻し	早戻し	
❺ TITLE/TV INPUT	タイトルメニュー	*2(テレビ) 入力切替	入力切替	*2(テレビ) 入力切替	*2(テレビ) 入力切替	*2(テレビ) 入力切替	
❻ TV VOL + / ∧	選択 (上へ)	*2(テレビ) 音量 (+)	音量 (+)	*2(テレビ) 音量 (+)	*2(テレビ) 音量 (+)	*2(テレビ) 音量 (+)	
TV VOL − / ∨	選択 (下へ)	*2(テレビ) 音量 (−)	音量 (−)	*2(テレビ) 音量 (−)	*2(テレビ) 音量 (−)	*2(テレビ) 音量 (−)	
CH + / 〉	選択 (右へ)	チャンネル選択 (+)	チャンネル選択 (+)	*2(テレビ)チャンネル選択(+)	*2(テレビ)チャンネル選択(+)	*2(テレビ)チャンネル選択(+)	登録局選択 (+)
CH + / 〈	選択 (左へ)	チャンネル選択 (−)	チャンネル選択 (−)	*2(テレビ)チャンネル選択(−)	*2(テレビ)チャンネル選択(−)	*2(テレビ)チャンネル選択(−)	登録局選択 (−)
TV MUTE/SELECT	メニュー決定	*2(テレビ) 消音	消音	*2(テレビ) 消音	*2(テレビ) 消音	*2(テレビ) 消音	
❼ RETURN	前の画面へ戻る						
❽ 1 ～ 9、0、+10	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	
❾ AV POWER	*1POWER	*1POWER	*3(ビデオデッキ)POWER	*1POWER	*1POWER	*1POWER	*1POWER
❿ AUDIO	オーディオメニュー			サウンドメニュー			
⓫ ▷▷	早送り	早送り	*3(ビデオデッキ)早送り	早送り	早送り	早送り	
⓬ MENU/A/B/C/D/E	メニュー						登録グループ選択(A/B/C/D/E)
⓭ DISPLAY	ディスプレイ表示		ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	
⓮ ENTER/CHP/INDEX	タイトル / インデックス表示	決定	数字キー（12）	チャプター / 時間表示	インデックス表示	インデックス表示	

*1 機器のリモコンに POWER キーがあるとき、機能します。

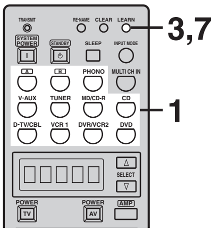
*2 DTV/CBL または PHONO にテレビのメーカーコードが設定されているときは、入力を切り替えなくてもテレビを操作できます。DTV/CBL と PHONO の両方にテレビのメーカーコードが設定されている場合は、DTV/CBL に設定されたメーカーコードが優先されます。

*3 VCR 1 にビデオデッキのメーカーコードが設定されているときは、入力を切り替えなくてもビデオデッキを操作できます。

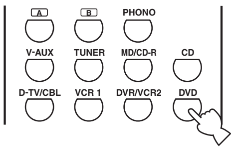
*4 ディスクチェンジャー機能がある機器のみ、機能します。

他の機器のリモコン機能を記憶させる

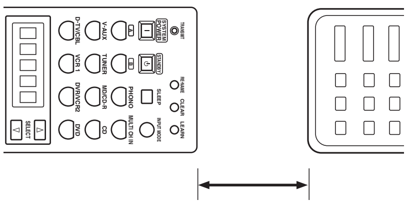
メーカーコードを設定しても、お使いの機器を操作できない場合や、お使いの機器のメーカーコードがない場合は、その機器のリモコン信号を本機のリモコンに記憶（ラーニング）させることで、操作ができるようにします。入力選択した機器ごとに別の機能をラーニングさせることができます。



1 操作したい機器の入力選択キーまたは A / B キーを押す。



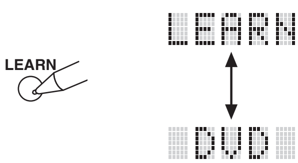
2 本機のリモコンと、外部機器のリモコンを約５～10cm離し、赤外線送受信部が互いに対向するように置く。



５～10cmの間隔をあける

3 LEARNボタンを押す。

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「LEARN」と、選んだ入力ソースの名前が交互に表示されます。



ご注意

LEARNボタンを３秒以上押すと、メーカーコード設定モード（☞71ページ）に切り替わります。

4 新しい機能をラーニングさせたい、本機のリモコンのキーを押す。

リモコンディスプレイに「LEARN」と表示されます。

5 リモコンディスプレイに「OK」と表示されるまで、外部機器のリモコンのラーニングさせたい機能のキーを押し続ける。

ご注意

- 「NG」と表示されたときは、ラーニングが正しく行われていません。手順５から操作をやりなおしてください。
- メモリー容量がいっぱいになっている場合は、リモコンディスプレイに「FULL」が表示され、それ以上のラーニングはできません。新しいラーニングをするときは、ラーニング済みのキーから不要なものを消去してください。

6 手順４～５を繰り返し、機能をラーニングさせる。

別の機器に機能をラーニングさせる場合は、手順３の状態でSELECT∆/∇キーを押して、機器を変更します。

7 LEARNボタンを押して、ラーニングを終了する。

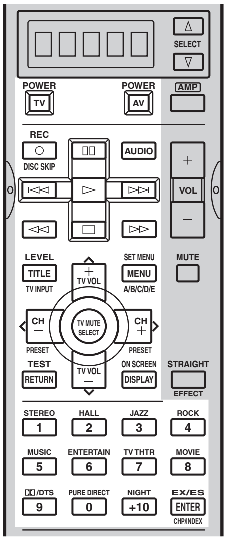
リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

- 手順３以降の操作は、それぞれ操作後30秒以内に行ってください。30秒以上経過するとラーニングが自動的に中止されます。この場合は、手順４から操作しなおしてください。
- 以下の場合は、ラーニングできないことがあります。
  - 本機のリモコンまたは外部機器のリモコンの乾電池が消耗している場合
  - ２台のリモコンの間隔が近すぎる、または離れすぎている場合
  - リモコンの受光部の角度が適切でない場合
  - リモコンに直射日光が当たっている場合
  - 特殊な信号や連続した信号の場合
- 手順で指定されたキー以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

■ ラーニングに対応しているキー

下図の白色で示した部分のキーに、ラーニングすることができます。

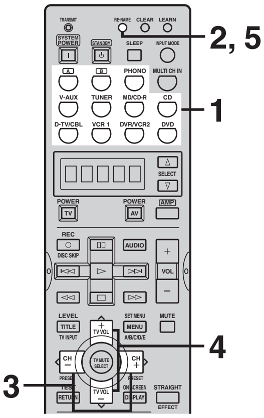


ご注意

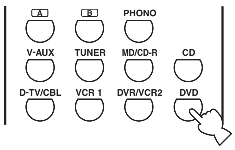
入力選択キー、VOL＋/－キー、MUTEキー、STRAIGHT/EFFECTキーにラーニングすることも可能ですが、本機の操作ができなくなります。

リモコンに表示される機器の名前を変更する

入力選択キーを押してリモコンのディスプレイに表示される機器名は、入力機器を接続した端子名に対応しています。端子名と異なった機器を本機に接続したときや、お使いのシステムにあったわかりやすい名前をつけたいときなどに、リモコンに表示される機器名を変更することができます。

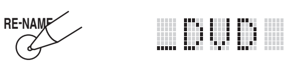


1 名前を変更したい機器の入力選択キーまたは A / B キーを押す。

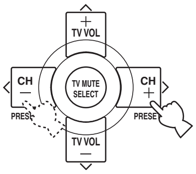


2 RE-NAME ボタンを押す。

ボールペンなど先の細いもので押します。左端にカーソルが点滅します。



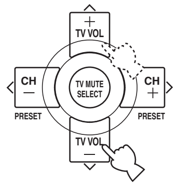
3 〈または〉キーを押して、文字を入力したい位置にカーソルを移動する。



4 ∧または∨ キーを押して、入力する文字を選ぶ。

入力できる文字は以下のとおりです。

- アルファベット大文字（A～Z）
- アルファベット小文字（a～z）
- 数字（0～9）
- スペース（空白）
- 記号（/、－）



必要に応じて手順3と4を繰り返します。文字は最大5文字まで入力できます。
引き続き他の機器の名前を変更する場合は、SELECTキーを押してから、手順1、3～4を繰り返します。

5 RE-NAMEボタンを押して、名前の変更を終了する。

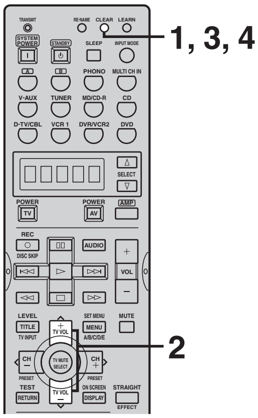
リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意

手順で指定されたキー以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

リモコンを初期化する

設定したライブラリー、メーカーコードやラーニングした操作を取り消して、工場出荷時の設定に戻すことができます。

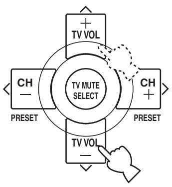


1 CLEAR ボタンを押す。

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「CLEAR」と表示されます。



2 ∧または∨ キーを押して、消去モードを選ぶ。



消去モードは以下の５種類です。

L:（機器名）:
表示されている入力機器の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。入力選択キー、またはSELECT∆/∇キーで消去する入力機器を選択してください。

L：AMP：
本機の操作キーにラーニングされた機能をすべて消去します。

L：ALL：
入力機器に関わらず、ラーニングされた機能をすべて消去します。

RNAME：
変更した入力ソースの名前をすべて工場出荷時の設定に戻します。

FCTRY：
メーカーコードを含む、すべてのリモコンの設定を工場出荷時の設定に戻します。

ヒント
ラーニングされた機能をひとつずつ消去する場合は、「ラーニングされた機能を消去する」（☞80ページ）をご覧ください。

3 CLEAR ボタンを３秒以上押し続ける。

リモコンディスプレイに「C:OK」と表示され、手順２で選んだ機能や設定が消去されます。



ご注意
「C：NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。手順２から操作しなおしてください。

4 CLEARボタンを押して、消去を終了する。

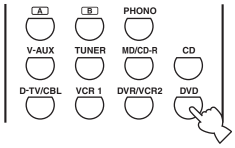
リモコンが通常の状態に戻ります。

ご注意
- 手順１以降の操作は、それぞれ操作後 30 秒以内に行ってください。30 秒経過すると消去が自動的に中止されます。この場合は、手順１から操作しなおしてください。
- 手順で指定されたキー以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

■ラーニングされた機能を消去する

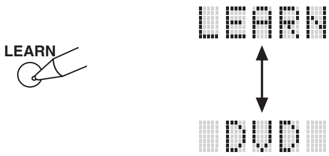
ラーニングされた機能のうち、特定のキーに割り当てた機能だけを消去することができます。

1 取り消したい機器の入力選択キーまたは A / B キーを押す。



2 LEARN ボタンを押す。

ボールペンなど先の細いもので押します。リモコンディスプレイに「LEARN」と、選んだ入力ソース名が交互に表示されます。



3 CLEAR ボタンを押しながら、機能を消去したいキーを３秒以上押す。

リモコンディスプレイに「C：OK」と表示されます。



引き続き消去したいキーがある場合は、「C：OK」の表示が消えてから、手順３の操作を繰り返してください。

ご注意

「C：NG」と表示されたときは、消去が正しく行われていません。もう一度CLEAR ボタンを押しながら、消去したいキーを押してください。

4 LEARNボタンを押して、消去を終了する。

リモコンが通常の状態に戻ります。

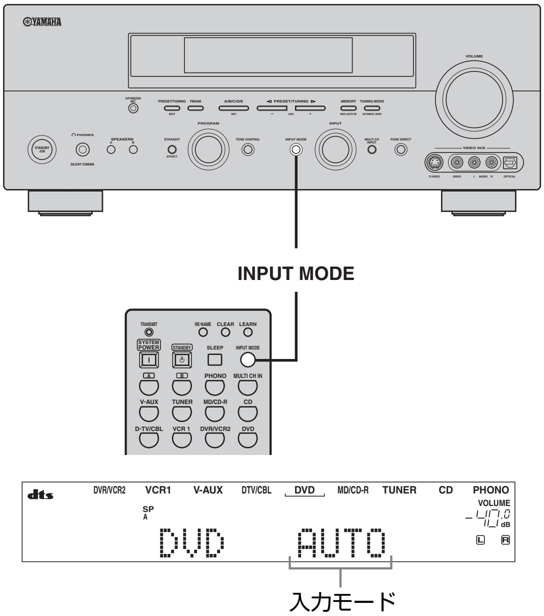
ご注意

- 手順２以降の操作は、それぞれ操作後30 秒以内に行ってください。30 秒以上経過すると消去が自動的に中止されます。この場合は、手順２から操作しなおしてください。
- 手順で指定されたキー以外を操作すると、リモコンディスプレイに「ERROR」と表示されます。このような場合は、手順に沿ってはじめから操作しなおしてください。

デジタル信号/アナログ信号を切り替える（入力モード切り替え）

本機は、多彩な入力端子を装備しています。入力モードを切り替えることにより、入力信号のアナログ/デジタルの優先順位を設定したり、DTSなどの特定の信号に固定することができます。

INPUT MODEキーを押すと、現在の入力モードが表示されます。入力モード表示中にもう一度押すと、入力モードが切り替わります。



AUTO

以下の順序で信号が選ばれます。
①デジタル信号
②アナログ信号

DTS

DTS信号に固定されます。DTS信号以外の信号が入力されても再生されません。

AAC

AAC信号に固定されます。AAC信号以外の信号が入力されても再生されません。

ANALOG

アナログ信号に固定されます。デジタル信号が同時に入力されても再生されません。

ヒント

- セットメニュー「INPUT MODE」の設定で、本機の電源を入れたときに、前回使っていた入力モードをそのまま使うか、「AUTO」に戻すかを設定できます（☞56、65ページ）。
- 同軸デジタル入力端子と光デジタル入力端子へ同時にデジタル信号が入力されると、同軸デジタル入力端子への入力信号が優先されます。

■ デジタル信号のサンプリング周波数について

本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数96kHzまでのデジタル信号に対応しています。
48kHzを超えるデジタル信号にHiFi DSPおよびCINEMA DSP音場プログラムの音場効果を付加する場合は、サンプリング周波数は48kHz以下に変換されたあとに、効果が付加されます。

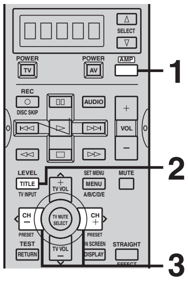
■ DTS CD/DTS LDの再生について

- DTS音声を「AUTO」に設定して再生すると、本機はDTS信号を検出して自動的にDTS再生モードに切り替えます。
  ただし、DTS音声の再生が終わったり、再生中にサーチ、スキップまたは一時停止などの操作をして30秒以上DTS信号が途切れると、DTS再生モードはいったん解除されます。DTS再生モードが解除された状態でDTS信号を入力すると、一瞬ノイズが出力される場合がありますので、DTS CD/LDを再生する場合は、入力モードを「DTS」に設定してお楽しみください。
- プレーヤーから出力されるデジタル信号に、音量可変などの処理がされている場合は、本機とプレーヤーをデジタル接続してもDTS音声は再生されません。

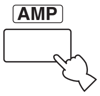
スピーカーの音量を調節する

再生しながら調節する

再生音を聴きながら、各スピーカーの音量を調節します。



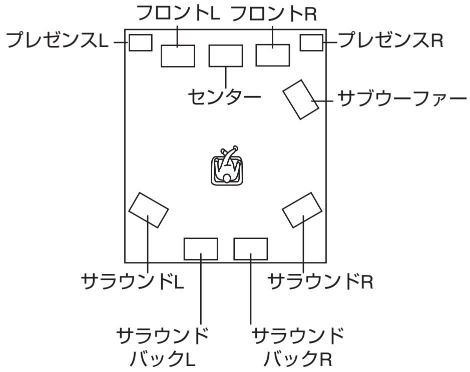
1 AMP キーを押して、AMP を選ぶ。
リモコンディスプレイに「AMP」と表示されていることを確認してください。



2 LEVEL キーを繰り返し押して、調節したいスピーカーを選ぶ。

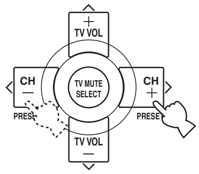


表示	スピーカー
FRONT L	フロント L
CENTER	センター
FRONT R	フロント R
SUR.R	サラウンド R
SUR.B.R	サラウンドバック R
SUR.B.L	サラウンドバック L
SUR.L	サラウンド L
SWFR	サブウーファー
PRES	プレゼンス L/R



ヒント
セットメニュー「SPEAKER SET」の「SURR B L/R SP」をLRGx1またはSMLx1に設定した場合、「SUR.B R」および「SUR.B.L」は表示されません。かわりに「SUR.B」と表示され、1 台のみの調節になります(☞57ページ)。

3 〈または〉キーを押して、スピーカーの音量を調節する。
音量の調節範囲は、－10～+10dBです。

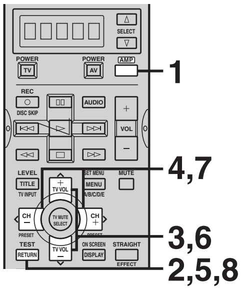


ヒント
MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生しているときは、独立して音量調節ができます。

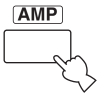
ご注意
- セットメニュー「SPEAKER SET」でNONEに設定されているスピーカーの音量は調節できません(☞57ページ)。
- セットメニュー「SPEAKER　SET」の「LFE/BASS OUT」をFRNTに設定している場合、サブウーファーの調節はできません(☞58ページ)。
- LEVEL キーでスピーカーの音量を調節すると、テストトーンで調節したスピーカーの音量も変更されます。

テストトーンを使って調節する

テストトーンを使って、リスニングポジションで聞こえる各スピーカーの音量が、すべて同じになるように調節します。



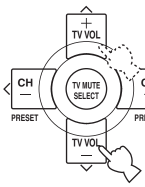
1 AMPキーを押して、AMPを選ぶ。
リモコンディスプレイに「AMP」と表示されていることを確認してください。



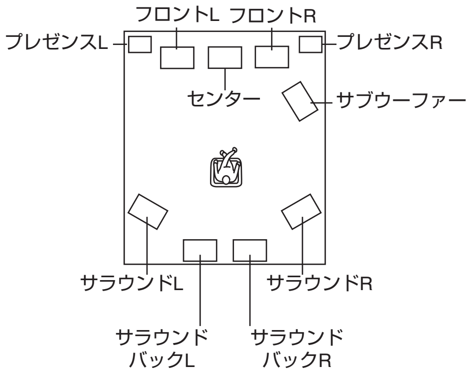
2 TESTキーを押す。
テストトーンが出力されます。



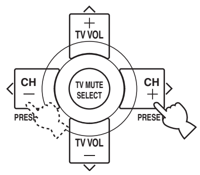
3 ∧ または ∨ キーを押して、調節したいスピーカーを選ぶ。



表示	スピーカー
TEST LEFT	フロントL
TEST CENTER	センター
TEST RIGHT	フロントR
TEST SUR.R	サラウンドR
TEST SUR.B.R	サラウンドバックR
TEST SUR.B.L	サラウンドバックL
TEST SUR.L	サラウンドL
TEST SUBWOOFER	サブウーファー



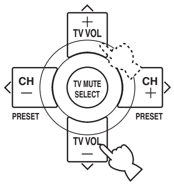
4 〈または〉キーを押して、スピーカーの音量を調節する。



5 調節が終わったら、TESTキーを押す。
テストトーンが止まります。
セットメニュー「SPEAKER SET」の「PRESENCE SP」をYESに設定している場合は、プレゼンスL/Rスピーカーの音量調節に入ります（手順6へ）。



6 ︿または﹀キーを押して、テストトーンを出力するスピーカーを選ぶ。



表示	スピーカー
TEST FRONT	フロント L/R
TEST PRESENCE	プレゼンス L/R
TEST PRES L	プレゼンス L
TEST PRES R	プレゼンス R

7 〈または〉キーを押して、プレゼンススピーカーの音量を調節する。

8 調節が終わったら、TEST キーを押す。

テストトーンが止まります。

ヒント

再生するソースによっては、テストトーンで調節したスピーカーの音量が、お好みに合わない場合があります。この場合は、再生しながら調節してください（☞82ページ）。

ご注意

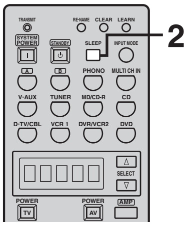
- ヘッドホンを接続していると、テストトーンを使えません。PHONES 端子からヘッドホンを外してください。
- セットメニュー「SPEAKER SET」で NONE に設定されているスピーカーの音量は調節できません（☞57ページ）。
- セットメニュー「SPEAKER　SET」の「LFE/BASS OUT」を FRNT に設定している場合、サブウーファーの調節はできません（☞58 ページ）。

一定時間後に自動的にスタンバイ状態にする（スリープタイマー）

設定した時間が経過すると、自動的にスタンバイ状態になるように設定します。聴きながら、または録音しながらおやすみになりたいときなどに便利です。スリープタイマーが作動すると、本機背面のACアウトレット（☞31ページ）に接続した機器の電源も切れます。

スリープタイマーを設定する

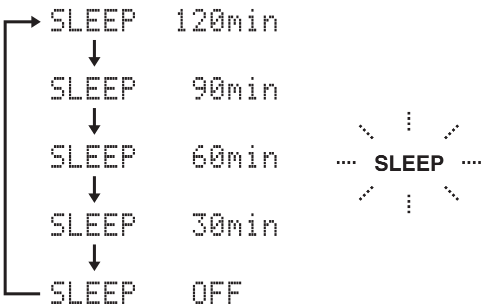
リモコンで操作します。



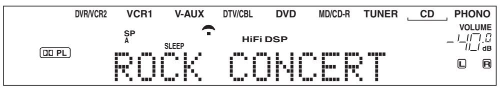
1 **ソースを選んで、再生する。**

2 **SLEEPキーを繰り返し押して、スタンバイ状態になるまでの時間を選ぶ。**

SLEEPキーを押すごとに、下記のように時間が切り替わります。その間はSLEEPインジケーターが点滅します。



SLEEPインジケーターが点灯に変わると、スリープタイマーの時間設定が完了します。



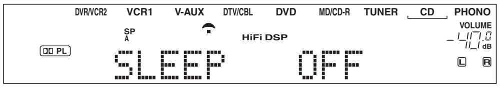
ヒント

タイマー再生したいときは、市販のタイマーを使います。本機では再生したい入力ソースを選び、音量を調節しておきます。再生機器やタイマーの取扱説明書もあわせて参照してください。

スリープタイマーを解除する

「SLEEP OFF」の表示が出るまで、SLEEPキーを押します。「SLEEP OFF」が数秒表示されたあと、音場プログラムの表示に戻り、SLEEPインジケーターも消灯します。



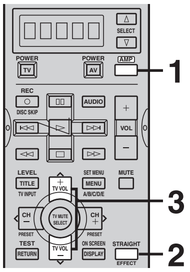


ヒント

リモコンのSTANDBYキー、または本体のSTANDBY/ONスイッチを押すか、電源コードを抜くと、スリープタイマーは解除されます。

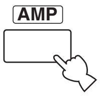
入力信号情報を表示する

入力信号のフォーマット、チャンネル数やサンプリング周波数などの情報を表示させることができます。



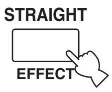
1 AMP キーを押して、AMP を選ぶ。

リモコンディスプレイに「AMP」と表示されていることを確認してください。



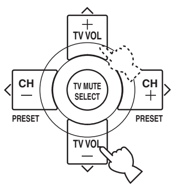
2 STRAIGHT/EFFECT キーを押す。

本体ディスプレイに「STRAIGHT」と表示されます。



3 ∧または∨キーを押す。

入力信号の情報が表示されます。



入力信号のフォーマットの情報

表示	フォーマット
Analog	アナログ
PCM	PCM
Dolby Digital	ドルビーデジタル
DTS	DTS
AAC	AAC
Unknwn Digital	不明なデジタル信号

チャンネル数やサンプリング周波数などの情報

in

入力信号の音声チャンネル数(ドルビーデジタル/DTS/AAC入力時のみ)。
例えば、「in:3/2/LFE」と表示された場合は、「フロント3チャンネル/サラウンド2チャンネル/LFE」を示しています。また、二カ国語放送などの主+副の2チャンネル音声は「1 + 1 」、3音声以上の音声多重形式の音声は「MLT」と表示されます。

fs

入力信号のサンプリング周波数(デジタル信号入力時のみ)。サンプリング周波数が不明の場合は、「unknown」と表示されます。

rate

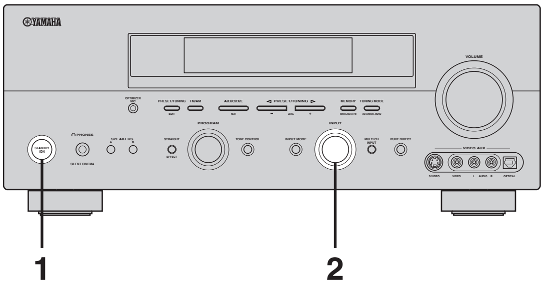
入力信号の1秒あたりのデータ量=ビットレート。ビットレートが不明の場合は、「unknown」と表示されます。

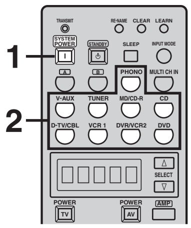
flg

入力信号に含まれている、ある動作をさせるための識別信号=フラグ(ドルビーデジタル/DTSのみ)。フラグが認識できなかった場合は、「None」と表示されます。

外部機器で録音 / 録画する

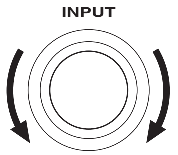
本機に接続した録音 / 録画機器で、音声や映像を録音 / 録画できます。



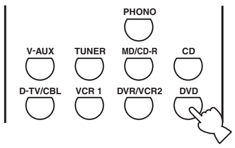


1 本機および本機に接続されているすべての機器の電源を入れる。

2 本体の INPUT セレクター、またはリモコンの入力選択キーで録音 / 録画したいソースを選ぶ。



本体



リモコン

3 ソースを再生する。

再生する機器の取扱説明書をご覧ください。
FM/AM 放送を録音したいときは、放送局を選局します（☞43ページ）。

4 録音 / 録画を開始する。

録音 / 録画する機器の取扱説明書をご覧ください。

ヒント

- 録音 / 録画する前に、あらかじめ「試し録音」「試し録画」をしてください。
- 録音されるレベルの調節や操作は、それぞれの録音機器で行います。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機をスタンバイ状態にすると、接続した機器間で録音 / 録画できません。
- 入力ソースの出力端子からは、信号は出力されません（例：VCR 1 入力端子へ入力された信号は、VCR 1 出力端子から出力されません）。
- 本機の DSP 処理による音場効果は、録音できません。
- 録音中に、音量や音質を調節したり、音場プログラムを変更しても、録音される音声には影響しません。
- MULTI CH INPUT 端子に入力された信号は、録音できません。
- アナログ音声出力端子から、アナログで録音する場合は、録音したい入力ソースをアナログで接続します。また、光デジタル出力端子から、デジタルで録音する場合は、録音したい入力ソースをデジタルで接続します。
- S ビデオ入力端子に入力された S ビデオ信号は、S ビデオ出力端子からのみ録画できます。同様に、ビデオ入力端子に入力されたビデオ信号は、ビデオ出力端子からのみ録画できます。ビデオコンバージョン機能は作動しません。
- あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

■ DTS LD/DTS CD 音声の録音 / 再生について

DTS 信号はデジタルビットストリームで伝送されるため、DTS 信号をデジタル録音したものをデコーダーを通さずに再生するとノイズだけが再生されます。

- DTS LD または DTS CD の音声をデジタル録音したものを再生する場合は、デコーダーを通して再生してください。
- DTS CD の音声を録音する場合は、DTS デコーダー内蔵の DVD プレーヤーからアナログで録音することをおすすめします。

詳しくは、お使いのプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

音場とは？

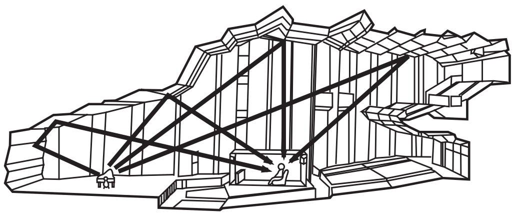


「その空間が持つ特有の音の響き」を音場と呼んでいます。コンサートホールなどで、私達は、楽器の音や歌手の声が直接聴こえてくる「直接音」の他に、床や壁・天井などに一回反射してから聴こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射を繰り返しながら次第に減衰してゆく「後部残響音」を聴くことになります。建物内部の形状や広さ、それに内装材料の種類等によって、初期反射音や残響音の構成が異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。
ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向・強さ・帯域特性・遅延時間等の音場情報を実際に測定し、その膨大なデータをROMに蓄積しています。本機では、この音場測定の実測データを基に作成された、音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウス等の音場をリスニングルームに再現することができます。

音場を構成する要素

初期反射音
１つの表面（壁や天井など）に反射してから、極めて急速（直接音が発生してから50msから80ms後）にリスナーの耳に到達する反射音です。初期反射音により、直接音に明瞭さが付加されます。

後部残響音
２つ以上の表面（壁や天井、部屋の後部など）に何回も反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになり、連続した音響の余韻となる音です。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。



反射音のイメージ

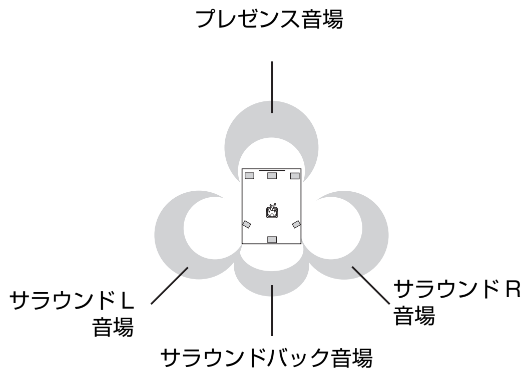
直接音、初期反射音、後部残響音がひとつになることで、リスナーは演奏会場や劇場をイメージすることができるのです。デジタル音場プロセッサーはこの反射音、残響音を再現して、音場を作り出します。

リスニングルームで適切な反射音や後部残響音を再現できれば、独自のリスニング音場を作り出すことができるわけです。リスニングルームをコンサートホール、ダンスフロア、大聖堂などさまざまな演奏会場や劇場の音響効果に変えることができます。意のままに音場を再現する能力こそ、デジタル音場プロセッサーを通じてヤマハがこれまでに実践してきたことです。

音場の種類

本機がつくりだす音場は大きくわけて以下の３つです。

- **プレゼンス音場**
  前方に広がる音場です。
- **サラウンド音場**
  後方に広がる音場です。
- **サラウンドバック音場**
  後方中央につくりだされる音場です



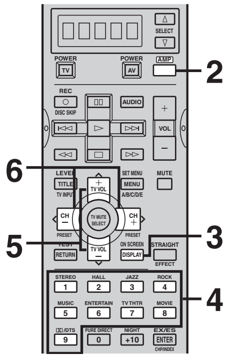
音場プログラムパラメーターを変更する

各音場プログラムのパラメーターは、初期設定のままで十分お楽しみいただけますが、音場プログラムの一部のパラメーターを変更することにより、ソースやリスニングルームの音響にあわせて音場プログラムをアレンジできます。

ご注意

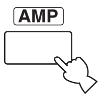
セットメニュー「MEMORY GUARD」をONに設定しているとパラメーターを変更できません。変更する前にOFFに設定してください（☞56、67ページ）。

リモコンで操作します。

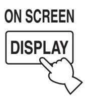


1 **本機とテレビの電源を入れる。**

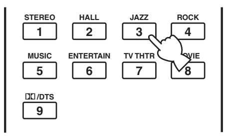
2 **AMPキーを押して、AMPを選ぶ。**
リモコンディスプレイに「AMP」と表示されていることを確認してください。



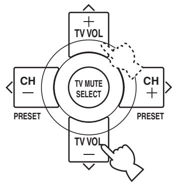
3 **ON SCREENキーを押して、オンスクリーン表示をフル表示させる。**



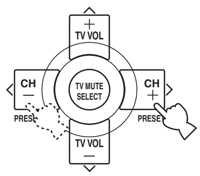
4 **音場プログラムキーを押して、音場プログラムを選ぶ。**



5 **∧または∨キーを押して、変更したいパラメーターを選ぶ。**



6 **＜または＞キーを押して、設定値を変更する。**
初期設定以外に変更すると、パラメーター名の前に、アスタリスク(*)が表示されます。



7 **他の音場プログラムのパラメーターを変更する場合は、手順4〜6を繰り返す。**

パラメーターを初期設定に戻す

■ 一部のパラメーターを初期設定に戻す

初期設定に戻したいパラメーターを選び、初期設定値でいったん表示が止まるまで＜または＞キーを押し続けます。

■ すべてのパラメーターを初期設定に戻す

セットメニュー「PARAM.INI」で、音場プログラムごとにすべてのパラメーターを初期設定に戻すことができます（☞56、67ページ）。

音場プログラムパラメーターガイド

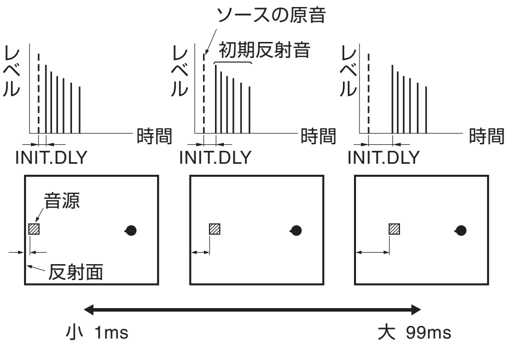
音場プログラムごとにDSP処理の構造が違います。以下のパラメーターはすべての音場プログラムで設定できるわけではありません。

DSP LEVEL（エフェクト量の調節）

エフェクト音量（音場効果のかかり具合）を微調節するパラメーターです。
可変範囲： －６～＋ 3dB

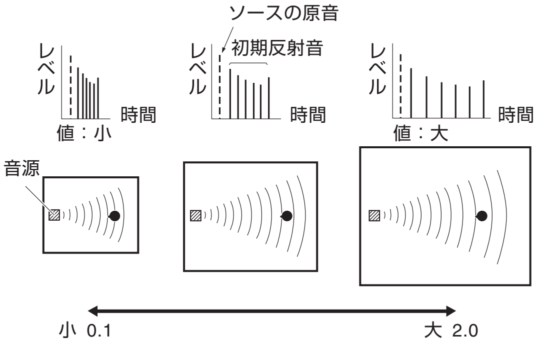
INIT.DLY（遅延時間の調節）

直接音から初期反射音が始まるまでの時間（遅延時間）を調節するパラメーターです。初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。INIT.DLY を調節することにより、ソースの原音から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできかた等が調節できます。
可変範囲： １～ 99ms



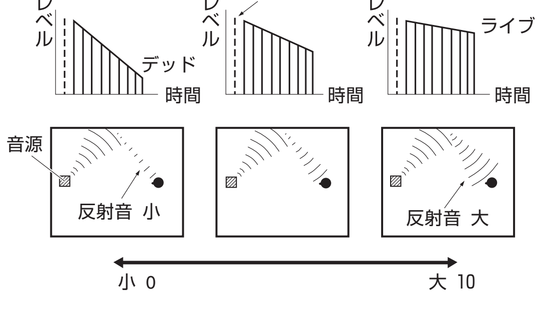
ROOM SIZE（空間の大きさ調節）

空間の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど広い空間（部屋）になり、値を小さくするほど狭い空間になります。音が反射を繰り返すとき、壁と壁の間が広い大きなホールほど、反射音と反射音の時間的な間隔が長くなります。このことから、反射音同士の時間間隔を調節すれば、広がり感を変えることができるということになります。1.0で実測値そのまま、2. 0にすると、一辺の長さが倍の空間になります。
可変範囲： 0.1 ～ 2.0



LIVENESS（反響量の調節）

初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほど、ライブな（反響が多い）音場になり、値を小さくするほどデッドな（反響が少ない）音場になります。実際のホールでのライブ感／デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。
可変範囲： ０～ 10



P.INIT.DLY（プレゼンス音場の遅延時間の調節）
直接音が出てから、プレゼンス音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、プレゼンス音場が遅れて発生します。
可変範囲： 1 ～ 99ms

P.ROOM SIZE
（プレゼンス音場の空間の大きさ調節）
プレゼンス音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、プレゼンス反射音同士の時間間隔が長くなり、ソースに含まれる音楽や効果成分に広がり感が出てきます。
可変範囲： 0.1 ～ 2.0

S.INIT.DLY（サラウンド音場の遅延時間の調節）
直接音が出てから、サラウンド音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンド音場が遅れて発生します。
可変範囲： 1 ～ 49ms

S.ROOM SIZE
（サラウンド音場の空間の大きさ調節）
サラウンド音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドの音場空間が広がります。
可変範囲： 0.1 ～ 2.0

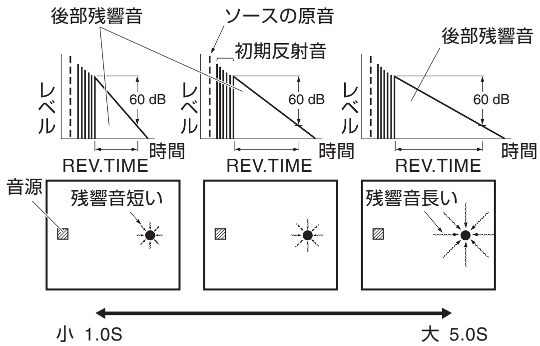
S. LIVENESS（サラウンド音場の反響量の調節）
サラウンド音場の減衰量を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンド音場の響きが強くなります。
可変範囲： 0 ～ 10

SB INI.DLY
（サラウンドバック音場の遅延時間の調節）
直接音が出てから、サラウンドバック音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドバック音場が遅れて発生します。
6.1 または 7.1 チャンネルで再生しているときのみ有効です。
可変範囲： 1 ～ 49ms

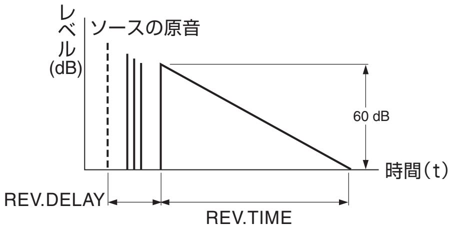
SB ROOM SIZE
（サラウンドバック音場の空間の大きさ調節）
サラウンドバック音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドバックの音場空間が広がります。
6.1 または 7.1 チャンネルで再生しているときのみ有効です。
可変範囲： 0.1 ～ 2.0

SB LIVENES
（サラウンドバック音場の反響量の調節）
サラウンドバック音場の減衰量を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、サラウンドバック音場の響きが強くなります。
6.1 または 7.1 チャンネルで再生しているときのみ有効です。
可変範囲： 0 ～ 10

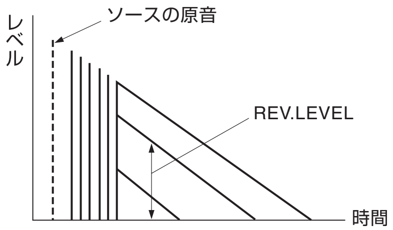
REV. TIME（残響時間の調節）
後部残響音が減衰していく時間を調節するパラメーターです。約 1kHz の残響音が 60dB 減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど、残響音が早く減衰します。REV. TIME を調節することにより、反響が少なめのソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆に反響が多めのソースやリスニングルームには、短い残響時間を設定して自然な残響音となるように調節することができます。
可変範囲： 1.0 ～ 5.0s



REV. DELAY（残響音の遅延時間の調節）
残響音が発生し始めるまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、残響音が初期反射音より遅れて発生するようになります。同じREV. TIMEでも、REV. DELAYを長くしていくと大きな空間の残響感になります。
可変範囲： 0 ～ 250ms



REV. LEVEL（残響音の強さ調節）
後部残響音のレベルを調節するパラメーターです。値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。
可変範囲： 0 ～ 100%



CT LEVEL（センターチャンネルの音量調節）
7ch Stereoプログラムでの、センターチャンネルの音量を調節します。
可変範囲： 0 ～ 100%

SL LEVEL（サラウンドLチャンネルの音量調節）
7ch Stereoプログラムでの、サラウンドLチャンネルの音量を調節します。
可変範囲： 0 ～ 100%

SR LEVEL（サラウンドRチャンネルの音量調節）
7ch Stereoプログラムでの、サラウンドRチャンネルの音量を調節します。
可変範囲： 0 ～ 100%

SB LEVEL（サラウンドバックチャンネルの音量調節）
7ch Stereoプログラムでの、サラウンドバックチャンネルの音量を調節します。
可変範囲： 0 ～ 100%

PR LEVEL（プレゼンスチャンネルの音量調節）
7ch Stereoプログラムでの、プレゼンスチャンネルの音量を調節します。
可変範囲： 0 ～ 100%

PANORAMA（フロント音場の広がり感の調節）
PRO LOGIC II MusicおよびPRO LOGIC IIx Musicプログラムでの、フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。フロントL/Rの音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような広がり感を得ることができます。
選択項目： ON/OFF

DIMENSION（フロント音場とサラウンド音場のレベル差の調節）
PRO LOGIC II MusicおよびPRO LOGIC IIx Musicプログラムでの、フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じる、フロントとサラウンドのレベル差を調節して、好みのバランスにすることができます。－にするとサラウンド側、＋にするとフロント側が強くなります。
可変範囲： －３～STD～＋３

CENTER WIDTH（センター音声の広がりの調節）
PRO LOGIC II MusicおよびPRO LOGIC IIx Musicプログラムでの、センター音声の左右への広がりを調節するパラメーターです。センターからの音声を、好みに合わせて左右に振り分けることができます。0にするとセンターのみ、7にするとフロントL/Rのみからセンター音声が出力されます。
可変範囲： 0 ～ 7

PLII/PLIIx （プロロジックII/プロロジックIIxの切り替え）

2チャンネルのソースをPRO LOGIC IIx Movie/Music/Gameプログラムで再生するときに､2チャンネルソースをマルチチャンネル化するためのデコーダーを切り替えます。
選択項目： PLII、PLIIx

C. IMAGE（フロント音場の広がり感の調節）

DTS Neo:6 Musicプログラムでの、フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く（センターへの定位が強く）なります。
可変範囲： 0.0 ～ 1.0

DIALG.LIFT（セリフの位置調節）

会話など、中央に定位する音の、定位位置（上下方向）を調節するパラメーターです。値を大きくすると上方に定位します。
可変範囲： 0 ～ 5

ご注意

- セットメニュー「PR/SB SELECT」をSBchに設定して、6.1チャンネルまたは7.1チャンネルで再生しているときは、プレゼンス成分がフロントL/Rスピーカーに振り分けられて出力されるため、DIALG. LIFTパラメーターを調節しても効果はありません。

音場プログラムについて

本機には、音楽に最適なHiFi DSP音場プログラム、映画に最適なCINEMA DSP音場プログラム、元の音を忠実にデコードして再現するストレートデコードプログラムが搭載されています。

ご注意

- 本機の音場プログラムは、世界各地の実在のホールなどの音響特性を測定した結果に基づいて設計されています。そのため、前後左右で響きの強さや音量差が異なると感じられる場合がありますが、故障ではありません。
- 音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

HiFi DSP音場プログラム

CDなどのステレオ音楽ソースに最適なプログラムです。

- フロントL/Rスピーカーの他に４本のエフェクトスピーカー（プレゼンスL/プレゼンスR/サラウンドL/サラウンドR）で音場を再現します。
- 入力信号に応じて各種デコーダーが使用されます。

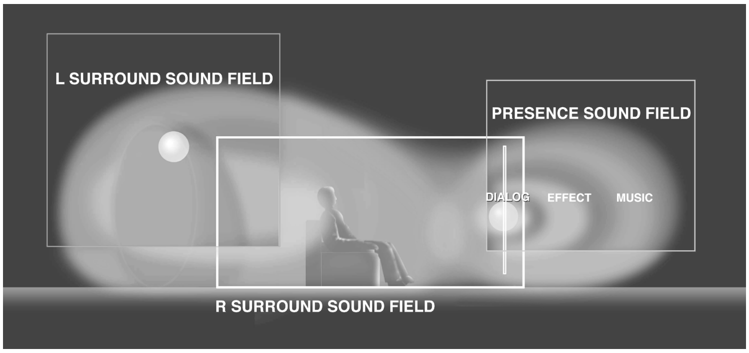
キー	プログラム	サブプログラム	特徴
STEREO 1	STEREO（ステレオ）	7ch Stereo（チャンネル ステレオ）	後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特徴のホームパーティーを演出する音場プログラムです。セットメニューの設定により、最大７つのスピーカーから音が出力されます。
HALL 2	CONCERT HALL（コンサート ホール）	–	1700席程度のウィーンの伝統的なシューボックス型の中規模コンサートホールです。周囲の柱や彫刻により、全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
JAZZ 3	JAZZ CLUB（ジャズ クラブ）	–	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは 300 席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。
ROCK 4	ROCK CONCERT（ロック コンサート）	–	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。客席中央左寄りの音場です。
ENTERTAIN 6	ENTERTAINMENT（エンターテイメント）	Disco（ディスコ）	ディスコミュージックに包まれる、乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。

CINEMA DSP音場プログラム

映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥に、音楽はさらにその奥に拡がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。

ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA DSP音場プログラム」です。映画サラウンドデコーダーであるドルビープロロジック、ドルビーデジタルやDTS、またBS/地上波デジタル放送の音声フォーマットであるAACなどの各デコーダーとヤマハDSPを融合し、映画のサウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ（最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス）でのクオリティをAVルームに再現するサラウンド音場です。

CINEMA DSP音場プログラムでは、フロントL/センター/フロントRチャンネルにもヤマハDSP処理を加えることで、視聴者はセリフの実在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムーズな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。



- 入力信号に応じて、各デコーダーおよび方向性強調回路が使用されます。
- センタースピーカーを使用した場合は、良好なセンター定位が得られます。
- フロントL/Rスピーカーも方向性強調に信号処理された出力になります。
- プレゼンス音場処理によって画面奥行きへの音場表現が得られます。さらに、サラウンド音場処理によってスケールの大きなサラウンド感が得られます。
- 入力モードが「AUTO」に設定されている場合、MOVIE THEATERプログラムとSUR.ENHANCEDプログラムでは、ドルビーデジタル、DTSまたはAAC信号が入力されると、音場プログラムは自動的にドルビーデジタル再生用音場、DTS再生用音場またはAAC再生用音場に切り替わります。

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
ENTERTAIN 6	エンターテイメント ENTERTAINMENT	ゲーム Game	モノラル、ステレオを問わず、ゲームサウンドにビビッドな奥行きとサラウンド感を与え、迫力と臨場感のあるゲームが楽しめます。
MUSIC 5	ミュージック　ビデオ MUSIC VIDEO	–	ロック、ジャズ等のライブコンサート会場のイメージです。サラウンド音場に広いホールのデータを使用しているため、間接音成分が豊かに回り込み、スクリーン周囲への映像空間、音場空間がいっぱいに拡がり、熱狂的な雰囲気にひたれます。
TV THTR 7	テレビ　シアター TV THEATER	モノ　ムービー Mono Movie	古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声が臨場感を持って再生されます。
		バラエティー　スポーツ Variety/Sports	プレゼンス音場は狭めてありますが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
MOVIE 8	ムービー シアター MOVIE THEATER	スペクタクル Spectacle	70mm 映画の大画面シアターそのものの超ワイドな空間に映画の空気がそのまま存在するようなスペクタクルな音場です。微妙な音の響きまでも再現する表現力をもち、映像と空間に今までにないリアリティを生み出します。70mm 映画初期の作品から最新のドルビーデジタルソフトおよび DTS ソフトまで、幅広くスペクタクルな世界が楽しめます。
		サイファイ Sci-Fi	最新のSFX映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニックを駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタル、DTSソフトまで、サイエンス・フィクションの世界を仮想空間音場で楽しめます。
		アドベンチャー Adventure	最新の映画サウンドデザインを最高に再現するプログラムです。70mm/ ドルビーデジタル、DTS および AAC マルチトラックにデザインされた演出を忠実に再現するとともに音場プログラム自体の響きをできるだけ抑え、響きをデッドにした最新の映画館とコンセプトを同じにしています。プレゼンス音場に、オペラハウス音場データを使用。会話の定位、立体感に優れています。サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用、力強い響きとともにアクション、アドベンチャーなどのデザインされたサウンドを明確に再現し、痛快な臨場感をもたらします。
		ジェネラル General	70mm/ ドルビーデジタル、DTS および AAC マルチトラックのサウンドを再現するプログラムで、全体に柔らかい拡がり感のある響きが特長です。プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲とスクリーンの奥に立体的に再現されます。サラウンド音場は後方の広い空間に音楽やコーラス等のハーモニーが美しく響く印象です。
DD/DTS 9	ドルビー デジタル サラウンド エンハンスト DOLBY DIGITAL SUR. ENHANCED		ドルビーサラウンド、DTS サラウンドまたは AAC サラウンドのオリジナル定位を乱すことなく、正確なデコード動作と DSP 処理を行います。35mm 映画館のマルチサウンドスピーカーを、より理想的なものへシミュレーションした音場です。サラウンド音場は、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。
	サラウンド エンハンスト DTS SUR. ENHANCED		
	サラウンド エンハンスト AAC SUR. ENHANCED		
	サラウンド エンハンスト PRO LOGIC SUR. ENHANCED		2 チャンネル音声をマルチチャンネル化して、DSP 音場効果を付加します。

ストレートデコードプログラム

音場効果をかけずに元の音で再生したい場合は、下記のストレートデコードプログラムを選んでください。

本機には下記のデコーダーが搭載されています。
- マルチチャンネルソース用のドルビーデジタル、DTS、AAC デコーダー
- サラウンドバックチャンネル音声再生用のドルビーデジタル EX、ドルビープロロジック IIx、DTS-ES デコーダー
- 96kHz/24bit の高音質再生用の DTS 96/24 デコーダー
- ドルビーサラウンドと 2 チャンネルソース用のドルビープロロジック、ドルビープロロジック II、ドルビープロロジック IIx、DTS Neo:6 デコーダー

キー	プログラム	サブプログラム	特徴
DD/DTS 9	ドルビー デジタル サラウンド スタンダード DOLBY DIGITAL SUR. STANDARD		ドルビーデジタル、DTS、AAC で処理されたソースの再生用です。セパレーションに優れ、安定したデコードが得られます。
	サラウンド スタンダード DTS SUR. STANDARD		
	サラウンド スタンダード AAC SUR. STANDARD		
	プロ ロジック サラウンド スタンダード PRO LOGIC SUR. STANDARD		2 チャンネル音声をそれぞれの方式でマルチチャンネル化して再生します。
	プロ ロジック PRO LOGIC IIx	ムービー PLIIx Movie	
		ミュージック PLIIx Music	
		ゲーム PLIIx Game	
	プロ ロジック PRO LOGIC II	ムービー PLII Movie	
		ミュージック PLII Music	
		ゲーム PLII Game	
	DTS	ネオ シネマ Neo:6 Cinema	
		ネオ ミュージック Neo:6 Music	

ヒント

リモコンの STRAIGHT/EFFECT キーを押して、ストレートデコードモードに切り替えることもできます (☞50 ページ)。

その他の情報

入力信号別音場プログラム名一覧

SUR. ENHANCED プログラムおよびストレートデコードプログラムは、本機に入力されている信号の種類と、デコーダーの動作により名前が変わります。

プログラム / 入力信号	ストレートデコードプログラム	SUR. ENHANCED プログラム
アナログ PCM ドルビーデジタル（2ch） DTS（2ch） AAC（2ch）	PRO LOGIC / SUR. STANDARD PRO LOGIC IIx / PLIIx Movie PRO LOGIC IIx / PLIIx Music PRO LOGIC IIx / PLIIx Game PRO LOGIC II / PLII Movie PRO LOGIC II / PLII Music PRO LOGIC II / PLII Game DTS / Neo:6 Cinema DTS / Neo:6 Music	PRO LOGIC / SUR. ENHANCED
ドルビーデジタル	DOLBY DIGITAL / SUR. STANDARD DD + PLIIx Movie / SUR.STANDARD*1 DD + PLIIx Music / SUR.STANDARD*2 DOLBY DIGITAL EX/ SUR.STANDARD*3	DOLBY DIGITAL / SUR. ENHANCED DD + PLIIx Movie / SUR. ENHANCED*1 DD + PLIIx Music / SUR.ENHANCED*2 DOLBY EX / SUR.ENHANCED*3
DTS	DTS / SUR. STANDARD DTS + PLIIx Movie / SUR. STANDARD*1 DTS + PLIIx Music / SUR. STANDARD*2 DTS + DOLBY EX / SUR. STANDARD*3 DTS ES Mtrx6.1 / SUR. STANDARD*4 DTS ES Disc6.1/ SUR. STANDARD*5 DTS 96/24 / SUR. STANDARD*6	DTS / SUR. ENHANCED DTS + PLIIx Movie / SUR. ENHANCED*1 DTS + PLIIx Music / SUR. ENHANCED*2 DTS + DOLBY EX / SUR. ENHANCED*3 DTS ES Mtrx6.1 / SUR. ENHANCED*4 DTS ES Disc6.1 / SUR. ENHANCED*5
AAC	AAC / SUR. STANDARD AAC + PLIIx Movie / SUR. STANDARD*1 AAC + PLIIx Music / SUR.STANDARD*2 AAC + DOLBY EX / SUR.STANDARD*3	AAC / SUR.ENHANCED AAC + PLIIx Movie / SUR.ENHANCED*1 AAC + PLIIx Music / SUR.ENHANCED*2 AAC + DOLBY EX / SUR.ENHANCED*3

*1 ドルビープロロジックIIx デコーダー（Movie モード）動作時（DD PL IIx 点灯時）
*2 ドルビープロロジックIIx デコーダー（Music モード）動作時（DD PL IIx 点灯時）
*3 ドルビーデジタルEX デコーダー動作時（DD EX 点灯時）
*4 DTS-ES マトリクスデコーダー動作時（MATRIX インジケーター点灯時）
*5 DTS-ES ディスクリートデコーダー動作時（DISCRETE インジケーター点灯時）
*6 DTS 96/24 デコーダー動作時（96/24 点灯時）

入力信号と再生スピーカー対応表

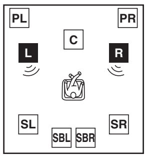
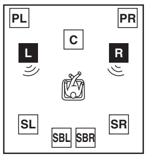
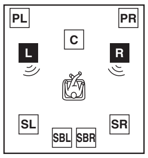
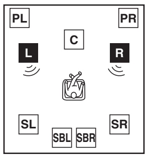
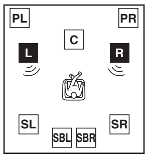
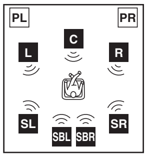
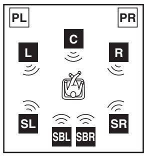
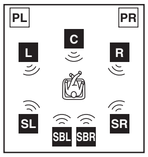
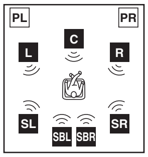
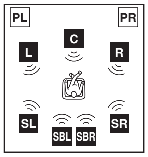
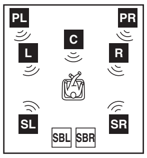
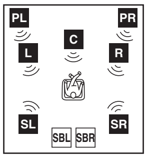
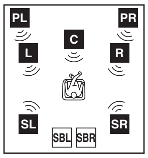
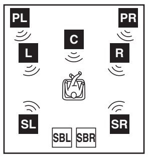
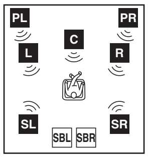
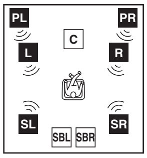
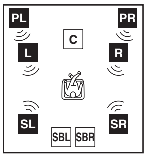
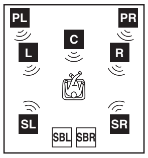
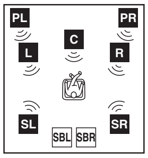
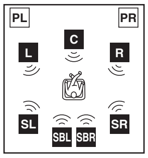
入力信号の種類によって、下図で示されたスピーカーから音声が出力されます。

ご注意

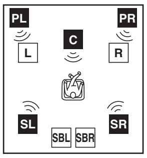
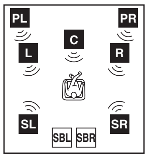
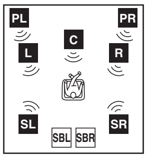
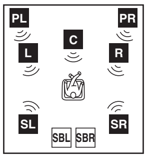
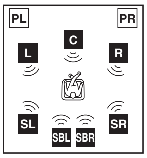
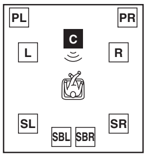
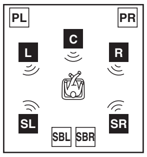
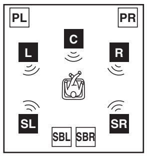
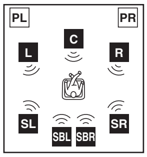
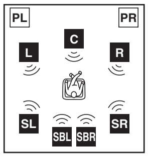
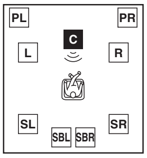
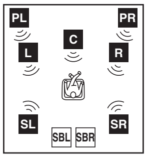
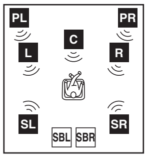
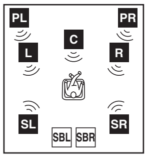
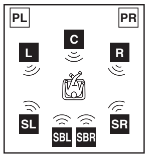
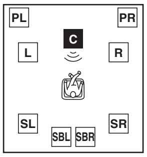
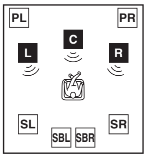
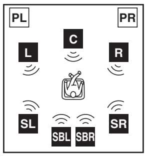
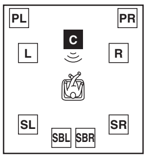
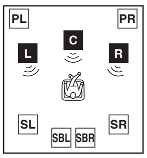
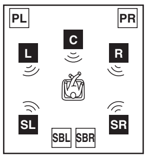
再生するソースによっては、スピーカーから音が出なかったり、小さい音しか出ない場合もあります。映画の効果音など、シーンに合わせて部分的にしか使われないチャンネルもあります。

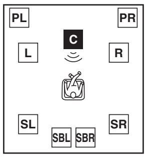
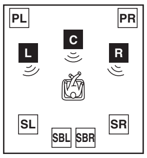
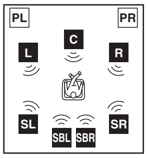
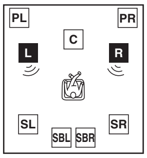
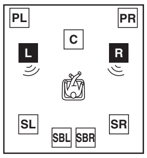
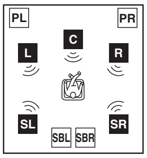
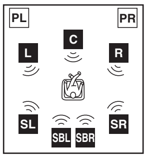
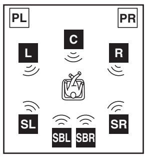
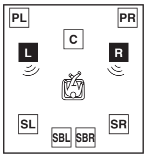
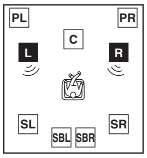
表中のイラストは以下の内容を示しています。

L： フロント L スピーカー
C： センタースピーカー
R： フロント R スピーカー
PL： プレゼンス L スピーカー
PR： プレゼンス R スピーカー
SL： サラウンド L スピーカー
SR： サラウンド R スピーカー
SBL： サラウンドバック L スピーカー
SBR： サラウンドバック R スピーカー
■： 音が出ているスピーカー
□： 音が出ていないスピーカー

	2 チャンネル音声（モノラル）	2 チャンネル音声（ステレオ）	5.1/6.1 チャンネル音声（DDEX/DDPLIIx/ES インジケーター消灯時）	5.1/6.1 チャンネル音声（DDEX/DDPLIIx/ES インジケーター点灯時）PR/SB SELECT：PRch に設定	5.1/6.1 チャンネル音声（DDEX/DDPLIIx/ES インジケーター点灯時）PR/SB SELECT：SBch に設定
STEREO 2ch Stereo					
STEREO 7ch Stereo	 サラウンドバック スピーカー接続時	 サラウンドバック スピーカー接続時	 サラウンドバック スピーカー接続時	 サラウンドバック スピーカー接続時	 サラウンドバック スピーカー接続時
	 サラウンドバック スピーカー未接続時	 サラウンドバック スピーカー未接続時	 サラウンドバック スピーカー未接続時	 サラウンドバック スピーカー未接続時	 サラウンドバック スピーカー未接続時
CONCERT HALL JAZZ CLUB ROCK CONCERT ENTERTAINMENT Disco					

その他の情報

	2 チャンネル音声（モノラル）	2 チャンネル音声（ステレオ）	5.1/6.1 チャンネル音声（DDEX/DDPLIIx/ES インジケーター消灯時）	5.1/6.1 チャンネル音声（DDEX/DDPLIIx/ES インジケーター点灯時）PR/SB SELECT：PRch に設定	PR/SB SELECT：SBch に設定
ENTERTAINMENT Game MUSIC VIDEO TV THEATER MOVIE THEATER					
SUR. STANDARD DOLBY DIGITAL PRO LOGIC DTS AAC	 PRO LOGIC	 PRO LOGIC			
SUR. ENHANCED DOLBY DIGITAL PRO LOGIC DTS AAC	 PRO LOGIC	 PRO LOGIC			
PRO LOGIC IIx PLIIx Movie PLIIx Music PLIIx Game	 Movie/Game  Music	 Movie/Music/Game	―	―	―
PRO LOGIC II PLII Movie PLII Music PLII Game	 Movie/Game  Music	 Movie/Music/Game	―	―	―

	2 チャンネル音声（モノラル）	2 チャンネル音声（ステレオ）	5.1/6.1 チャンネル音声 (EX/PLIIx/ES インジケーター消灯時)	5.1/6.1 チャンネル音声 (EX/PLIIx/ES インジケーター点灯時)	
				PR/SB SELECT : PRch に設定	PR/SB SELECT : SBch に設定
DTS Neo:6 Movie Neo:6 Music Neo:6 Game	 Cinema  Music	 Cinema/Music	―	―	―
STRAIGHT	 モノラル再生				
PURE DIRECT	 モノラル再生		―	―	―

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。対処しても正常に作動しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグを抜いて、お買上店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう	電源コードの接続がしっかり接続されていない。	電源コードを AC コンセントにしっかりと差し込んでください。	–
	（再度電源を入れたときに「CHECK SP WIRES」と表示される場合）スピーカーコードがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。	18～20
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	–
STANDBY/ON スイッチ（または SYSTEM POWER キー）を押しても電源が入らない	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードを AC コンセントにしっかりと差し込んでください。	31
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	–
使用中に突然電源が切れる	スリープタイマーが作動した。	電源を入れて、ソースを再生しなおしてください。	–
	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って（約 1 時間程度）、電源を入れなおしてください。	–
オンスクリーン表示が出ない	オンスクリーン表示の設定が「OFF」になっている。	フル表示またはショート表示に設定してください。	33
	セットメニュー「DISPLAY SET」の「GRAY BACK」が OFF に設定されている。	映像信号が入力されていないときは、表示されません。常に表示させる場合は、AUTO に設定してください。	66
音声や画像が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	22～24
	スピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	18～20
	音を出すスピーカーが、正しく選ばれていない。	SPEAKERS A/Bスイッチで、スピーカーを正しく選んでください。	40
	再生したいソースが、正しく選ばれていない。	INPUTセレクターやMULTI CH INPUTキーで、再生したいソースを正しく選んでください。	45
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	45
	消音されている。	リモコンのMUTEキーまたはVOL＋/－キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	45
	CD-ROMなど、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	–
音声が突然出なくなる	消音された。	リモコンの MUTE キーまたは VOL ＋ / － キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	45
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。また、スピーカーケーブルが断線していないか確認してください。	18～20 22～24

症状	原因	対策	参照ページ
エフェクトスピーカー（センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R）から音声が出ない	音場効果をかけずに再生している。	STRAIGHT/EFFECT キーを押して、音場効果をかけて再生してください。	50
	再生するソースと音場プログラムの組み合わせによっては、音が出ないチャンネルがあります。	他の音場プログラムをお試しください。	94 ～ 97
センタースピーカーから音声が出ない	センタースピーカーの音量が小さい。	センタースピーカーの音量を調節してください。	82 ～ 84
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「CENTER SP」を NONE に設定している。	お使いのセンタースピーカーに合わせて、LRG または SML に設定してください。	57
	HiFi DSP 音場プログラムを選んでいる。	他の音場プログラムをお試しください。	94 ～ 97
サラウンド L/R スピーカーから音声が出ない	サラウンド L/R スピーカーの音量が小さい。	サラウンド L/R スピーカーの音量を調節してください。	82 ～ 84
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「SURR L/R SP」を NONE に設定している。	お使いのサラウンド L/R スピーカーに合わせて、LRG または SML に設定してください。	57
	ストレートデコードモードでモノラルソースを再生している。	STRAIGHT/EFFECT キーを押して、音場効果をかけて再生してください。	50
サラウンドバックスピーカーから音声が出ない	サラウンドバックスピーカーの音量が小さい。	サラウンドバックスピーカーの音量を調節してください。	82 ～ 84
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「SURR L/R SP」を NONE に設定している。	「SURR L/R SP」を NONE に設定すると、自動的に「SURR B L/R SP」も NONE に設定されます。「SURR L/R SP」を LRG または SML に設定してください。	57
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「SURR B L/R SP」を NONE に設定している。	お使いのサラウンドバックスピーカーに合わせて、LRGx2、LRGx1、SMLx2、SMLx1 のいずれかに設定してください。	57
サブウーファーから音声が出ない	セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を FRNT に設定したまま、ドルビーデジタル、DTS および AAC 信号を再生している。	SWFR または BOTH に設定してください。	58
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を SWFR または FRNT に設定したまま、2 チャンネル信号を再生している。	BOTH に設定してください。	58
	再生しているソースに LFE や低音信号が含まれていない。		–
ドルビーデジタルまたは DTS ソフトの再生ができない（本機のディスプレイのドルビーデジタルまたは DTS インジケーターが点灯しない）	接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」かつ「ドルビーデジタルまたは DTS」に設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書をご覧のうえ、正しく設定してください。	–
	入力モードを ANALOG に設定している。	AUTO に設定してください。	81
低音の再生不良	セットメニュー「SPEAKER SET」の「CROSS OVER」が正しく設定されていない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて、正しく設定してください。	58
	セットメニュー「SPEAKER SET」の設定が実際のスピーカーシステムの構成と一致していない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて、各スピーカーを正しく設定してください。	57、58
ハム音が出る	ステレオピンケーブルがしっかり接続されていない。	ステレオピンケーブルをしっかり差し込んでください。	22 ～ 27、29、30
	レコードプレーヤーのアースが SIGNAL GND 端子に接続されていない。	アースコードを本機の SIGNAL GND 端子に接続してください。	22、24
レコードの再生音が小さい	MC カートリッジが装着されたレコードプレーヤーで再生している。	MC ヘッドアンプまたは MC トランスを介してレコードプレーヤーを本機に接続してください。	22、24

症状	原因	対策	参照ページ
音量を上げることができない、または音が歪んでいる	本機の出力端子に接続された機器の電源が入っていない。	AV アンプという製品ジャンルの特性上、出力端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	–
サラウンドと音場効果を付加した音を録音できない	サラウンドと音場効果を付加した音は録音できません。		–
録音できない	デジタル録音時にアナログで信号を入力している。	デジタル接続をして、デジタルで信号を入力してください。	22 ～ 27
	本機と再生機器および録音機器がデジタル接続されていない。	デジタル接続をしてください。	22 ～ 27
	アナログ録音時にデジタルで信号を入力している。	アナログ接続をして、アナログで信号を入力してください。	22 ～ 27
	本機と再生機器および録音機器がアナログ接続されていない。	アナログ接続をしてください。	22 ～ 27
	録音機器によっては、ドルビーデジタル、DTS および AAC などのデジタルデータを録音できません。		–
音場プログラムパラメーターやセットメニューの設定値を変更できない	セットメニュー「MEMORY GUARD」を ON に設定している。	OFF に設定してください。	67
セットメニューなどの設定内容が消えている	1 週間以上電源コンセントを抜いていたり、外部タイマーが切れたままになっている。	1 週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう一度設定しなおしてください。	–
本機が正常に作動しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	–
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴くと、音が歪む	本機の電源がスタンバイ状態になっている。	本機の電源を入れてください。	39
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。	–

FM/AM放送の受信

症状		原因	対策	参照ページ
プリセット選局ができない		プリセット（メモリー）が消えている。	1 週間以上電源コンセントを抜いたままにしておくと、内蔵メモリの内容が消えてしまうことがあります。もう一度プリセットしてください。	51 ～ 53
FM	オート選局ができない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	マニュアル選局をしてください。	43
			屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてみてください。	–
	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	28
			屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	–
			マニュアル選局をしてください。	43
	FM 専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	–
AM	オート選局ができない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AMループアンテナの方向を変えてください。	28
			マニュアル選局をしてください。	43
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM 屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	–
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機とテレビを離して設置してください。	–

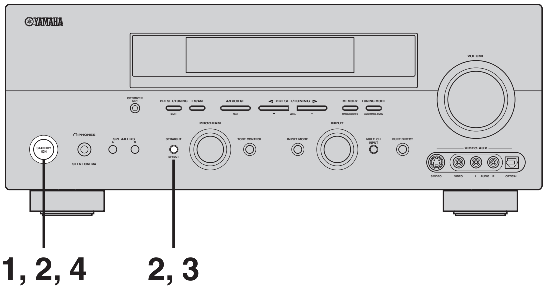
リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光窓から 6m 以内、30°以内の範囲で操作してください。	32
	受光窓に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	–
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	32
外部機器がリモコンで操作できない	操作する機器が選ばれていない。	入力選択キーを押して、操作したい機器を選んでください。	69
	メーカーコードが正しく設定されていない。	メーカーコードを設定しなおすか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	71
	メーカーコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	メーカーコードを設定しても操作できない機器は、その機器のリモコン信号を本機のリモコンに記憶（ラーニング）させてください。	76
リモコンが新しい機能を記憶（ラーニング）しない	本機のリモコンまたは他の機器のリモコンの電池が消耗している。	電池を交換してください。	32
	2 台のリモコン間の距離が離れすぎているか、近すぎる。	2 台のリモコンを 5 ～ 10cm の距離に配置してください。	76
	他の機器のリモコンの信号コードと本機のリモコンとの互換性がない。	記憶（ラーニング）できません。	–
	メモリー容量がいっぱいになっている。	すでにラーニングされている機能のうち、不要なものを消去してください。	80

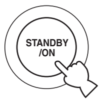
全設定を初期設定に戻す

変更したセットメニューの設定や音場プログラムパラメーター、プリセットされたFM/AM放送局などをすべて初期設定に戻すことができます。

フロントパネルで操作します。

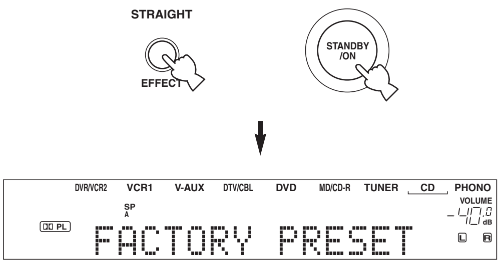


1 本機の電源をスタンバイ状態にする。



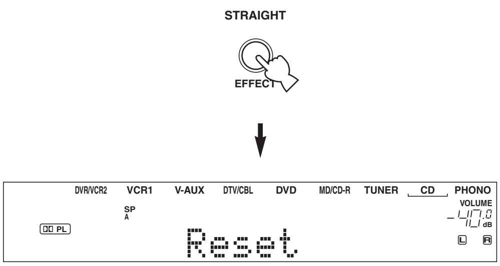
2 STRAIGHT/EFFECTキーを押しながら、STANDBY/ONスイッチを押す。

本体ディスプレイに「FACTORY PRESET」と表示されます。

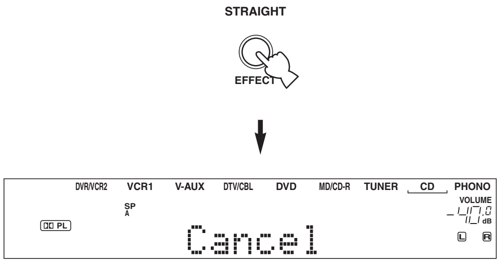


3 STRAIGHT/EFFECT キーを押す。

本体ディスプレイに「Reset」と表示されます。



初期設定に戻すのをやめる場合は、もう一度STRAIGHT/EFFECTキーを押して、本体ディスプレイに「Cancel」を表示させます。



4 STANDBY/ONスイッチを押す。

「Reset」を選んだ場合は、全設定が初期設定に戻ります。

音声フォーマット編

ドルビーサラウンド
ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロントL/Rチャンネル（ステレオ音声）、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声）、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）の、アナログ４チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。本機に内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

ドルビーデジタル
ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント３チャンネル（フロントL/R、センター）と、サラウンド２チャンネル（サラウンドL/R）、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
サラウンド２チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の５チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。

ドルビーデジタルサラウンドEX
本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、ドルビーデジタルサラウンドEXソフト対応のドルビーデジタルEXデコーダーを内蔵しています（サラウンドバックチャンネルはサラウンドLとサラウンドRチャンネルから作られます）。
ドルビーデジタルサラウンドEXで録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

ドルビープロロジックII
２チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMovieモードと、音楽などのステレオソース用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の２チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

ドルビープロロジックIIx
２チャンネルで記録された音声はもちろん、マルチチャンネルで記録された音声をも信号処理し、自然な7.1チャンネル音声をフルレンジで再生します。
映画用のMovieモード、音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）
MPEG-2オーディオ規格の１つで、BS/地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で７チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機はAACデコーダーを搭載しているので、BS/地上波デジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード（復号）して再生できます。

DTS（デジタル・シアター・システムズ）デジタルサラウンド
ＤＴＳデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。この技術を家庭用に調整したものが、本機で採用しているDTSシステムです。
極めて劣化が少なく、クリアな音質の６チャンネル（フロントL/R、センター、サラウンドL/Rチャンネル、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル）で構成されています。

DTS-ES
本機は5.1チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にする、DTS-ESデコーダーを内蔵しています。5.1チャンネルの信号と独立して記録されたサラウンドバックチャンネル信号を再生する、ディスクリート方式と、サラウンドL/Rチャンネル信号からサラウンドバックチャンネル信号を生成して再生する、マトリクス方式の２つの方式に対応しています。
DTS-ESで録音された音楽や、映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。

DTS Neo:6
2 チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた 6 チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用の Music モードと、映画用の Cinema モードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

DTS 96/24
DTS 96/24フォーマットで収録されたソフトに記録されている、DTS 信号の拡張用データを使用して「サンプリング周波数 96kHz/ 量子化ビット数 24 ビット」の高音質での 5.1 チャンネル再生が可能です。

音場プログラム編

サイレントシアター
ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。
音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

シネマ DSP
(デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー)
ドルビーサラウンドや DTS のシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマ DSP は、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTS のシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

バーチャルシネマ DSP
サラウンドL/Rスピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンドL/Rスピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。
センタースピーカーを設置できない場合でも、フロントL/Rスピーカーだけで、バーチャルシネマ DSP をお楽しみいただけます。

音声編

サンプリング周波数
アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1 秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

量子化ビット数
アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。
音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

LFE（ローフリケンシーエフェクト）0.1 チャンネル
音声成分の帯域が 20 〜 120Hz の、低音域専用チャンネルです。
ドルビーデジタルと DTS、AAC で、全帯域用の 5 チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1 と表現されます。

PCM（リニア PCM）
MP3 形式や ATRAC 形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。
「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽 CD や、DVD オーディオの録音方法などで採用されています。PCM 方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える（サンプリング）手法を用いています。

映像編

コンポジットビデオ信号
輝度を表すＹ信号と、色を表すＣ信号をひとつにまとめて伝送する方式です。テレビのNTSC信号などが採用しています。

コンポーネントビデオ信号
映像信号を、輝度を表すＹ信号と、色を表すPB/CB信号およびPR/CR信号の3系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表わす信号から輝度を表わす信号を引いているので、色差信号とも呼ばれます。

Ｄ端子
最新のＡＶ機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比、インターレース / プログレッシブの情報）を、１本の専用ケーブルで接続できます。
その性能に応じてランクがＤ１からＤ５に分けられています。本機にはD4ビデオ端子が装備されており、D1からD4の規格に対応しています。

Ｓビデオ信号
映像信号を、輝度を表すＹ信号と、色を表すＣ信号に分けて伝送する方式です。Ｓビデオ端子で接続すると、より美しい映像で録画 / 再生をお楽しみいただけます。

主な仕様

オーディオ部

定格出力（6Ω、20Hz ～ 20kHz、0.09% THD）
　フロント、センター、サラウンド、
　サラウンドバック......................................100W
実用最大出力（EIAJ、6Ω、1kHz、10% THD）
　フロント、センター、サラウンド、
　サラウンドバック......................................140W
ダイナミックパワー（IHF）
　6/4/2Ω 140/170/215W
ダンピングファクター（8Ω、20Hz ～ 20kHz）
　フロント L/R.. 100 以上
入力感度 / インピーダンス
　PHONO（MM）.......................... 2.5mV/47kΩ
　CD 他.. 200mV/47kΩ
　MULTI CH INPUT 200mV/47kΩ
出力電圧 / インピーダンス
　REC OUT 200mV/1.2kΩ
　PREOUT 2.0V/1.2kΩ
　SUBWOOFER...............................4.0V/1.7kΩ
ヘッドホン出力 / インピーダンス
....150mV/100Ω
周波数特性
　CD 他－フロント L/R
　.............................10Hz ～ 100kHz、－ 3.0dB
全高調波歪率（20Hz ～ 20kHz）
　PHONO（MM）－ REC OUT....... 0.02% 以下
　CD 他－フロント SP OUT（50W、8Ω）
　..0.06% 以下
S/N 比（IHF-A ネットワーク、入力ショート）
　PHONO（MM）－ REC OUT..........80dB 以上
　CD 他（250mV 入力）－ SP OUT
　..100dB 以上
残留ノイズ（IHF-A ネットワーク）
　フロント SP OUT .... 150μV 以下
チャンネルセパレーション
（5.1kΩ ターミネート、1kHz/10kHz）
　CD 他.............................60dB 以上 /45dB 以上
トーンコントロール
　BASS .... ± 6dB/50Hz
　TREBLE .... ± 6dB/20kHz

ビデオ部

ビデオ信号方式 ....NTSC
S/N 比...50dB 以上
周波数帯域（MONITOR OUT）
　VIDEO、S VIDEO
　.................................... 5Hz ～ 10MHz、－ 3dB
　COMPONENT VIDEO、D4 VIDEO
　.................................... 5Hz ～ 60MHz、－ 3dB

FM チューナー部

受信周波数........................ 76.0MHz ～ 90.0MHz
実用感度（IHF）.......................1.0μV（11.2dBf）
S/N 比（IHF）
　モノ / ステレオ 76dB/70dB
歪率（1kHz）
　モノ / ステレオ 0.2%/0.3%
ステレオセパレーション（1kHz）................ 42dB
周波数特性...... 20Hz ～ 15kHz、＋ 0.5/ － 2dB

AM チューナー部

受信周波数...........................531kHz ～ 1611kHz
実用感度.. 300μV/m

総合

電源電圧...............................AC100V、50/60Hz
消費電力...295W
待機時消費電力 0.1W
AC アウトレット（電源スイッチ連動× 2）
.... 合計 100W
寸法（幅×高さ×奥行き）
.... 435 × 171 × 420mm
質量... 12.5kg

※仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

索引

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。
このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

■製品の機能や取扱いに関するお問い合わせは

お客様ご相談センター
TEL　(0570) 01 - 1808（ナビダイヤル）
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL（053）460 - 3409

FAX　(053) 460 - 3489
住所　〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1
ご相談受付時間　10:00～12:00、13:00～18:00
（日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。）

■製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせは

（ヤマハ電気音響製品サービス拠点）

北海道	〒064-8543	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL (011) 512 - 6108
仙台	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL (022) 236 - 0249
首都圏	〒143-0006	東京都大田区平和島2丁目1番1号 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F TEL (03) 5762 - 2121
浜　松	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ（株）和田工場内 TEL (053) 465 - 6711
名古屋	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL (052) 652 - 2230
大　阪	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ（株）千里丘センター内 TEL (06) 6877 - 5262
四　国	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 （株）ヤマハミュージック神戸 高松店内 TEL (087) 822 - 3045
九　州	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472 - 2134

愛情点検

★永年ご使用の製品の点検を！

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

● 保証期間
お買い上げ日より1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
- ◆ **技術料**　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- ◆ **部品代**　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- ◆ **出張料**　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 持ち込み修理のお願い
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品（下記参照）が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハオーディオ＆ビジュアルホームページ
http://www.yamaha.co.jp/audio/

YAMAHA

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中沢町10-1

Printed in Malaysia　WC85480-1

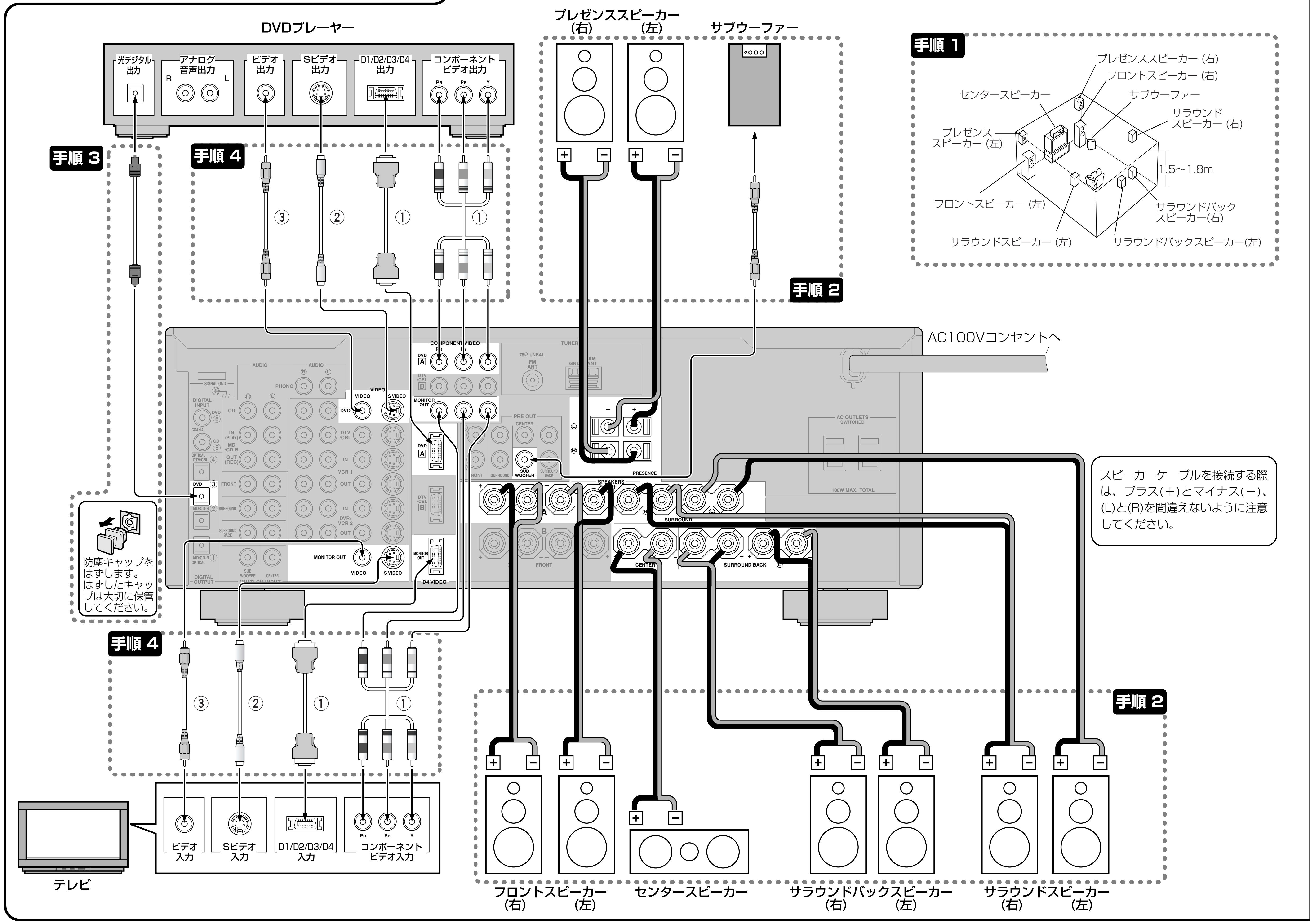
YAMAHA

DSP-AX750

簡易接続ガイド

DVD プレーヤーを接続する

DVDプレーヤーを接続して、デジタルソースを楽しむための基本的な接続のしかたを説明します。



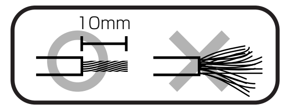
本機および接続するすべての機器の電源コードがACコンセントに接続されていないことを確認してください。

手順1 スピーカーの設置場所を決める

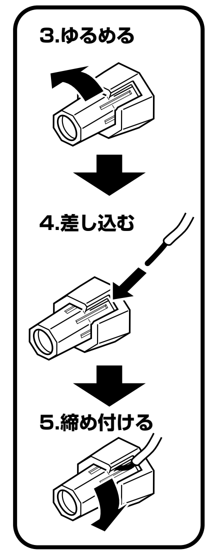
※取扱説明書の18ページをご覧ください。

手順2 スピーカーケーブルを接続する

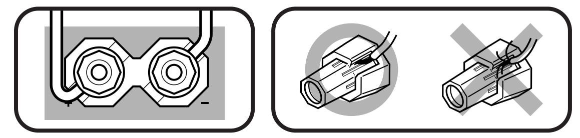
1. スピーカーケーブル先端部の絶縁部を10mmくらいはがす。
2. 芯線をしっかりとよじる。



芯線をしっかりとよじらないとショート(短絡)の原因になります。



3. スピーカー端子を左に回してゆるめる。
4. スピーカー端子のわきの穴にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。



スピーカーケーブルは端子の穴に、しっかりと差し込みます。プラス(+)とマイナス(−)がショート(短絡)していたり、絶縁部分(ビニール)まで差し込むと、故障や音が出ない等の原因になります。

5. スピーカー端子を右に回して、締め付ける。
6. サブウーファーはサブウーファー用ピンケーブルで本機と接続する。

手順3 音声ケーブルを接続する

DVDプレーヤーの光デジタル出力端子を光ファイバーケーブルで本機の光デジタル入力(DVD)端子に接続する。

※ DVDプレーヤーのデジタル音声出力端子が同軸デジタル端子の場合は、同軸デジタル入力(DVD)端子に接続してください。詳しくは取扱説明書の22、23ページをご覧ください。

手順4 映像ケーブルを接続する

映像端子は、図にあるすべての端子を接続する必要はありません。お使いになるDVDプレーヤーとテレビの端子をご確認のうえ、両方に共通する端子を使って接続してください。

※ 最良の画質でお楽しみいただくためにも、なるべく高品位な端子を使って接続してください。端子による画質の違いについては、下記の「映像端子による画質の違い」をご覧ください。

※ テレビに複数の端子を使って接続した場合には、テレビ側で入力の選択を行ってください。

※ ビデオコンバージョン機能により、DVDプレーヤーとテレビの端子が違う場合でも、映像をお楽しみいただけます。詳しくは裏面の「ビデオ信号の変換について」をご覧ください。

映像端子による画質の違い

接続する端子によって画像の質が異なります。
できるだけ画質の良い端子を使って接続することをおすすめします。

＜画質＞	＜端子の種類＞
① 最良	D端子 コンポーネントビデオ端子
② 良い	Sビデオ端子
③ 通常	ビデオ端子

手順5 DVD を再生する

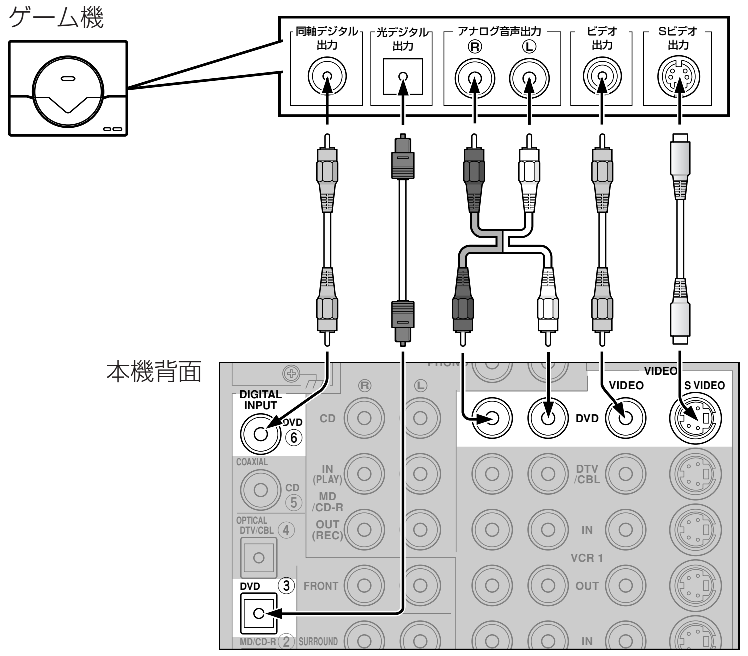
※ 取扱説明書の39〜41ページをご覧ください。DVDプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

Printed in Malaysia WC85540

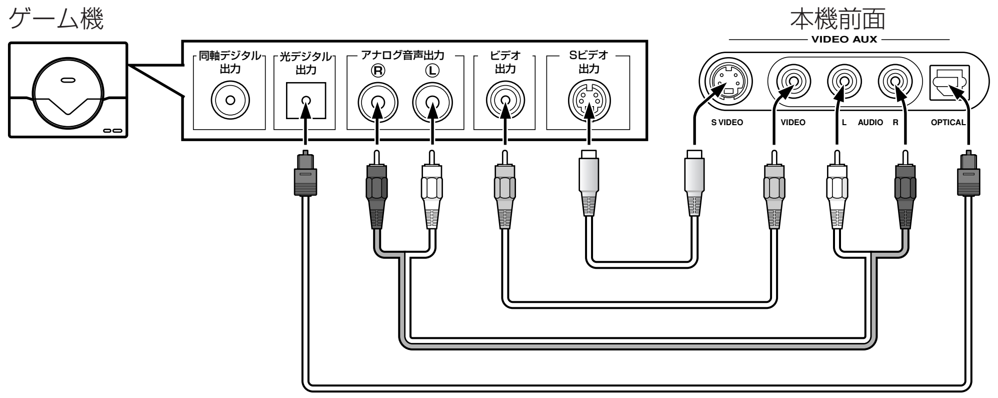
さまざまな機器を接続する

DVDプレーヤー機能つきゲーム機器の接続

本機の DVD の端子に接続することができます。



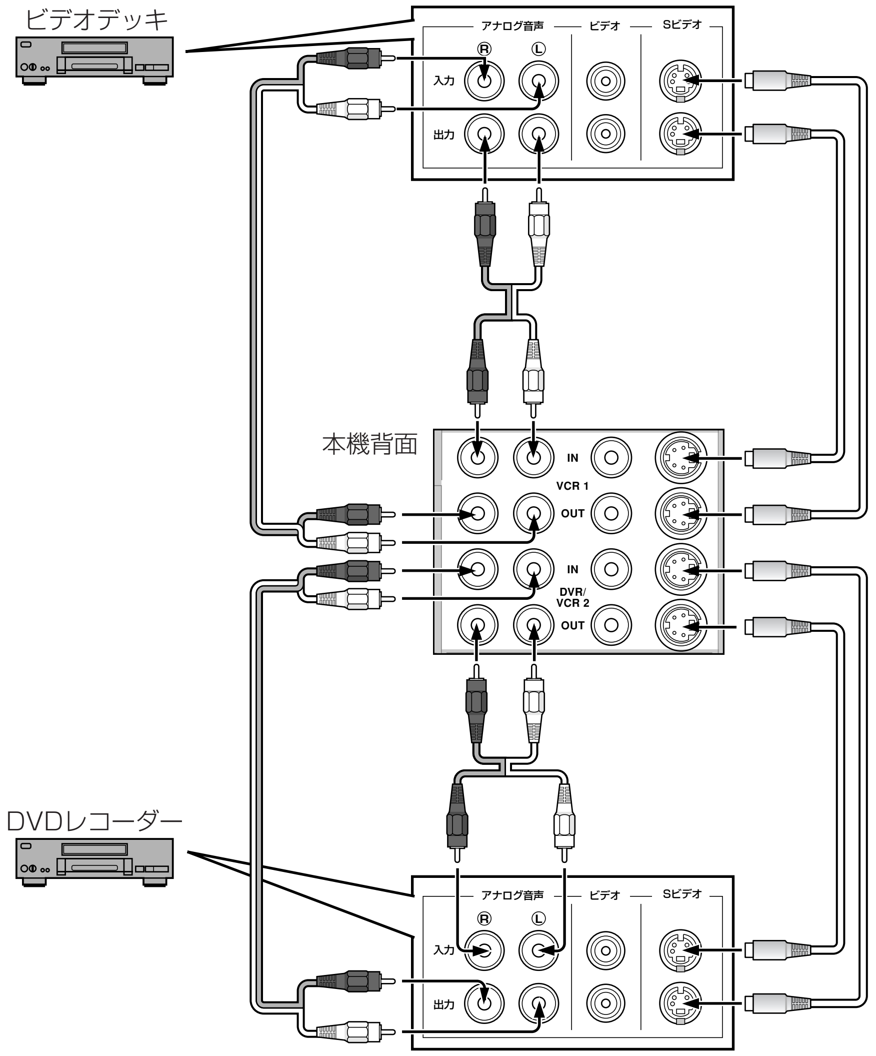
本機前面からの接続



※ テレビにSビデオ端子がある場合には、Sビデオケーブルで接続するとビデオ端子よりも高画質な映像を再生できます。

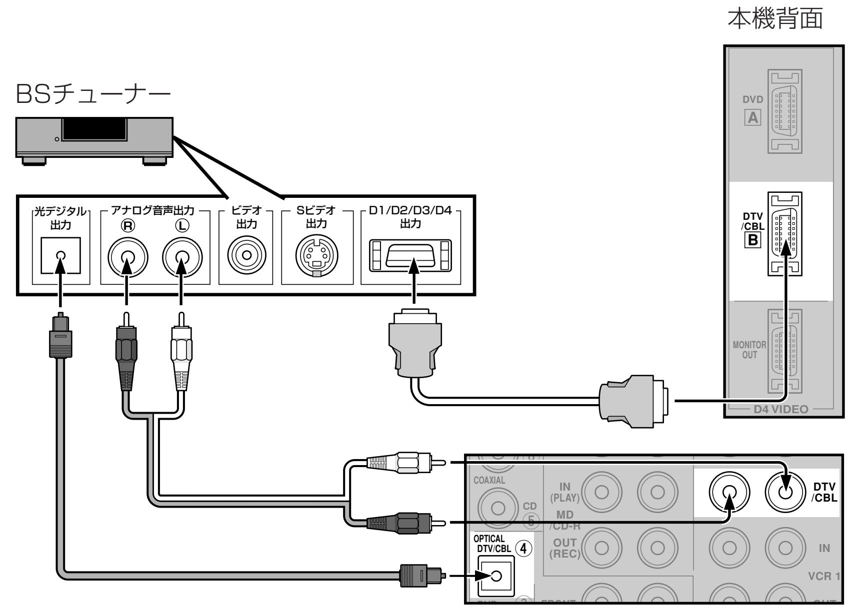
録画機器/再生機器の接続

DVD レコーダーは VCR2/DVR 端子に接続します。
ビデオデッキは VCR 1 端子に接続します。



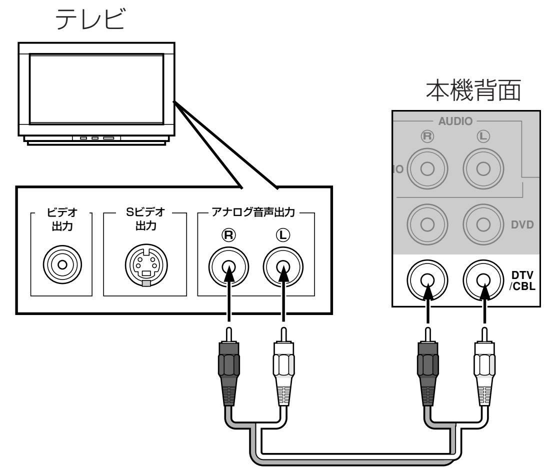
※ DVDレコーダーの音声・映像を楽しむためには、本機のINPUTセレクターまたはリモコンの入力選択キーで「DVR/VCR2」を選択します。ビデオデッキの音声・映像を楽しむためには、本機のINPUTセレクターまたはリモコンの入力選択キーで「VCR 1」を選択します。
※ DVDレコーダーのかわりにビデオデッキを接続できます。
※ テレビ、DVDレコーダー、ビデオデッキにSビデオ端子がない場合は、ビデオ端子で接続してください。
※ DVDレコーダーの音声をデジタルで楽しみたいときは、DVDレコーダーを光ファイバーケーブルで接続します。詳しくは取扱説明書の25、26ページをご覧ください。

BSチューナー、ケーブルテレビの接続



※ BSチューナー、ケーブルテレビの音声・映像を楽しむためには、本機のINPUTセレクターまたはリモコンの入力選択キーで「DTV/CBL」を選択します。
※ テレビにD端子がない場合は、Sビデオ端子またはビデオ端子で接続してください。

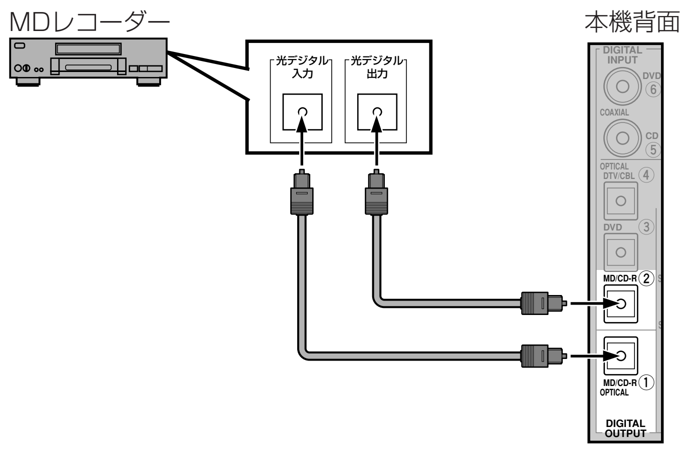
テレビの音声の接続



※ テレビの音声を楽しむためには、本機のINPUTセレクターまたはリモコンの入力選択キーで「DTV/CBL」を選択します。

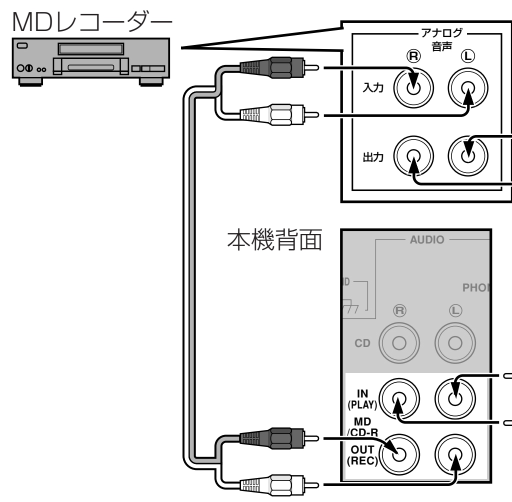
MDレコーダーの接続

デジタル音声の録音 / 再生



※CDレコーダーでも同様に接続できます。

アナログ音声の録音 / 再生



ビデオ信号の変換について

入力されたSビデオ信号は、ビデオ信号またはコンポーネントビデオ信号に変換され、ビデオ（MONITOR OUT）端子、コンポーネントビデオ（MONITOR OUT）端子、および D4 ビデオ（MONITOR OUT）端子にも出力されます。
また、ビデオ信号は、Sビデオ信号またはコンポーネントビデオ信号に変換され、Sビデオ（MONITOR OUT）端子、コンポーネントビデオ（MONITOR OUT）端子、D4 ビデオ（MONITOR OUT）端子にも出力されます。

⟹......... セットメニュー「DISPLAY SET」の「V CONV.」がONの時のみ変換されます。
※取扱説明書の66ページをご覧ください。

